ニューカナディアン

THE NEW CANADIAN
479 Queen St. W.
Toronto M5V 2A9
Tel. 868-6005

Second class mail
No. 0366

一九七八年度
特別号（三）

日本とカナダの交流に想うこと

在日本　竹中　豊

「星の空よりなお澄んで
いたずら好きなあのひとみ
来国カナダは雪の色」
（楓　湖庵）

一九七八年秋、日本の大学生の間でちょっとしたカナダ・ブームが起りはじめた。それも軽佻浮薄な態度ではなく、カナダを本格的に理解してゆこうという真摯な姿勢が目立っていた。

九月には国際経済商学学生協会——国際的な学生組織体で、日本では全国の主要大学が加盟している——が、カナダ研究者を招いて勉強会を開いた。十一月には津田塾大学の大学祭において、あるグループが「メッセージ・フロム・カナダ」と題し、カナダをとりあげた。モーザー・カナダ大使館書記官や在京カナダ研究者がメイン・ゲストとしてそれに招かれたのだった。さらに同月、慶應義塾大学の三田祭で「日加関係を語る」という題のもとに、ゴーラム・カナダ大使館公使や研究者らが集い、公開座談会も開かれた。

幸いにして、私はこれらすべてにかかわりあったのだが、いずれも学生側の取り組み方は真剣で、又、会場も盛況であった。こうした活動を通じて、若い学生層の間にまだわずかとはいえ、カナダ理解の態度が芽ばえつつあるのは、喜こばしい限りである。二、三年前の状況を思い浮べると、百名近い学生を前にカナダについてこうした話をする機会などは、とうてい考えられなかった。大げさにいえば、まさに隔世の感がする。

そこで、ことさら日加交流に限らずとも、国際理解にとって大切なことは何だろうか、と考えてみたくなる。確かに、国と国とのお付き合いには、貿易や外交上の実務的レベルによる接触が不可欠である。実利実益に則した実際的付き合い方が先行するのは、ある意味で当然かもしれない。

だが、いつまでもこれだけに頼っていてよいものだろうか。政治経済先導型だけの国際交流は、何ともはやギスギスしていてやりきれない。日加両国人が、お互い口を開けば円とドルの話ばかり、ナンテいかがなものか。かって西欧のある知識人が、金もうけに奔走している日本のビジネスマンを皮肉って、こう言ったものだ。「魂の抜けた成金」と。

それは極論としても、私は政治的経済取極めのみによる国際理解や平和というものに、疑問を抱いている。国同志の永続的で誠実な付き合いのためには、単なる外面的な接触頻度の多さだけでは実り少ないだろう。なぜならば、言葉は通じても、心までは通じにくいだろうから。近視眼的発想法に基き、その場しのぎのやっつけ仕事的交際法となれば、これはもう論外である。

従って、政治経済に立脚した相互交流の重要さを認識しつつも、それ以外に文化的活動を通じて、お互いの心の中に深く沈澱してゆく地道な努力、そしてその積み重ねが不可欠だと私は思う。こうした知的・精神的連帯の上に立ってこそ足が地についた国際交流が可能となろう。こと日加に限っていえば、前述した学生達のささやかな活動は、その一端でもあろう。また、先般東京で正式に誕生した「日本カナダ学会」は、その将来の大きな支柱を担っているとしても過言ではなかろう。

実利実益をひとまず外に置き、学問・文化そして草の根的交流等を通じて相互理解を行なってゆこうという態度、これなくしては、いくら多量の日本製品をカナダに売り込んだところで、砂の上に城を建てるようなものだ。下手をすると、それは疑惑と不信をよび起し、最悪の場合には、実力闘争になりかねない。

だが、悲惨な大戦を体験した世界の諸先輩方は、幸いにも国連のユネスコ憲章の中で、我々に良い知恵を授けてくれた。「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」。

（文化學院講師）

引退しておもう

ウ市　平山　一郎

あの悪夢のようなパールハーバーの襲撃で思いもよらず生れ故郷を後にして止むなく家族で移動出来るマニトバ州の砂糖大根の栽培地に移って来た三十六年前は未だ二十九歳の青年であった私が、去る九月三十日で満六十五歳を迎えて社会の第一線から引退、悠々自適の生活に入った。今更の様に歳月の流れの速さに驚かされる。

生活の根底を奪われて平原州の真只中に放り出された時は、丁度アザラシが陸に上った様なぶざまな姿であった。三人の幼い子供の養育と五人家族の生活のために敵国人としての私達に与えられる最低の仕事にも選り好み等もせず、馬車馬の様に脇目もふらず働いてきた。戦前の私を知る友人達は「平山が毎日弁當箱を下げて通勤する姿が見たい」とまで云った程であった。三十代、四十代は全く何時過ぎたのか、自分自身にも不思議な様な気がする。比較的健康で重労働にも堪え得る体格が資本であった私は、如何なる仕事にも適應して肉体的に疲れを覚えた事はなかった。

妻が一九六七年、日本を訪れて帰ってから身体の調子が悪くなり医師達にも色色調べて貰ったが原因が解らず二ヵ年が過ぎ漸く肝臓だと解った時には既に手遅れであった。六年間の闘病生活で病む妻もさぞ辛い事であろうと思われたが、仕事の傍ら病妻の看病に昼夜の別もなかったあの頃の精神的な疲れは今想ってもよくやったとしみじみ思う。

三十五年苦楽を共にした妻に逝かれた時は私の人生は終ったとあきらめ、廣い世界の何十億かの人間の中から何故私の妻を奪わねばならなかったかと世を恨み、神をのろったこともあった。然し、優しい子供達や親しい友人達に慰められ励まされて時がたつに従って多少の希望もわいて来て周囲のすすめもあって再婚にふみきった。

幸い優しい妻で、私の子供達とも親しく本當の母子の様に圓滑にやってくれて私も幸福を取り戻す事が出来て、始めて神の試練に堪え得た喜びを味っている。

私が引退する事になった時も最も喜んでくれたのは妻と子供達であった。私自身も健康に恵まれて停年まで勤めることが出来たことを感謝しているが、社会の第一線から退く事にはある心淋しさを感じない事もなかった。

この度私の引退を記念して去る十一月十一日（休戦記念日）に親類、友人百数十名をラマダ・インに招待して祝宴を催してくれたのも子供達であった。私が今日まで通って來た茨の道を知ってくれればこその催しであったと感謝している。殊に妻の子供達まで私の祝宴に進んで盡力してくれた事は私に取って大きな感謝であった。

さていよいよ引退して余りにも無爲な毎日に退屈するのではないか、また運動不足で益々肥えるのではないかと案じていたがその心配もなさそうである。引退と同時にかねて心に計画していた「自叙傳」の執筆を始めたり、好きなガーデンや鉢植をいぢったり、又かねて失礼をしていた先輩友達にも通信を書いたりして結構毎日を楽しんでいる。自叙傳は記憶をもとにしたもので、仲々進まぬ個所も多々あるが現に角日英両文で何年かの後に出来上るであろう。目的は私の辿った人生航路を子供達や孫達にも知って貰いたいと思う親心に過ぎない。

今迄相当の重労働に永年馴らされて来た身体が急に楽になり、時間的にも余裕のある生活にはいったので毎日が勿体ない様な気もする昨今である。時折り友人達に引退の感想を尋ねられる事があるが、クインの生活ですと答えている。別にどうしても出なければならぬ事もなく、好きな時に好きな事の出来る生活、それは六十五歳までカナダの国に貢献して来たための恵みであると感謝して毎日である。

歓びの日々

宮澤　波冷

神から頂いたこの生命
父母から與えてもらった
このからだ
尊い生命とからだ
この世にある限り
出來る限り大切にしてゆく
のが私の義務であります
佛教的にいうなれば
慈悲の光明にいだかれて
キリスト教的に云えば
限りなき愛に浴しつつ
毎日を恵まれて生き永らえ
て來た
今日も一日無事に過ごさせ
て頂いた事の歓び
感謝の念がヒシヒシと浮かんで來る
おのづから出る感謝の祈り
静かな夕暮
ああ神よ
亡き父母よ
静かに時を刻む時計の音

睫毛

小財　新句浪

古時計の歯車の様に時を刻んで流れ　又一年は過ぐ
本を伏せ　長椅子の中に身を沈めて　靖かに　静かに
眼を閉ざる　想出はただ
胸に息を潜める　あの時
其の頃　音もなく　行き交ふ　親しい顔の一つ一つに
心地よく　うなづき返えして行く　あらゆるものが
皆會釋して　影深い　睫毛の裡に去來する。

生命の本質

中山　吾一

南アメリカのブラジル、アルゼンチン、パラグワイの三国が接するところにイグワースの瀧といって、若し世界一でなかったら世界第二の大瀑布がある。それを観光した者は誰でもその美しい偉観に驚嘆しない者はない。私はこの大瀑布から落ちる一滴の水について瞑想したことがある。

その一滴の水はどうなるのであろうか。流れ流れて大西洋にはいって行くかも知れない。或は暑い南米の太陽に照らされて蒸発し空中に上り雲になるかも知れない。又はパラナ河畔のジャングルの何れかの植物に吸いこまれて、水か草の生命の一部になっているかも知れない。何れにしても一滴の水は、瀧から落ちて見えなくなっても、無くなってしまったのではない。

そのように、次第に世を去って行く多くの友達、死るとともに消滅するのではない。神の創造された最高・最貴の人間は永遠に生きるのである。死の門をくぐって靈界の世界に生きるのである。ただ地上にのこる我等の目で見ることが出来ないだけである。

では我等の生命は死後は何處へ行くのであろうか。聖書には明らかに靈の世界天國に行くと記されている。しかし、愛の天の父なる神にその獨り子、救主を信ずるという条件がついている。惡人は惡人になる處へ行くとは、少し物を考える人には誰にでも判る、原因と結果の法則である。

人は皆何時かは死ぬ。死後の運命の決定は現在の我等の心構えと行動によって決定するとも言えよう。

「少なく蒔く者は少なく刈り、多く蒔く者は多く刈る」とは同じ道理を言ったのであろう。永遠の生命の存在を信じる者には大きな希望と喜びが心にあふれる。

偶感

〃市　北見　巴

カナダの移民史も百年を実験した。過去をふり返ってみて、おたがい随分と苦労したものだとつくづく想わずにいられない。特に戦争中、一世の苦労は並大抵のものではなかったことと想う。

十分でない英語、習慣のまるで違う生活、そして差別との斗い、それこそ血と汗と涙の物語の連続であったことだろう。私は明治に近い大正生れで、孤島のジャングルでの苦労やなにやら色々あった。何回も死ぬ思いもした。しかしそのようなひどい環境の中でいつも心の支えになったのは「おれは日本人」ということでなかったろうか、と今想い起す。人にとって故郷ほどよいものはない。時にふれ折にふれ組国を想い故郷の山河をなつかしんだものだった。

一世も今は永住權もとり子供たちも成長し、二世、三世とそれぞれ実社会で活躍している。住めば都でここを青山と決めァ適當に自由を楽しんでもいる。

とかく若い時分には老年のことなど思い到らないのが普通で、十六歳の少女に老年のことを想って——などといっても失笑を買うばかりである。然が年とって死ぬなどと考えないのと同じであろう。それはそれなりでいいことなのだと思う。

家の表通りを子供達が黄色いカン聲を上げて走り回っている。友を呼ぶあの元気のよいカン聲は黄色いとか、カナ切り聲とかの表現にふさわしいほどバイタリティ溢れる雄叫びという感じである。また、近くの公園を散歩すると、木蔭に幾組かの男女が愛を語らっている姿が見られる。

子供がいて、若い人がいて、そして老人がいる。生れてくる者がいて死ぬ者がいる。そこに家があり、町があり、そうして形がととのってもくる…のかも知れない。

幾霜にこころばせをの松かざり　ばせ蕉

からす啼いてわたしも一人　山頭火

初日

トロント　森　明星

何鳥か初日に漁り樹に寄る

古稀近く妻の雑煮の有がたく

かもめ舞うオ湖耕鶏に初凪げる

羅馬草五分咲きほどに匂ひけり

終焉の魚の眼けはし氷下魚釣

初雪

（初題に因み挙り）

よち／＼と隣歩めも初雪の

向こうの丘ゃオ湖初凪げる

應募〆切りあたふたと拙き歌と句を創り書く

昨日降りし屋根の初雪解め初めて細く満くす陽窓明るり

朝々な隣家の犬の吹き合えば〆ール・マン来し時刻と床を出ず

うず高く積み重ねたる賀のカード人にもまれつ選び買ふ今日

鼻梁

中内　忠夫

かりがねに庭の刈り込み遂一と

時書を読る窓の網目に寒夜暴

多の雲棚引く岳に庭つくり

鼻梁冴ゆ街の行ききにクリスマス

謹賀新年

阿久根　佐成
76 Sullivan Street, Toronto, Ont. M5T 1C1

林　初太郎
家族一同
60 Southport St. Apt. 326, Toronto, Ont. M6S 3N4.

神田　富佐子
7 Walmer Road, Apt. 1405, Toronto, Ont. M5R 2W8

水谷　儀一郎
家族一同
152 Collier Street, Toronto, Ont. M4W 1M3,

今年も紙上にて年末年始の御挨拶申上げます

北川　茂吉
りゑ
P.O. Box 115, Rosemary Alta. T0J 2W0

加茂　傳藏
きく
家族一同
352 Downsview Ave., Downsview, Ont. M3M 1E9

佐藤　定
絹江
29 Oakdene Crescent, Toronto, Ont. M4J 4B8

鹿島　昊司
きみよ
88 Brookside Drive, Toronto, Ont. M4E 2M1

沖濱　洪一郎
春
ナセ
久
483 Evans Ave., Toronto, Ont. M8W 2V2

謹賀新年

トロント佛教會

開教使　重藤　信英
補佐　中津海　深志
護法会　婦人会
サンガー會　ダーナ會
青少年會　R曜學校
藤の友会　すみれ會
テレビ・ショー

謹賀新年

國際観光振興會
トロント観光宣傳事務所

所長　山之内　保
他　一同

165 UNIVERSITY AVENUE,
TORONTO, ONT. M5H 3B8
PHONE 366-7140

謹賀新年

舊年中のご愛顧有難うございました
本年もよろしく御引立てを
お願い申し上げます

Best wishes to everyone
We hope we can serve you
even better this coming year!

T. Amano Co. Ltd.
1139 East Hastings Street,
Vancouver, B.C.

Amano Foods Co.,
6389 Abroath Street,
Burnaby, B.C.
Manufacturer Of Soy Sauce

輸出入業、味噌、醤油製造業

バンクーバー市

天野商會

天野フーヅ

インターニーの慈父

田中さんは健在

キャンプ生活實に四年半にも

トロントに現在の田中時一（ときかず・八十六歳）さんが、戦前バン市郊外ニユークエストミンスター付近クインスボロー地区で、日本語學園の園長として、キヌエ夫人と共に二十年間も教鞭をとり、苦しい運營をつづけていた。しかし、田中先生のファミリーには長男、長女、次女の三人の子供さんを交えての家庭的には平和で睦まじいものであった。

一九四一年十二月七日夜八時ごろ、二人連れのマウンティー（国警）がクインスボロー學園の隣りにあった田中先生宅を突然訪ずれ、パジャマと歯ブラシだけ所持して同行するように命令した。田中園長はハットとオーバーコートをつけると、不安な表情の夫人や子供さんに別れを告げ、自動車に乗せられて、バン市下町にある五階建てビル、移民舘に入れられた。

そこにはすでに、同夜八時ごろ、バン市内各地に在住の、いわゆる「危険人物」の日系人數名が捕まって入っていた。加奈陀新報社長の鈴木實三、大陸日報社の轄英一郎記者、民衆社支配人の亀岡徳衛、日本人商業組合長の信岡與太郎、山林會社代表の佐々木周一、スチブストン日本語學校長上代支雄、スチブストン日系漁者団体幹部の峰岡讀雄諸氏のほか四、五名であった。

（寫眞は田中時一氏）

田中さんがスーツケースをさげて、この廣々としたホールの四囲の壁に沿って組み立てられた"カイコ棚のベッド"しかない殺風景なところに入ったとたん、鈴木實三氏が　かつかと近よって来て"ああ、田中さん、あんたも來ましたね。これで私たちは安心です"と田中さんの両手をつかんで迎え入れ抱擁した。

田中さんも鈴木さんもともにパーフェクト・ゼントルマン（全くの紳士）として知られている温厚な人格者。一夜のうちに急轉した運命を、これから入所者は否應なしに平等にわかち合わねばならない。そうすることに當って國際法に通じている田中さんの存在は力強い味方であったに違いない。移民舘には一九四二年一月末までに合計四十名が入れられてきた。

田中さんは青年時代米国ウィスコンシン大學及びコロンビア大學で聴講生として三年ばかり留學した。とくに法律的な學問に興味を持ち、大いに勉強したため、インターニーが一年後には七百六十八名の多きに達してキャンプを轉轉と移動された際、キャンプリーダーとして、就労のスポークスマン（代弁者）として、當局者と國際補虜待遇法（ジュネーブ・コンベンション）やキャンプ規定の改善修正など、インターニーの權利主張と待遇改善に努力し、とくに若いインターニーから慈父として仰がれた。

田中さんはパールハーバーデーの夜から一九四六年四月末日まで四年半近くのキャンプ生活にさようならを告げ、キヌエ夫人と子供さんらにオ州チャザム市で合流した。その年の七月、一家はトロントに再定住をきめた。有力白系会社に二十二年間も精勤して一九七〇年二月田中さんは引退。その間日系人社会のシニア・シチズン会の創立と同時に幹事として二十年間、会長として五年間も奉仕してきた。

憶えば八十六年前、長野縣上田市塩田町舞田の舊植田藩主の五男として生まれた田中さんが、すばらしい野球投手であったことから、一九二一年、ニューヨークで勤務中、バン市の朝日野球團の訪日遠征（早稲田大學の招待）に田中さんを投手として引っ張り込んで日本に渡り、田中さんが同年福岡で小學校教師をしていたキヌエさんとめでたく結婚ということにまでなったのである。そして二人は手をとり合ってカナダで生活を築き上げることを契い合ったのだ。ベースボールがとりもつ縁といえよう。そして二人の二十數年にわたる長い教師生活がカナダではじまったのであった。（森研三記す）

謹賀新年

山村すみ
80 Gowan Ave., Apt. 405, Toronto, Ont. M4K 2E1

梅野
ローイ
早百合
久美子
34 Mortimer Ave., Toronto, Ont. M4K 1Z3

田中綾子
415 Driftwood Ave., Apt d105, Downsview, Ont. M3N 2P7

西本英夫
131 Riverhead Dr., Rexdale, Ont. M9H 4H1

大隈千助
わい
60 Rossburn Drive, Etobicoke, Ont. M9C 2P8

米山力藏
よね
19 Teddington Ave., Toronto, Ont. M4N 2C4

山村義雄
トミキ
2287 Gerrard Street E. Apt. 402, Toronto, Ont. M4E 2E4

工藤種明
ふじ
Mr. & Mrs. T. Kudo
Apt. 157, 99 McNaughton Ave. W., Chatham, Ont. N7L 4P4

謹賀新年
金光教トロント教会
教會長　西村まつ
教師　黒田初見
信徒一同
243 Rhodes Ave., Toronto, Ont. M4L 3A2
Tel. 463-1950

謹賀新年
一九七九年一月一日
法人　トロント壽会
KOTOBUKI-KAI
BOX 175, POSTAL STATION "F",
TORONTO ONTARIO

謹賀新年
カナダ滋賀縣人会
カナダ・トロント市

謹賀新年
天理教カナダ教会
160 Gracefield Ave., Toronto, Ont. M6L 1L5
Phone 247-9791

OCS
新年あけまして
おめでとうございます
マネジャー　ロバート・クラム
竹田明美
OVERSEA COURIER SERVICE (Canada) Ltd.
222 NORTH QUEEN STREET
ETOBICOKE, ONT. M9C 4Y1
TEL: 626-2968

謹賀新年
法人
濟生會
トロント市

カナダの冬よ、さようなら

温暖なフロリダで……

山田利夫

まだ働いていたころ、二月に休暇をとって米フロリダ州セント・ピータースバーグとフォート・ラダディルにふた冬、二週間づつ暖い冬を味つた。

自分の町オ州ブレナムに帰つて知人に話したら、二週間のホテル代、飛行運賃小遣いでフロリダ州の中心部の町に行つたら六カ月はゆつくりと冬を越れるという。早速調べてみると、実際に可能性があるらしいので、友人を通じてアパートの住所を探がして、電話で十一月から四月末まで六カ月間家を借りられることを確かめ、落ちつき先を確定してまずは一と安心。

初めての長期休暇なので様子がわからず、何もかも自家用車に積みこんだら、トランクも座席も一杯で、僅かバックミラーに後ろの道が見える程のすき間が残つているだけ。

千三百マイルの長いドライブも初めてなので不安だつた。ジェット機で三時間、上空から見下ろしてとんだ野、丘、山々を六日がかりで走つた。丁度カナダの四〇一號のような廣い道がミシガン、オハイオ、ケンタッキー、テネシー、ジョージア、フロリダ各州とくねくねと通つている。

今年は慣れた道順なので三日四晩で目的地エボンパークについた。十一月上旬だがテネシー州では紅葉がすばらしかった。二十マイルから三十マイルくらい毎にホリデーイン、ハワードジョンソン、デズニーイン等の高いサインがガソリンスタンドと並んで立っている。あらかじめ毎日の旅程をきめていたらモテルに不自由しない。ただ、十一月上旬には南下する老人組が多いので、五時ごろまでに投宿しないと良いルームは見つからない。

ホリデーインの宿泊料が最高三十弗（シニア・シチイズンは一割引）、デズニーインが二十弗、南に下がるほど安くなつて十四弗、十二弗の廣告も見えるが、安いところは不安なので避けて通つた。食費は大体一人當り一日八―十弗。ガソリンもガロンのサイズ、為替の相違を計算してもカナダより安い。

落ちついたエボンパークの町はオレンジ畑に囲まれた静かな田舎町で人口約七千。ゴルフコースニカ所、テニスコートもあり、付近に二十くらい小さい湖がある。ウイスコンシン、オハイオ、ミシガン、インディアナと北部各州から避寒に来る引退農家の人が四千人くらい来るらしい。店に行つても老人向きサービスにすべてができていて、大変親切で感じが良い。

クラブがあるので昨年加入したが、老人向きのラッフルボードやらカードゲームやら、手藝のクラスがある。まだ若い氣分の自分達には、余りテンポが遅いので、カナダから来た少し若い人達と親しくして遊んだ。水泳の好きな自分は早速湖にありて手を入れたらエリー湖の七月ごろよりも温いので早速泳ぐことにした。しかしフロリダ州の無数の湖にはワニが澤山住んでいるので、一應付近の人にいろいろと聞い合わすと「いせんは大きいのが一二匹いたようだが、近頃は見ない。子供たちが泳いでいるから大丈夫でしょう」という返事だつた。

しかし、不安なので、妻がデッキチェアをビーチに持參して見張り番をしてくれた。昨年最初に水に入つたときクロールで泳いでいたら、ふと水底に黒いものが動いているのでビックリして、水からとび出たら湖底に映つている自分の影だつたと氣づいて大笑したことがある。隣の町の湖には美しい散歩用のブルーバードが水ぎわに沿つて作つてある。犬を連れて散歩していたらワニが水中から出て犬を追つかけたというはなし。

アパートは幸運にも郊外の湖に面した清潔なところを昨年三月に見付け、今年十一月から六ヶ月間の契約をしていたので、毎日風に吹かれながら八十度の氣温の中で日焼けしている。レントは大体月百五十弗から二百五十弗で、六ヶ月契約が普通。クリスマスが過ぎて一、二月に入ると殆んどが長期で安く借りられる。食費はカナダより少し安い。とにかく往復の旅費、六ケ月の家賃をあわせて大西洋岸やオンタリオ州内を氣樂に三・四週間旅行できるかは疑問である。モテル代、ガス代、食費も高いので、フロリダでのん氣に六か月暖かい冬を送る方が安上りだと自分達は考えている。妻も隣りの人たちと結構樂しく話し、読書、手藝で退屈せずに暮している。デズニーワールドに一時間半、サイプラス・ガーデンに四十分、メキシコ灣、太西洋岸に約一時間半を走ればつく。

タンパやマイアミのようにビキニ姿は見られないがカナダの寒い冬からのがれて、雪を見ずに冬を過すには良い處だ。毎日さんさんと太陽が照り、八十度を越した暑さも湖からの風でしのぎ易い。ショーツ姿で太陽を楽しんでいたはずの妻が到着後ホームシックになり、新しく入れた電話で、トロントの息子、嫁、孫たちと話していたら、今日あたりは雪になるかも知れぬという寒さと聞いて、やはりフロリダに来てよかったといつて喜んでいる今日この頃である。

新年を待つ

中野雨情

一日もかいたいゆるさぬ世と思ひ身のある限り励まむ日々を

カクタスの色あだやかに花咲きて朝茶はうまし窓に雪降る

筆勢よき一軸かけてバンガロの窓邊明るく新年を待つ

移りゆく月日の歩み顧みつ逝く年の潮を谷川の音

五十年歌一筋に生きぬきて残る執念何にてありしか

謹賀新年

大山ヒナ
22 Dartford Place,
Hamilton, Ont. L8V 3V6

宇都宮吉榮
家族一同
First Place Apt. 2017,
360 King St. East,
Hamilton, Ont. L8N 3Y2

横田藤吾
辰枝
3237 Evelyn St.
Verdun, Que. H4G 1N8

西尾逸平
はま
4630 Melrose Ave.,
Montreal, Que. H4A 2S9

田口善一
文子
5954-24th Ave.,
Montreal, Que. H1T 3M3

木下善智
ヨシ
1465 Crestlawn Drive,
North Burnaby, B.C.

尾本田次郎
（田志）
NO. 503-535 E. Cordova St.,
Vancouver, B.C.

田中虎一
千代
4950 Dominion St.
Burnaby, B.C. V5G 1C9

謹賀新年

二階堂源作
3691 West 23rd Ave.,
Vancouver, B.C. V6S 1K6

謹賀新年

サンダベー佛教会
補教士 林宙亮
会員一同

賀正

和田凡使
901 — 6th Avenue
Seattle, Wash.
98104, U.S.A.

明けましておめでとうございます
今年もよろしくお願いいたします

七九年新春藝能大会

◇日時 一月十三日（土）午後五時半開演
◇場所 日系文化会館一階ホール 第一部 バラエティーショー（一世・三世友情出演）第二部 田舎芝居 日本遊俠傳・行友李風作「國定忠治」三幕四場 第三部 ダンスパーティー（新鋭バンド及びディスクジョッキー）
◇前賣券 四ドル五〇セント 當日券 五ドル
前賣券並びにプログラムはお早目に市内日系商店・日系文化会館及び左記の役員までご連絡下さい
なお大会當日は飲食店、アルコール販賣等準備を致しております
（役員）三枝典一（七五二―五五三一）岩下捷郎（四六三―五五七二）
主催 トロント新移住者協會

Season's Greetings

J. N. T. AUTO SERVICE

42 Parliament Street,
at Front Street, Toronto
M5A 2Y4.
Tel. 362-5094, 362-0218

謹賀新年

一九七九年元旦

今年もよろしくお引立てお願い申し上げます

共營 田上和海
並木功夫

トロント市パリアメント街四二番地
（パリアメント街×フロント街）
電話 三六二―五〇九四
三六二―〇二一八

十月の風

渡邊屯行

いつもの事ながら外出するとなると、うしろから妻が『財布は持ったか、チケットはあるか』と心配してくれる。毎度のことなので、時にはうるさく思い『ああ持ったよ、持ったよ』と、聞き流してとび出すと、やっぱり何かを忘れて必ず一度は引き返す。『今度は何を忘れましたか』と妻もすっかり馴れている。

自分の家を出る時にさえその様なあんばいだから、外出先でも同じこと、忘れものや失敗は枚挙に暇がない。うちに帰って報告すると『ばあーかね』と笑われる。時には忘れて報告しない時もあるし、故意に默って過すこともある。その内にと思っているうちに日が立つとすっかり記憶から消えてしまっている。

そのことを或る時話のきつかけから、冲廣さんに聞いてみた。『君は何でもうちに帰って奥さんに話すかね、たとえば外出先での失敗など…』もっとも君は失敗などないだろうが…』ときくと『何、失敗やるね。時々…』と云い、奥さんには話すこともある、ということであった。私は自分だけではないな、と思い同類の心安さを感じたことであった。

サンクスギビング週末も過ぎ、朝夕の仕事の往復にバスの窓からのドンバレー道沿いの木々が、紅葉していく様は、誠にたのしく美しい眺めである。大都市の真中にこの様な景色を持つのはトロントだけであろう等と思っているうちに、去年のこの週末に訪れたウイニペッグへの小旅行が思い出された。

その日、マルトン空港のターミナル二に着いたら、出発までに一時間半のタイムがあった。一寸後れて着いた同行の新移住者会の佐佐木さんと話していたら、ウイニペッグ行きは更に三十分遅延と云うアナウンスが出た。まあゆっくりとばかり、レーンコートを脱いで、深々と待合のチェアーにくつろいで話しこんだ。

その内同行の参加市協の若い人々が見えたのでぼつぼつ塔乗口に行こうと云うので立ち上った。ターミナル二はご存じの様に長い建物で、西の端から東の端まで歩くと悠に十五分位はかかる。

突然『ミスターワタナベ塔乗口七六に直ぐに来て下さい』というアナウンスが場内にひびきわたった。『何事だろう。出発には未だ半時間もある筈』と思って時計を見直した。『ご老体は特別サービスで、他の乗客よりも先に乗せて呉れるんだよ』と今井さんの声。しかし、チケットを買うときに年齢を申告したおぼえは無いが、と思いながら、その塔乗口に急行して見ると、他の一行の面々が、すらりと並んで鳩の如くに腰かけて乗り込みを待っていた。その中の一人、梅月千代さんが私の顔を見るなり『渡邊さん、どこをぐづついていたの』と一喝。『待っても、待っても姿が見えないので、お宅に電話したらもう二時間も前に出たとのことなので、場内を迷っていると思い、交換嬢にアナウンスして貰った』というのであった。そして『早くお宅に電話しなさい、奥さん心配していてよ、私、あなたの奥さんにたのまれているのよ』とのことだった。

今度は電話の向うから『どこをそうろついていたの ひとさまに心配をかけさせて…』と、こちらの言葉をはさむ余地は全々なかった。

そのうち出発となり、窓側の座席にやっとおさまった。ところが何となく身辺ゆうそ寒さに気が付いて見たら着て来た筈のレーンコートが無い。場内で脱いでそのまま忘れて来たらしい。しまった、と思ってたち上がったがもうおそい。機体は既に動き出した。まよこのまま座席に座り込んだ。

ウイニペッグにはその夏にも行って青葉と百花競艶の公園を見せて貰った。トロントよりも少し北緯にあたるらしい空港は曇っていて、その上秋雨が降っていた。忘れて来たレーンコートが、ちらつと脳裏をすぎた。ホテルから小型バスが迎えに来ていて呉れたのでたすかった。ホテルからの出人で若い人々から『元気ですね。コートも着ないで寒いでしょう』と云って呉れる。『なーによい秋日和だから…』とやせ我慢は張って見るが、ウイニペッグの十月の夕風は、スーッだけの身にはこたえるのであった。

どす黒い枯れ葉が並木の枝にかぢり着いて吹く風に音を立ててふるえた。『この並木はちっとも紅葉しないまま、黒く枯れて落ちて仕舞うので』と阿部さんは済まなさそうにつぶやいた。ふと私の脳裏をドンバレーの紅葉が過ぎった。

帰りには他の人々よりも一日早く帰って来た。空港ターミナル二につくと早速忘れ物部を探しあて広い場内をやっとの思いで探しあて、廣いバゲージルームを通り、その室には入ると『あったあった』向うの壁ぎわの長いコート掛けに大きな白人向きのレンコートと並んで、見覚えのある私の短いのが、ちんまりと掛けてあった。

すっかり灯のは入ったトロントの十月の風の中にバスを待ちながら、レーンコートのポケットに手を入れて心よい温さを感じていた。

アルバータ廣野

ア州 笑川

賑わしき年の始めも初雪の降りしあしたは静けかりける

つくばねの音もいつしか絶え果ててアルバータ廣野に初雪は降る

たちかえる年と知りてはおのづから静かに積る庭白雪

新しき年の初めとわが庭をつくりかえけり今朝の白雪

冬ごもり

元日や芭蕉をたたえて冬ごもり

初東風や太平原を吹きなびけ

鍬初めお神酒注げば土匂う

初春の希望を胸に育てつつ

謹賀新年

豊福せき
7081 Adair St., Burnaby, B.C. V5A 1N5

外園愛次
メリー
家族一同
820 Hollywood Road, Kelowna, B.C. V1X 3T5

小川幸之進
りん
2373 Whitman Ave., North Vancouver, B.C. V7H 2C6

宮澤八郎
1836 E. 21st Ave., Vancouver, B.C. V5V 1T2

伊藤薫
464 Stafford Road, Kelowna, B.C. V1X 5A6

佐久本盛矩
輝子
1605 Rupert Street, Vancouver, B.C. V5K 4M1

佐藤傳
英子
6305 Victoria Drive, Vancouver, B.C. V5P 3V6

氏本勇
竹子
明夫チョージ
R. R. No. 2, Salmon Arm, B.C. V0E 2T0

小坂ひき
4603 17th Street, Vernon, B.C. V1T 3Z5

横目光雄
春香
240 Willow Street, Kamloop, B.C. V2B 4C7

清水利子尾
キョ子
574 Langside St., Winnipeg, Man. R3B 2T7

吉田龍一
喜美
P.O. Box 204, New Denver, B.C. V0G 1S0

湊徹
節子
るり
P.O. Box 175, 100 Mile House, B.C. V0K 2E0

弘中魁助
よしの
2407 - 17th Ave., S. Lethbridge, Alta.

大野みつ代
たみ子
718-18th Street South, Lethbridge, Alta.

浦野福枝
家族一同
Box 340, Coaldale, Alta. T0K 0L0

謹賀新年
皆様のご健在をおいのり申します
新年やローズの園で春を祝う
岩淺伊都
Mrs. Ito Iwaasa
Alberta Rose Lodge, Room 109,
2251-32 Street, S,
Lethbridge, Alta. T1H 3H5

あけましておめでとうございます
トロント
トロント
如月倶樂部
KISARAGI CLUB
TORONTO ONTARIO

謹賀新年
トロント市協一世部
今年も若い世代の人と大いに協力して日系社会その他のために働きましょう

謹賀新年
岡本アゲ店
岡本剛
母政江
就働者一同
SHOP - 7171 TORBRAM ROAD, MISSISSAUGA, ONT. L4T 3W4
TEL. 677-2816
HOME - 21 BLACK CREEK BLVD., TORONTO, ONT. M6N 2K6

謹賀新年

福嶋寅三
久子
家族一同
P.O. Box 394
Raymond, Alta T0K 2S0

川出新一
静代
家族一同
P.O. Box 359
Raymond, Alta.
T0K 2S0

池田アヤノ
家族一同
P.O. Box 660
Raymond, Alta.
T0K 2S0

今橋種吉
アヤ子
家族一同
P.O. Box 439
Raymond, Alta T0K 2S0

上塘ヒデ
家族一同
P.O. Box 510
Raymond, Alta.
T0K 2S0

西山幸平
家族一同
P.O. Box 585,
Raymond, Alta.
T0K 2S0

中濱政枝
P.O. Box 115,
Raymond, Alta. T0K 2S0.

中川リツ
繁次
ジェー
Welling, Alta.

小谷田イサ
家族一同
P.O. Box 433,
Raymond, Alta.
T0K 2S0

宮内静夫
トミ
家族一同
P.O. Box 417,
Raymond, Alta.
T0K 2S0

村木清一郎
笑子
P.O. Box 536
Raymond, Alta T0K 2S0

砂田ユキ
正人
ミヨ
P. O. Box 45
Raymond, Alta T0K 2S0

高口キミ
家族一同
P.O. Box 109,
Raymond, Alta.
T0K 2S0

山崎恭之助
シゲ
家族一同
P.O. Box 632,
Raymond, Alta.
T0K 2S0

大石寅穣
家族一同
P.O. Box 261
Raymond, Alta.
T0K 2S0

静田芳夫
美佐
Box 378,
Raymond, Alta. T0K 2S0

高橋民雄
トシ
8615 Atlas Road S.E.,
Calgary, Alta. T2H 1R4
Tel. 253-4314

森平春二
イサ子
家族一同
1106-30th St. So.
Lethbridge, Alta. T1K 2Y6

村上浅代
2803-19th Ave. S.,
Lethbridge, Alta.
Tel: 328-7369

謹賀新年

シアロン花店
佐々木ピーター
SHARON'S FLORIST,
942 Pape Ave., Toronto, Ont.
Phone 425-2122

謹賀新年

廣島會
トロント市

謹賀新年

トロント三葉會
52 GLEBEMOUNT AVENUE,
TORONTO, ONT. M4C 3R6

あけまして
おめでとう
ございます

トロントもみじ會
会員一同

謹賀新年

今年もよろしくお引立て
をお願い申します

ドンバァレーノース
トヨタ株式会社
3120 STEELES AVE. EAST,
MARKHAM, ONT. L3R 1G9

謹賀新年

トロント日蓮佛教会
荒川要博
信徒一同
5 BADGEROW AVE.,
TORONTO, ONT. M4M 1T9
TEL. 463-8268

謹賀新年

トロント
水無月句會
会員一同

ELITE TOURS
INTERNATIONAL INC.

賀正

本年も どうぞよろしく

エリート・ツアーズ旅行社

謹賀新年

インターナショナル
カストムス
ブローカー有限会社

荷物托送、税関コンサルタント、
エア・カーゴ代理業
参加および全世界にサービス網。

INTERNATIONAL CUSTOMS BROKERS
60 SHORNCLIFFE RD., TORONTO, ONT. M8Z 5K1
PHONE 231-4192

謹賀新年

トロント
日系ガーデンクラブ
1 Burleigh Heights Drive,
Willowdale, Ont.

夜鷹そばのはなし

バンクーバー 吉田 牛郎

先日さるところで、日本からの新聞を見ていたら、年も押し詰まったせいか、サギやらなにやら暗いニュースが目に入った。金銭的決済を年の暮れに持ちこす日本の習慣がいまだに残っているのかも知れないが、今に比べて昔の人はとかく浮世の苦を茶化して吹きとばす處世術を心得ていたようで、なつかしくよき時代を想い出した。

江戸時代の落語に『二八そば』というのがある。往来を流していたそば屋をある男が呼びとめ、おせじを言ったあと、いくらだいときくとそば屋『十六文』という。『十六文？銭は細かいよ。一つ、二つ、三つ……七つ、八つ、何どきだい』『九つで……』『とお、十一、十二……』とうまく一文ごまかしてしまう。

これを見た別の男、早速翌日まねて『一つ、二つ、三つ……七つ、八つ、何どきだい』『四つで』『五つ、六つ、七つ……』と逆に損をしたという笑い話。(ちなみに、九つはいまの夜十二時、四つは十時に相當する)

今はどうか知らないが、戦争直後、浅草あたりに泣き男というのがいた。貧相な男が街角にうずくまってメソメソ泣いている。通行人がかわいそうにと事情をきくが、泣き男は黙ったまま。そこへ善良そうな一人の男が近づいてきて何かしゃべっていたかと思うと、とつぜん群衆に呼びかける『皆さん、この男は向島のカミソリ工場に勤めていたが、工場が火事になって退職金ももらえず、製品のカミソリ二ダースだけでほったらかされたそうだ。『商賣なんかしたことがないので泣いていると言っている』

そして男は『どれどれ、包みをほどいてカミソリを見せろ』と言い、一丁のカミソリを手にして新聞紙を切って見せ『よく切れるぢゃないか。これなら二百圓はするよ』と言い、泣き男の口に耳をつけ『なんだって？百圓でいいって？ばかだよこの男は』などと冗談を言いながら自分で二つ買って退散する。

別の男が『それぢゃ俺も二丁だ。かわいそうに元気で暮らしな』と続く。これで群衆はわれ先にとカミソリを買うのである。

違法すれすれのサギ行為だが、泣き男を逮捕しても、この男は一言もしゃべったことがないので始末が悪い。カナダでは見かけない風景かも知れないが……。

アガワ旅行句

渡邊 屯行

早立ちや棚曳く薄雲朝涼し
早立ちの座席に粧う夏の旅
延々とつづく早野コーン哀れ
蒼空のつづく限りを夏の山
灼くる野や岩陰たのみ白き花
バス埃野花揺れ合い行迎う
新涼の青空落ち込む湖の涯
新涼の精玉となりバスの窓
青葉抜け赤入る青葉アガワ列車
汽車曲る青葉の中のはしり紅葉
夏山に着きエンジンの大吐息
列車捨て探勝の人散る夏の峡
岩緑蝘日に曝す瀧白布
瀧水に青き脚つけ街の人
口あいてバス呑む渡船夏の湖
旅果つる水尾はるかに夏入日

明治者

波冷

明治者。追々とあの世へと旅立って、此世に居残る人が、だんだん少なくなって来た。心細い限りである。過ぎ去って遠いあの頃の想出は懐しいものである。想出に浸るひとときは明治者明治者といえばいかにも頑固者の見本ででもあるように思われるが、たしかに明治者は頑固者であった。餘り融通のきかないと思われる位な頑固者が多かった。でもどこかにいわゆる筋金の通った處があったように思うのは私だけの目惚れではないだろうと思う。

このような明治者もだんだん數少なくなっていくのは心細い限りであるが、生ある人間の自然に辿りゆく浮世の道理であるので致し方ないのである。いわゆる『意地の人情も浮世には勝てぬ』というところだろう。

カナダに於ける開拓時代に苦闘して来た明治者一世の涙ぐましい努力で後から来る日系人の先驅者としての明治者の意氣をいつ迄も記憶に殘して置き度いと思うのである。

吾骨を埋むカナダよ永久に
安住の地たれよ子々孫々に

×

屠蘇氣嫌御慶朗らか明治者
郷愁を誘う雑煮や明治者
明治者白毛とはげと腰曲り
明治者沁々覗く初鏡
明治者殘り少なくなりけり

Season's Greetings

謹賀新年

新春を迎えるにあたり、
關係者一同、心を新たにして、
日系社會の發展に努力して参る
所存でございますから、今後とも
温いご支援を賜わりますよう
宜しくお願い申し上げます。

一九七九年元旦

モントリオール新移住者の会
トロント新移住者協会
バンクーバー移住者の会
南アルバータ新移住者協会
國際協力事業團 トロント駐在員

Season's Greetings

謹賀新年

タンダス ユニオン店

DUNDAS UNION STORE

173 Dundas Street W., Toronto, Ont. Phone 364-7692 — 366-3663

Season's Greetings

May We Wish
You a Happy
And Prosperous
New Year。

Ginza

restaurant
Specializing In Japanese Foods
5130 DUNDAS ST. W. – ISLINGTON, ONTARIO
Tel: 231-4000

賀正

昨年中は一方ならぬごひいきを頂き有難く厚くお禮申し上げます なお今年もよろしくお願い申し上げます

ニューカナディアン

THE NEW CANADIAN
479 Queen St. W.
Toronto M5V 2A5
Tel. [illegible]

Second class mail
No. 0366

一九七八年度 特別号(二)

カナダ体験再考

大国でないからいい

布施 豊正

今迄本紙の紙面をお借りして、時々日本や日本文化に関する随筆を書かせていただいた。読者の諸兄姉からも幾多の叱咤激励のお手紙やお電話をいただき深謝している。最近ある日系人から「日系人としてカナダをどうみるか、書いてみたらどうか」という提案をいただいた。我々日系人にとって日本は祖先の国であり、多くの日系人にとっては生を受けた国でもあるであろう。何千年という連綿たる日本の文化的遺産と伝統を我々は誇りを持って守っていきたいものだと思っている。然し我々は現在、一世、二世、三世、移住者を問わず、皆日系社会という運命共同体の一員として、又カナダ市民として此の国に住んでいるわけである。カナダとはどのような特性を持った国であり社会であるのかを此の欄において再考してみたいと思う。

◇

私がカナダ市民として最も誇りに思い又嬉しいのはカナダは世界に君臨する大国や強国では無いという事実である。あらゆる人間・事物・職業を格づけしないと気のすまない日本人に云わせると、カナダは「中級国家」なのだそうである。世界の外交という檜舞台において大国でないという事実と自覚は態度が非常に謙虚であるという事を意味する。カナダ人はよく「劣等感」を持っていると云われるが、私はむしろ「つつましさ」ではないかと思う。カナダ人で、カナダこそは世界で最も卓越せる国であり、大国として世界政治に重要な役割をしなければならぬと確信し、全世界に向ってその優越感や大国としての権威を鼓吹する人間はあまりいないと思う。此の点カナダ人は米国人や日本人と根本的に違う。米国人は幼少の頃から「大国意識」と「米国の生活様式の優秀さ」というものを徹底的に吹きこまれる。日本人も戦前は非常に強い大国意識を持ち、極端な超国家主義の為に未曾有の惨禍を招いたのは周知の事である。戦後はこのような大国意識と国家主義は消え去ったように見えたが、戦後の経済復興につれて再び此の大国意識がもりあがって来た。大多数の日本人の頭の中には無意識にせよ「日本人は世界で卓越した民族である」との自負心があり、酒宴の時など此の日本人の「大国意識」と「うぬぼれ」が出てくる。私は昔から「大国」は嫌いである。世界の「列強」や「大国」は自分達の利害で勝手に戦争を始め、無辜の小国や人民の幸福を踏みにじってきた。ヴェトナム戦争や日中事変などその良い例であろう。

此の点大国でないカナダは他の国の政治や国家的運命に干渉したり、他国民の幸福を踏みにじるような事はしない。カナダの軍隊はマッチ箱のように小さいものであり、他国の侵略に使えるような軍事力では無い。然し、カナダ軍は過去三十年近く、国連軍の一環として世界の危険地域の平和維持という重要な任務を果して来た(韓国、ヴェトナム、サイプラス、パレスチナ等々)。平和と中立を外交基本方針とし、大国意識を持たずに謙虚な態度で世界に臨み、国民一人々々の幸福と福祉に努力する国がカナダなのである。我々はカナダが大国でない事に喜びと誇りを持っても劣等感を持つ必要はない。米国や日本、フランスのような「大国」でないからこそ私はカナダ人の一人としてカナダが好きなのである。

◇

日本の社会と文化の良き点について、筆者はニューカナディアン紙上でかなり書いて来た。然し、日本社会の弱点の一つは集団の中における調和と共同体の福祉を強調するあまり、集団からはみ出る個性の強い優秀な人間を往々にして犠牲にしてしまうという点ではなかろうか。日本には昔から「村八分」とか「出る釘は打たれる」という習慣や格言がある。他の人の持っていないものを持っている人間、又は非凡な卓越した人間又は強い個性の持ち主は日本では嫌われ、社会からはじき出されてしまう。此の観点からみると、日本という社会は優秀な人材や才能を正しく起用出来ぬ社会である。

それに比べてカナダという国と社会は、あらゆる才能、個性をも吸収し得る社会である。近所づき合いが嫌ならしなくても良い。年功序列はあまり無いから、若くても才能をどんどん伸ばす事が出来る。「出る釘は打たれない」のである。「出る釘」とか「世間体」とか「世間様」というものをあまり意識しないで、比較的自由に「我が道を行く」ことが出来るという事も意味する。此の点筆者が強く感ずることは、戦後の日本人移住者の多くが、優れた才能を持ち各人それぞれ強い個性を持った人々であるという事実

(二面につづく)

お祝いの握手

去る十月、カナダ総督邸で行われたカナダ勲章授与式に、レジャー総督からお祝いの握手をうけるバ市の佐藤傳氏。

カナダへの手紙

A LOVE LETTER TO CANADA

在東京 本田 晃

先日(一九七八年十一月十八日)日本カナダ研究会年次大会(第三回)が、東京・六本木の国際文化会館で開かれた。といっても、私は勤務の都合でこの会には出席できなかったが、この会で研究会が日本カナダ学会として発展拡大されることが承認された。その正に発展期にさしかかった時に、私は会員となるチャンスをつかんだ。

元来、私は取材記者ではなく「整理部」ひとすじに二十五年になるが、(整理部とはエディトリアル・セクション)日本語のエディターだから、大学を出てのち英語から遠のいていた。

それが、たまたまこの年の夏(七月下旬から八月上旬にかけて)カナダを訪れるはめになった。カナダといっても、とてつもなく広大で、私なんかは、その入口のバンクーバーにちょこっと入っただけに過ぎないのだが(もっとも、この二週間ほどの間にカルガリーへフライトし、ロッキーの心臓部といわれるバンフへも旅をした)、しかし、そのわずかにかいま見たカナダにすっかり魅せられてしまったのである。

ちょうど、そのころ日本では山形県の鶴岡市で四十度を突破するなど猛暑つづきだったが、バンクーバーでは汗っかきの私が、汗をかくのさえ忘れてしまったようなわけだから、気に入るのも無理からぬことかも知れない。

だが、カナダに永く住んでいる人々にとってこのような惚れてみ方は、無責任かつ無理解と非難されかねないかも知れない。所詮こんな奴は、カナ・ション族(アメ・ションという言葉がある。アメリカで二、三ションベン一失礼一してきて、アメリカ通ぶる旅行者のことをいう)さ……と。

このカナ・ションは、少々、違うんだ、といいたい。ある意味では見てはいけない世界を見たのかも知れない。その少し前までは世界地図の中の一区域として、アメリカ大陸の北の方にカナダという国がある。あるいはエキスポ七〇年万国博のときカナダ館というのがあった、といった程度のカナダが、いま自分には大きな"存在"になりつつあるからだ。

その入口、バンクーバーで、私は感動的な体験をした。バンクーバー・サン新聞社へ行く時のことである。宿舎のビーシー州大学にタクシーを呼んでもらった。来たのは、ブロンドの若く美しい女性ドライバーだった。行き先を告げると「オーケー」と走り出したのはいいが、どうも道が違う。どんどん飛ばして大回りしていく。私たちが片言英語だったので、わざと遠回りしているのかな、などと日本語で話し合っているうちにサン新聞社に着いた。すると彼女は無線機で何やら自分の会社と通話していたかと思うと、私たちに「私のミスで遠道しまったので二ドル引きます」というのだ。日本でこんなことは経験したくてもできない。メーター通りとられてしまうのだ。もちろん、私たちはその二ドルをチップにしてもらい、かつ感謝のチップを加えたのだが、彼女はチップをとろうとしなかった。

さらに私たちの仲間の一人が、そのタクシーにカメラを置き忘れたのに気づいた。車は走り去ってしまったし、初めて来た国なので、半ばあきらめて、私たちはサン新聞社の調査及び開発部マネジャーのジャク・ウオレス氏の部屋を訪れた。その面会のさい中に突然、氏の卓上の電話が鳴った。ウオレス氏は受話器を片手でふさぎながら、「だれかタクシーにカメラを忘れましたか?」と問いかけてきた。私たちは一様にアッと驚いた。さっきの女性ドライバーから「カメラが車の中にあった」という連絡があったのだ。しかもそれだけではない。彼女は車を走らせて来てサン新聞社の秘書に、そのカメラを渡すと名も告げずに走り去った、というのである。

親切な日本人、礼儀正しい日本人、ということを私たちは外国人からよく耳にする。しかし、このカナダ女性には私たちは完全に脱帽させられたのである。

これだけでカナダ人一般を言うのも危険ではあろう。また「民族モザイク」だとか「多様文化」とか、ケベックのこと、あるいは「バンクーバーに行きたくない。古い傷跡を見る思いだからだ」といわれる日系人一世の方々のこと、などを入口ながら私は知った。だが、いや、だからこそ私はもっと熱烈にカナダを知りたいと思う。一観光者ではなく、わが身のうちなる人間――グローバルな血のほど走る人類の一人として――。

東京より愛をこめて、カナダに手紙を送る。一九七七年から七八年にかけて、日本で「カナダからの手紙」というポピュラーソングがはやった。私は反対にカナダへ「熱い」メッセージを送る。

(筆者は毎日新聞(東京)学生新聞編集部部長)

ゴーストタウン

如竹

厚落葉踏めど音なく人も居ず
地に落葉川の落葉はみな流がる
奥谷の木枯山を下りて来る
枯れ草原かつての収容キャンプ跡
凍蝶の墓の供華にゐき去らる

讃佛

小財 新句浪

新しき光りかがよふ聖堂に
讃佛の偈誦満堂に溢れ
胸ぞこの心にもゆる燈灯を
祝ぎまつるべき歳を迎えて

「カナダ体験」(一面より)

である。日本では窮屈で自己の才能や個性を伸ばしきれない人達という印象を受ける。このような移民を迎え入れているカナダは、社会的な面で非常な益をこうむっていることになる。そのような移住者の一人に造園で有名な岩下氏、世界的なギター製作者として台頭しつつある猪口氏、新進画家の沢田女史、気力ある事業家山下氏、将来を目されている作家志望の山岸氏等枚挙にいとまがない。先述の岩下氏であるが、人望が厚く、新移住者協会の副会長もやる世話好き親分肌の人だが、昨夏いろいろお話しをするチャンスがあった。その時元気一杯「私はカナダに来て本当に嬉しいと思う。自分の個性を生かし、自分の好きな造園をするかたわら、自分の趣味も生かす時間と余裕もある」と述懐していたのをおぼえている。彼は造園の仕事をするかたわら、素人芝居の一座をも組織し、高校時代から飯よりも好きだった演劇にも専心している。裸一貫、男として一人の人間として、人生と取り組み、「我が道を行く」岩下さんをみていると、カナダの社会の可能性というものを具体的にみせてもらった感がするのは私だけではあるまい。

◇

欧州と日本は長い歴史の中で文化と諸制度を作りあげて来た。例えば現代社会にとって必要な大学という最高学府は、西紀八世紀にイタリヤのボローニャ市に始めて出現した。以降大学という組織は千年以上の長い歴史と伝統の中に生成發展を続けて來た。大学の発達と共に、知識を創造し、伝達する専門の人間集団がインテリとして出現してきた。インテリ階級は主として大學に付属し、一般庶民から隔離されて來た。インテリの文化伝達の手段は本の出版である。それで、長い文化と伝統を持つヨーロッパ人や日本人は、文化的伝統の浅いカナダでは出版される本の量の少いのをよく指摘する。確かに日本やヨーロッパ諸国はカナダにくらべてケタ違いの数の本を出版し、人々はそれを買っている。然し、彼等がよく本を買う理由は知的好奇心のみとは限らない。何故北米人はヨーロッパ人や日本人のように本を買わないのであろうか。それは周知の如く、北米(カナダと米国を含む)にはあらゆる都市農村にも必ず公立図書館やその分館があり、多量の蔵書を市民に無料で借出しているのである。日本やヨーロッパでは大學図書館は一般に開放されて居らず市立図書館も大抵は一つだけで、遠方に住む市民にとっては縁の遠い存在である。

このように図書館の稀少なヨーロッパや日本では、どうしても本を買わねばならない。カナダでは図書館の発達がすばらしく、無料で利用出来るようになっている。現在トロント市には二十七の図書館と分館が市内にあり、昨年だけでも約五百万の本が借出されている。そして図書館は十五万枚のレコードも用意してあって市民に提供している。更に一七六六本の映画もあり、二ドル払うと八ミリの映画は何本でも無料で借出出來る。トロント市の人口の約十分の一の市民が図書館を常に使用しているという。図書館は本を借すのみならず、市民講座、教養成人講座もあり、一般市民の〝市民大學〟としての機能を果している。此の地方圖書館制度こそは一九世紀の末に北米が欧州や日本では考えられない程発展して、市民の日常生活に密着しているのである。一般市民の教養レベルの向上こそ、北米社会の知識面におけるデモクラシーの表われであろう。

◇

我々カナダ市民はともするとカナダの長所に無意識すぎるのではなかろうかという感を強くすることが多くある。新しい融合文化形成の渦の中にある此の新世界の国に生きる喜こびは、既成文化圏に生きるのとは違ったものである。此の小論が我々のカナダを理解し、敬愛するのに少しでも役立ったら、それは筆者に取って願ってもない本望である。(筆者はヨーク大學教授)

似せ花

日登志

故里はとく早捨てたるこの吾れがチープ流れる琉歌愛としむ

寄りつけぬ切賞さなきかたよりた道説く人を神は嘆げかむ

にせものの造花悲しも香はりなく蝶や蜂をも舞ひ下りてこぬ

謹賀新年

高木喜十郎
家族一同
97 Franklin Ave., Willowdale, Ont. M2W 1C1

岡田嘉代
32 Follis Ave., Toronto, Ont. M6G 1S3

渡邊常春
ハルノ
2195 Jane St. Apt. 401 Downsview, Ont. M3M 1A3

新エダ
家族一同
12 Edge Park Ave., Scarboro, Ont. M1L 2E5

山中德太郎
ふみ
66 Claver Ave., Toronto, Ont. M6B 2W2

小林シゲノ
236 Orton Park Road, Scarboro, Ont. M1G 3H4

佐々木周一
みどり
家族一同
6 Roundwood Court, Agincourt, Ont. M1W 1Z2

柴田捨彌
志げ乃
2195 Jane Street, Apt. 908, Downsview, Oet. M3M 1A3

中村源松
トメ
185 Enderdale Road, Toronto, Ont. M6E 4E1

村木靜夫
志津子
102 Cambridge Ave., Toronto, Ont. M4K 2L6

森彦兵衛
滿喜子
133 Glenshephard Drive, Scarboro, Ont. M1K 4N5

小谷敏夫
德幸
1478 Queen St. East, Toronto, Ont. M4L 1E3

龜岡德衛
ヤスエ
201 Greenfield Ave., Willowdale, Ont. M2N 3E2

枝村政雄
ふみ
50 Tuxed Court, Apt. 418, Scarboro, Ont. M1G 3S8

五領義則
輝子
484 Gladstone Ave., Toronto, Ont. M6H 3H9

中津吉之助
ツルヨ
798 Indian Road, Toronto, Ont. M6P 2E5

上高原鉄雄
奈津子
365 Berkeley Street, Toronto, Ont. M5A 2X8

和泉キン
30 Millbrook Cres., Toronto, Ont. M4K 1H8

佐田まつ
24 Mabelle Ave., Apt. 712, Islington, Ont. M9A 4X7

井手律
エドワード
3170 Golden Orchard Dr., Apt. 1604, Mississauga, Ont.

小山登
ヤスエ
225 Rusholme Road, Toronto, Ont. M6H 2Y9

松尾千代次
マサエ
8 Rensburg Dr., Scarborough, Ont. M1K 3A3

滿潮逸男
都里子
20 Bushell Ave., Toronto, Ont. M4M 3B7

西村正一
登美
10 Queensdale, Ave., Toronto, Ont. M4J 1X9

松下一郎
節子
625 Bunting Road, St. Catharines, Ont. L2M 2Z9

水野襄治
家族一同
Box 26, R.R. 1, Kleinburg, Ont. L0J 1C0

角知還
栄枝
家族一同
4188 Gladstone St., Vancouver, B.C. V5N 4Z8

角利顯
おいそ
11 Thornbeck Drive, Scarborough, Ont. M1G 2J7

謹賀新年

荻野カマボコ製造所

荻野ジョージ
家族一同

125 River St., Toronto, Ont.
Phone 363-6751

Mr. and Mrs. George Ogino and Family
Home — 50 Elvaston Dr. Toronto Ont.
Phone 755-9586

謹賀新年

昨年中は一方ならぬご愛顧を頂きました
今年もよろしくお願い申し上げます。

生菓子、煎餅製造業

永見正毅

SEIKI NAGAMI
23 ROSEWOOD AVE., TORONTO, ONT.
PHONE 251-5598

祝聖誕 賀新年

モントリオール
日系人合同教會

牧師 古屋望
信徒一同

MONTREAL JAPANESE UNITED CHURCH
8120 CHAMPAGNEUR AVE, MONTREAL, QUE.

藏の思い出

岡田嘉代

明けて昨年のこと、加州旅行の機会に恵まれて、学生の頃別れた切りの姉と四十何年ぶりに逢った。全くもると云うだけの叔母なのに快く迎えてもらって、ドライブ中も、朝でも夜でもタイムさえあれば、昔の事、今の事、話はつきなかった。

ラスベガスへのあの廣い廣い砂漠の中をドライブしている時であった。昔の話のついでに『おばさんはあの藏に入れられてね』というと、『おばあさんもかね。嘉蓙(自分のこと)も入れられた』という。『嘉蓙が入れられたらね、兄さん(三つ違い)はね、いつもやんが可愛そうだから早く出してやりや』と云ったそうだけれど、兄さんが入れられたら嘉蓙は『兄さんは悪いからうんと長う入れとき』と云ったそうな。嘉蓙はどもならん子だったらしい、と笑った。藏はどうやら代代の刑務所だったらしい。二人ともそれぞれのやんちゃの頃をなつかしく思った事であった。

旅行から歸って東京の兄嫁への手紙にその事を書いて、『藏に入れられた事もなつかしい思い出ぞ』と書いた。そしたら驚いた事に『藏に入れられた話、全く面目ない。あれは私が行っていた時で、重々私が悪かった』と返信が来た。この兄嫁はいとこで、子供の頃行ったり來たりして遊んだものだった。私が藏に入れられたのは藏の上の畑にあつたいくり(小さい桃)を食べたからだった様に覚えている。まだ青いから食べたらお腹を悪くする―と止められていた。それを私が取ったのを上のおばさんが見て母に告げたらしい。

あの時、私のそばに小さい連れがいたような気がするけれど、従妹が居た等とは全く記憶にない。しかしその本人が重々私が悪かった―と告白しているのだから、あの時『とりなさい』とそそのかしたのだろうか―とあの遠い日の事を一層なつかしく 近々と思った事である。そしてその手紙はまだ續く。『秀眞(私のご兄)も入れられたそうですよ。秀眞は藏の中で俵のの物を変せくちゃにしそうな『叱られた上に叱られた事でしょう』とあった。そこで私も又、藏の中での私を思い出す。私も藏の中でじっと謹慎して居たわけではない。必要以上に大きな聲で泣きわめいておいて、さて泣きあきると少し馴れて來た目でいたづらをした様に思う。時間がたって、もうゆるしてやろうと思って藏の戸を開けた時、罪を悔いた娘の姿を見たかったのであろうに反抗的ないたづらの跡を見 母はどんなにか悲しかったであろう―とずっと年取ってから思った事である。

そして、たったあれだけの事で藏に入れられたのだろうか、と思わない事もない。しかし、それは子供の体を心配すればこそ、と思ったり、又数がとても悪い子だったので、数々の辛棒を重ねていた母の堪忍袋の緒がその時切れたのであろう等と思う。私自身そんな子であったので反抗的な子供のしかり方などについて考えたのかも知れない。タシメに居た時『子供のしつけ方』について懸賞を募集した事があった。その時『折を見て心静かにさとしましよう』等と作ったのも根はあんな遠い昔にあったのかも知れない。

それにしても先年日本へ歸った時、あの土藏はもうなかった。そしてその土藏につづいてあった昔風な屋根のある両開きの門もなかった。子供の頃夕方になるとあの門をしめてかんぬきをはめた事であったが―。鉄道の踏切りを無くするために家を大分後へ寄せたのでその時から様子はすっかり變ったらしい。それ以來あの家で育った子供達にはもう藏に入れられた思い出を語る事はない。心の底に焼きついているあの白壁の土藏―。二階には大きな長持があって色々な物が入って居たが、穴のあいた天保銭や丸い鉄か何かで作った鏡などあったが、それ等の物はどこへ行ったであろう。この世からもう姿を消してしまった藏――、しかし、昨日の様に私の心に残る藏である。

秋深くして

門永幸

逝く秋の木の葉ちら／＼散りくれば老いゆく吾の心に似たり

たまわりし薔薇は高き香を放ち優しき友の心偲ばる

珍しく日和つづけば霜月の並木を歩くひまにゆだねて

店頭の味覚をそそる果実は心に顯ち來る古里の秋

夕燒はビルに反射し裏庭の大樹のあかしや燃ゆるが如し

謹賀新年

安部美丸
ヨシ
765 Nairn Ave., Winnipeg, Man. R2L 0X6

平山一郎
和枝
71 Berrydale Ave., Winnipeg Man. R2M 1M1

山本雪子
実
4528 Coolbrook Ave., Montreal, Que. H3X 2K6

野田菊野
ひとみ
164 Cambridge Ave., Toronto, Ont. M4K 2L9

青木まさ
829 West 33rd. Ave., Vancouver, B.C. V5Z 2K5

三宅ツル
105 MacPherson Ave., Toronto, Ont. M5R 1W7

渡邊きを
3112 Beauclerk Street, Montreal, Que.

中村芳代
家族一同
80 Old Mill Drive, Toronto, Ont. M6S 4J9

西田澄江
P.O. Box 99, Raymond, Alta. T0K 2S0

謹賀新年
堀近夫
美代子
231 GROVE STREET, CAMBRIDGE, MA. 02138, U.S.A.

謹賀新年
天理教トロント教會
婦人會一同
26 SHUDELL AVE., TORONTO, ONT. M4J 1C5

謹賀新年
カナダ神奈川同志會
7 CLAY COURT ISLINGTON, ONT. M9A 4S2

謹賀新年
熊本縣人会
会長 佐藤定
29 OAKDENE CRES, TORONTO, ONT. PHONE 466-6506

あけまして おめでとう

伝統の美
高級美術工芸品
SAIKO
phone 921-2702
ヤマザキ
101 YORKVILLE AVE.
Gold Plated Frames, Decorated Swords, Iai-Swords, Majong-pai, Ceramics, Marble made articles, Wedding Gifts and Anniversary Gifts and many other interesting items.

謹賀新年
モントリオール
日系人會
モントリオール市

インフレとその對策

在米　加納　久憲

今世界には種々な重大問題が起っているが、インフレはその中の最も難かしい問題の一つであろう。私は在米生活六十三年になるがその間經済恐慌(パニック)が二度も来て弟が姿を消し貧乏になって苦勞した。ところが今はその反對のインフレで物價が著しく騰貴し困っている。そのため東京などは世界一に暮しにくい所となって、外國からの旅行者も著しく減少したという。昔のように世界の經済組織が物々交換であれば、そんな動揺はないが、今は貨幣制度であるから致し方ないとも言い得る。自由主義國の中で、今日最も堅實で動揺しない國は西ドイツである。

有名な經済學者アダム・スミスの著『富國論』に、物の生産要素は土地・資本・勞力であるが、その中で一番大切なものは勞力である。國民が勤勉であれば、その國は必ず富むと書いている。そのよき例が敗戰國のドイツと日本である。両國民は焦土に立って一生懸命働いたのである。今では両國とも外貨準備高は三百幾十億弗となり、世界中で一番富める國になって、經済戰では勝者となった形である。

ところがインフレが来て、日本は國内で圓が安くなり物價が著るしく上昇し大小の企業が破産しているという。西ドイツは、依然として堅實な歩みを續けて國民は平和に暮している。その違は如何にして起ったか。西ドイツの安定している經済は両國の巧みな經済政策だけでなく、その背後に教育と宗教という見えない力が加わって、人々の内面を強く支配しているからである。即ち西ドイツのキリスト教的倫理・道徳は非常な力をもっている。換言すれば、西ドイツの學校教育はキリスト教精神で行われている。日本では戰後民主々義や自由主義によって、個人主義や自己の權利を主張する事を教えられたが、宗教的でなかったのみならず、日本の憲法では宗教々育は禁止されている。西ドイツでは憲法で宗教々育が義務づけられている。だから西ドイツ國民は年少の時から神を畏れ敬い、人間の尊厳性を尊重し、進んで社會のため人のために盡すように教育されている。

私達の若い頃は、孝は百行の基と教えられ、日本民族は一大家族で天皇は本家の主人公であるから忠誠を盡すべしと教えられた。ナザレのイエスはキリスト即ち救世主と仰がれている偉大な聖人であるが、我がこの世に来たのは人に仕えられる為でなく、人に仕えん(奉仕)為である。即ち人には滅私奉公の心と實行が大切で、自己中心で利己的であってはならぬ。聖書に神を畏れ、その戒めを守れ、これ全ての人の本分なりと書いてある。西ドイツでは勞資がよく協力一致しているから、ストライキがなく、皆一生懸命愉快に働いている。

現時点において、日米両国の協力は、世界の平和と繁栄上に最も大切であるから、新年を迎えるに當り、両国民は三省自戒し、その大任を全うするよう努力しなければならない。

謹賀新年

井谷須磨子
村田一哉
照美
802-1979 Pandosy St., Kelowna, B.C. V1Y 1R9

高木博記
静枝
Box 55, Ruthven, Ont. N0P 2G0

岡本剛
母　政江
家族一同
21 Black Creek Blvd., Toronto, Ont. M6N 2K6

金駿杓
守貞
家族一同
88 Wickson Trail, Scarboro, Ont. M1B 1P3

廣田早男
哲子
4331 Garry Street, Richmond, B.C. V7E 2T9

林林太郎
家族一同
3231 Garry Street, Richmond, B.C. V7E 2S7
Tel. 277-7863

坂本卯之助
家族一同
11880 Railway Ave., Richmond, B.C.
Tel. 277-8147

松原武雄
ヨシ子
5400 Francis Road, Richmond, B.C.
Tel. 277-8552

謹賀新年
堀部幸三郎
ぬい
64 Welbourne Drive, Hamilton, Ont. L9A 3N4

謹賀新年
一月一日
バンクーバー
日本語學校
維持会
母姉会
教師一同
475 ALEXANDER STREET, VANCOUVER, B.C.
PHONE 254-2551

SATO FOODS
5320-17th AVENUE SOUTH EAST, CALGARY, ALBERTA,
TEL: 248-7515

謹賀新年
今年もよろしくお引立お願い申し上げます。
佐藤食料品店
佐藤香代子
カルガリー市東南十七番街五三二〇
電話　二四八－七五一五

謹賀新年
中西商店
日本食料品
ギフト用品各種(オタワ市)
NAKANISHI JAPAN FOOD STORE,
465 Somerset Street West, Ottawa, Ont. K1R 5J7
JAPANESE GROCERIES & GIFTWARES

New Orient Express
Of Toronto Ltd
45 Richmond Street West, Toronto.
Ontario M5H 1Z2.
Phone (416) 361-1994

謹賀新年
明けて千九百七十九年、新春のお喜び申し上げます。旧年中のご愛顧を感謝し、本年も倍旧してのおひきたて頂きます様お願い申し上げます。
ジミー野瀬
社員一同

謹賀新年
本年もよろしくお引立ての程お願いいたします
宮本食料品店
モントリオール市
セント・ヒューバート街
五九九七
MIYAMOTO PROVISIONS,
5997 St. Hubert Street
Montreal, P.Q. H2S 2L8
Phone 274-3159

謹賀新年
慈光照護のもと、みなさまには佳き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。
一九七九年一月元旦
モントリオール佛教会
開教使　高畑崇導
会長　鹿谷喜久男
白道会
婦人会
サンガソサイティ
ダーナクラブ
エム・ビー・ワイ
日曜學校
役員信徒一同

随筆 刀剣と私

興志麿

日本刀の受難時代と云えば先づ明治九年の廃刀令で武士の帯刀が禁ぜられ、不用物になった刀が邪魔物扱いにされた末、物好きな外国商人が二足三文束にして持ち去ったという。次の受難期は進駐軍の刀狩りで、敗戦国の悲しさ、—命令におびえて家の床下や倉の奥に隠していた伝来の刀まで、ひどいのになると神社の宝刀にまで手を延ばしたというから真の愛刀家は涙を呑んだことであろう。

昭和二十八年頃、日本美術刀剣保存協会を中心とする関係者の涙ぐましい努力で美術の刀剣としての意義と価値がやっと認められ、登録制による個人所持が許され、次第に国運の隆盛に伴って日本のオリヂナルな工芸美術を見直し、研究する機運が盛り上がって来た様である。

九州周防灘に面した漁村で育った私の家の隣が古い武家屋敷で、主人は八幡製鉄に務めているとかで種々な樹木で囲まれた広大な屋敷の留守番は祖母と私より三つ年上の腕白息子がいるだけ。私達はお婆さんの昼寝を見計って倉の中から無数にある刀や薙刀を持ち出していつも叱られたものだが、その頃、この小さな町にも映画があって坂東妻三郎、月形龍之介等の剣劇が風靡して手製の木刀でチャンバラ遊びに夢中になった懐しい想出がある。

一九四六年の夏タシメ閉鎖でサ州ムースジョウに移され、翌年春ウィニペグに移動、戦後の酷しい生活再難が始まったのだが、その閑暇があると古物店、骨董屋、質屋等をのぞく様になり、思いがけなく最初の刀に巡り会ったのが病つきで、今日に及んでいるが、古刀、新刀、新々刀、現代刀に至るまで一通り揃った。

忙しい農業のかたわら斯うした刀剣の勉強をやろうと云うのだから無理な話だが、七年程前に東京に本部を置く日本刀剣保存会に入会し、隔月毎に送って来る「刀剣と歴史」を読み出してその研究の深さに驚き、趣味で刀をもて遊んでいる様な悠長なものでない事を思い知らされたものである。同会発行の『刀剣と歴史』は明治後期に創刊され戦時の空白を除いて今日に到り五〇五号を数えているが、ツバや拵え等の研究も一流所。日本刀剣界で最も古いものと云えよう。

先年同会の常任幹事吉川賢太朗先生が米国各地を視察され、博物館や個人のコレクションを調べて廻り、その報告中現在米国内に少くとも三十数万振の日本刀があり、三分の二以上は太平洋岸に集中、羅府や桑港に刀剣会やクラブが出来て愛刀熱は年々盛んになっていると述べている。

最近ウ市の白人が終戦当時叔父が香港から持ち帰った刀があるからみてくれないかといわれて調べたが、なかごに長運齊江村と切ってあり、刀工総覧其他の参考書を探してみたがわからず、吉川先生に文書で問合わせたところ、次の事が判明した。

お尋ねの長運齊江村は戦争中の現代刀です（昭和十七年から二十年頃）作者は岡山の陸軍刑務所の所長で江村と言う姓です素人ですが本格的に勉強し当時多量に要求された軍刀身を製作し亦同所の因人にも鍛錬研磨させていました。これらには單に『江村作』と切り一般には『江村刀』と呼ばれていました。一部には囚人が造ったものと嫌われたものです。

昨年は日系百年祭でカナダ全土に散在する日系人によって各種の記念祝賀行事が行われたが、カナダで最初と云う『日本刀展示会』がトロント百年祭協会、日系文化会館、ロイヤル・オンタリオ博物館共催でト市のサイエンス・センターで催された事が私にとっては最も印象深いものであっ

（七面につづく）

新年あけましておめでとうございます

日加學園

教師、父母一同

CHURCH STREET PUBLIC SCHOOL

（トロント・メープル・リーフガーデン東北角）

謹賀新年

ジャパン・トレードセンター（ジエトロ）

所長 藤村達雄

所員一同

JAPAN TRADE CENTRE
Suite 700,
151 Bloor Street West,
Toronto, Ont. M5S 1S8

賀正

竹屋流生花

正尚會及び
會員一同
家元 桑原正尚

2417 Marriette Ave.,
Montreal, Que.

A MERRY CHRISTMAS AND
A HAPPY PROSPEROUS NEW YEAR

Toronto Japanese Seventh-Day Adventist Church
Sabath School Bible Study Saturday 9:30 am
Worship Service, Saturday 11:00 a.m.
19 Mortimer Ave., Toronto, Ont.

Koei Aka, Pastor

祝 聖主降誕

謹賀新年

トロント日系セブンスデーアドベンチスト教会

牧師 阿嘉廣英
信徒一同

安息日學校聖書研究 土曜日午前九時半
禮拝説教 土曜日午前十一時
トロント市モーティーマー街一九
電話 四九一—六七四〇

新年と移轉のご挨拶

このたび十二月十日よりラドナーから晩市に移轉致しましたことをお知らせ申し上げます
皆様のご多幸を祈りまして紙上を借りて新年と移轉のご挨拶を申し上げます

川瀬さと

Mrs. Sato Kawase
7170 Oak Street,
Vancouver, B.C.

謹賀新年

一九七九年一月一日

樫野純公認会計士事務所

523 THE QUEENSWAY,
TORONTO, ONT. M8Y 1J7
PHONE 255-7341

樫野純 C.A. マーティン・ランスバーダ B. Comm., F.C.A.
大塚マイク C.A. 手塚マイク C.A. 西川実 ウエスリイ・ギテンズ
吉岡三郎 那須グリー 石川和佳子

あけましておめでとうございます
今年もよろしくお願い申し上げます

SASAYA
ささや日本料理店
SASAYA RESTAURANT
257 EGLINTON AVE. WEST,
TORONTO (EAST OF AVENUE ROAD)
TEL. 487-3508

謹賀新年
ステブストン武道館
STEVESTON MARTIAL ART CENTRE
4100 MONCTON ST, STEVESTON, B.C.

柔道々場
柔道後援会

ステブストン武道館
剣道々場

ステブストン武道館
空手道場

祝聖誕 賀新年
ハミルトン日系人合同教会
牧師 ウイリアム・ハームス
信徒一同
日曜學校
HAMILTON JAPANESE UNITED CHURCH
715 UPPER GAGE AVE, HAMILTON, ONT.

謹賀新年
松尾新一
家族一同
90-811 SAUNDERS ROAD,
RICHMOND, B.C. V7A 4L9
PHONE 277-7261

謹賀新年
ステブストン佛教会
婦人会、壮年会、青年会、日曜學校
開教使 岡田眞治
436 Garry St., Steveston, B.C.

祝クリスマス 一九七八年
謹賀新年 一九七九年
ステブストン
合同教會日系人部
牧師 今井ゴードン
信徒一同

祝聖誕 賀新年
ハミルトン聖十字教會
婦人會、信徒一同
HAMILTON HOLY CROSS CHURCH

謹んで御降誕を祝し
新年を賀す
田中(北條)時一
きずゑ
64 Northumberland Street,
Toronto, Ont. M6H 1E3

謹賀新年
弁護士 鬼塚敏三
Ste. 615-425 UNIVERSITY AVE., TORONTO, ONT.

祝降誕 賀新年
マニトバ日系人合同教会
牧師 正木義道
信徒一同
MANITOBA JAPANESE UNITED CHURCH
400 EDMONTON ST, WINNIPEG R3B 2M2. MAN.

新年のおよろこびを
申し上げます
一九七九年元旦
グラッドストーン
日本語學園
村上陽子
職員一同
ピー・チー・エー一同
GLADSTONE JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
6450 GLADSTONE ST.
VANCOUVER, B.C.

謹賀新年
一月元旦
布禮里句会員一同
D. KITAGAWA
Box 2256, Taber, Alta.

謹賀新年
今年もよろしくお引立て願います
トーブラム
サービスセンター
自動車エンジン専門
エレクトロニック・チューンアップ
各メーカー車の一切修理
栗栖 ビル 熊谷 ケン
山崎 タック ポール・バーネット
TORBRAM SERVICE CENTRE
7171 Torbram Road, Unit 20-21,
Mississauga, Ont. L4T 3W4
Tel. 678-1934

謹賀新年
一九七九年一月一日
東部カナダ
和歌山縣人会
226 EVELYN AVE.
TORONTO, ONT. M6P 2Z9

奉祝聖誕 恭賀新年
南部アルバータ
日系人合同教会
牧師 村田豊恒
信徒一同
Southern Alberta Japanese United Church
821—9th Ave. North, Lethbridge, Alta.

刀剣と私

（五面より）

た。

私の重刀も主催者側の要請で『兼光太刀』と懐剣基光を出品、兼光太刀は二尺三寸反九分、表に梵剣裏に八幡大菩薩の彫があり、刃文直刃地鉄は縮緬肌、古調の平造、懐剣は黒田家の女性の持物と傳えられ基光と鑑られている。基光は正宗の弟子、この懐剣を裏付ける文書があり、私にとつては貴重な一振。出品者としてプレビューに招かれ日本から初めて海外に出たと云うツバや刀の名品を観賞出来た事。そして私の愛刀もこの檜舞台に出して貰い重要級の名刀の露払い役をさせて貰つた上、多くの方方に観賞された事は望外の喜びであり、この意義ある記念行事を遂行された方々に敬意と感謝を新たにするものである。

謹賀新年

窪田隆元
玉子

1304-13th Ave. North,
Lethbridge, Alta. T1H 1T4

謹賀新年

小林菊造
よし子

21 Market Street,
Port Dover, Ont. N0A 1N0

謹賀新年

甲山い
フサ
尚美

Mr. & Mrs. K. Koyama
6781-12th Ave.,
Rosemont, Montreal, Que.
H1X 3B2

onteora
canadian japanese cultural institute
243 fennell avenue east
hamilton canada L9A 1S8

賀正

ハミルトン
日系市民協会

賀正

平素のご愛顧を感謝申し上げると
共に皆様のご多幸をお祈りします

オンタリオ
グラフイック
サービス社

社長 狩野牧男
（ジエームス）
他従業員一同

ONTARIO GRAPHIC SERVICE LIMITED,
172 TORYORK DRIVE,
WESTON, ONT. M9L 1X8
TEL. 745-5256

Season's Greetings

あけまして
おめでとう
ございます

舊年中は皆々様より多大のごひいにあづかり有難く
あつくお禮申し上げます。
どうぞ今年もよろしくお引立て下さるようお願い申
し上げます。

タイムススクエアー
旅行センター社

1157 MELVILLE STREET,
VANCOUVER, B.C.

6720-NO. 3 ROAD
RICHMOND, B.C.

Season's Greetings

謹賀新年

永年のお引き立てを感謝致し
本年も宜敷くお願い申し上げます

日本料理
みち
割烹、鍋料理

日本料理
まさ
割烹、鍋料理

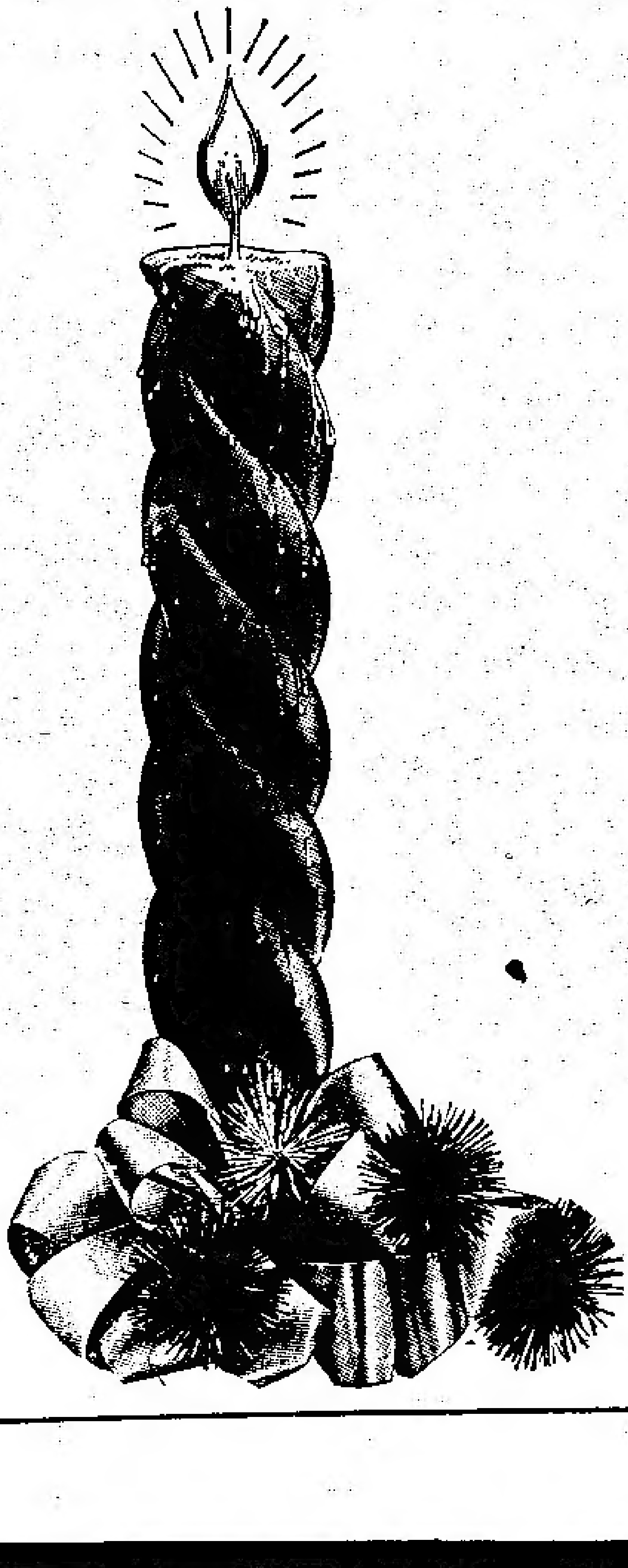
壽司まさ
江戸前にぎり鮨

テイクアウト ショップ
ゲイリーズ
牛丼、チキテリ丼、カッサンド
トロント市 西リッチモンド街

MICHI DINING ROOMS
459 CHURCH STREET
TORONTO, ONTARIO
TEL: 924-1303
924-7501

MASA DINING LOUNGE
195 RICHMOND ST. WEST
TORONTO, ONTARIO
TEL: 863-9519
863-9506

GARY'S TAKE
OUT-SHOP
TEL. 362-2302



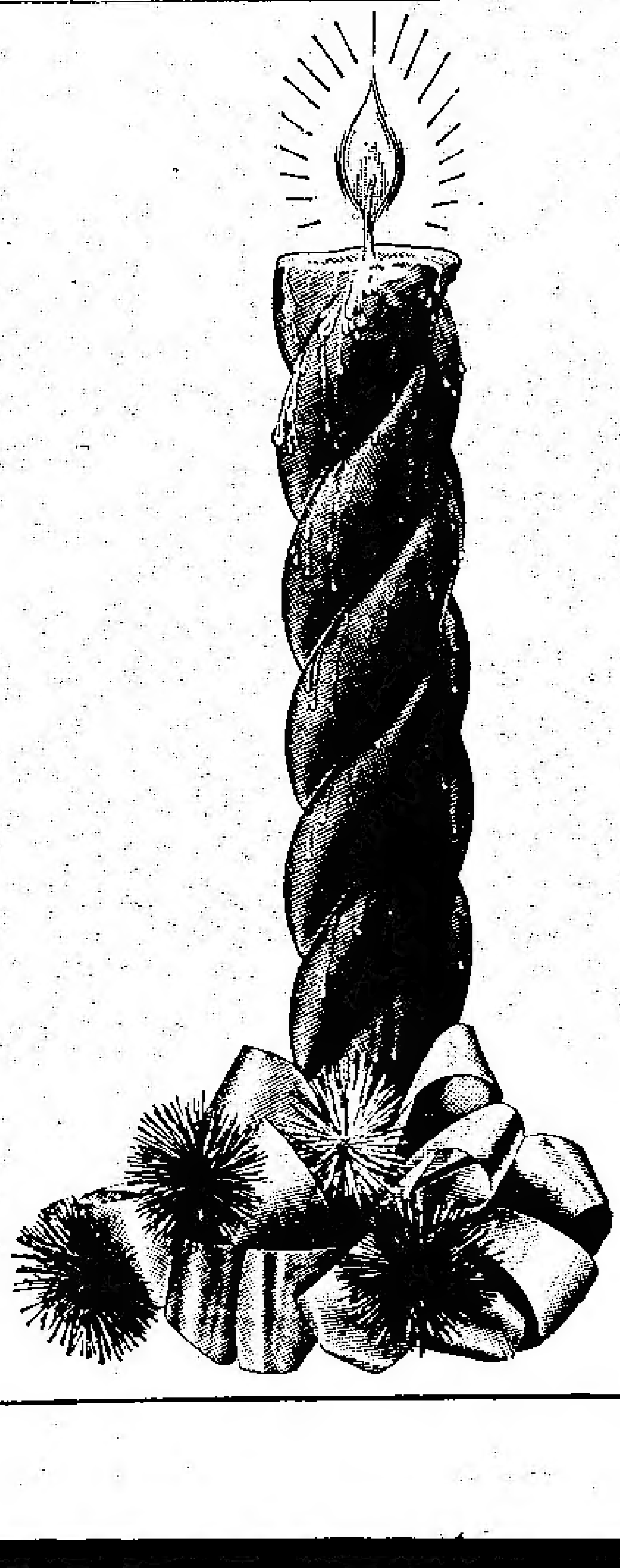
謹しんで新春の
お慶びを申し上げます

本年も倍舊の御愛顧の程
よろしくお願い申し上げます

一九七九年一月一日

Panasonic
just slightly ahead of our time

PANASONIC INDUSTRIES CANADA LTD.
1475 the Queensway Toronto 18, Ontario (416) 252-1052
MATSUSHITA ELECTRIC OF CANADA LTD.
40 Ronson Drive Rexdale, Ontario (416) 248-5551



ニューカナディアン

THE NEW CANADIAN
479 Queen St. W.
Toronto M5V 2A9
Tel. 366-5006
Second class mail
No. 0366

一九七八年度 特別号(一)

「チャイニーズ・アンバサダー」

大使 須磨未千秋

新年早々日本の大使が「チャイニーズ・アンバサダー」とはこれ如何に。

昨年秋、或る晴れた午下り、午餐に招かれた機会に、トルドー首相は私の質問に答えてこう言った。「カナダは外の世界には興味はないんだよ」と。これはトルドー首相一流の言い草であって誇張に過ぎまいと思っていた。

ところがどうだろう。私が着任直後以来、カナダの新聞に日本のことが必ずしも正確に報道されていない。経済問題以上はちっとも分っていないようである。館員の諸君にそう言ってきた。今まで大使館の広報活動は何をしていたんだとしかられると思ってか、館員の諸君『そんなことはありません』と答えてきた。

昨年十月の半ば二日続いたジャパン・ナイトに出席するためトロントを訪れた。一つは銀行家の集りのオンタリオ・クラブ。これは[illegible]の折紙つきもあつて素晴らしかった。ディナーの後の私の挨拶にも笑いかつ拍手をして敏感に反応した。

ところが翌日がスカーボロのロータリー・クラブの集り。半分がタキシードを着込んでいた。会場は日系人文化会館。話はこれからである。ディナーに入る前にクラブの会長がアナウンスをする。曰く『本夕は貴賓がご臨席になっておられます。チャイニーズ・アンバサダー・オヴ・ジャパン』。中には変だと思った人も居たらしく、オー、とか笑い声が洩れた。

会長は自分の誤りに気付いたか、私に『お許し頂けますか』と詫びを言った。私は『いいんですよ。私は日本語と同じ位、中国語を話しますから』と答えておいた。

ディナーが終ってショーが始まる前に、我々夫婦以外の唯一の日本人夫婦、トロントの船坂氏が立って私を紹介した。私はその後求めに応じてやおら立って、先ずロータリアン、サンディ(船坂氏のニックネーム)の紹介を謝し、今晩タキシードを着て来なかったことを詫びた。『もし彼が予め知らせてくれたら如何に貧しい大使といえども、タキシードの一着位は持っていも。しかしだ、チャイニーズ・アンバサダー・ネバー・ウエアズ・タキシード』とやったら、満場が拍手喝采、爆笑して止まらない。

私がわざわざ皆を静めるヂェスチャーをして、又続けた。『サンディーの語るところによると、今晩お集りの方々の中には日本食に恐れをなして、クラブに洋食の用意をしてくれと頼まれた人達がいたと聞いている。無理からぬことでしょう。しかし、私の味わったところ、今晩の日本食は大丈夫だと思う。もしこれで腹痛を起した方がおられたら、直ちに日本大使館に報告ありたい。中国大使館ではないぞ』。これで又爆笑の渦となった。

この会長氏は八百屋や魚屋の店主ではないのだ。れっきとした大会社の社長である。彼は言い間違えたのでも何でもない。それが証拠に彼自身はしばらく気が付かないでいた。

元来チャイニーズ・アンバサダーだけならば意味を成す。オヴ・ジャパンでは何のことか分らない。つまり彼の、と言うか、多くのカナダ人の頭の中では、中国も日本もごちゃ混ぜになっているのである。まだフジヤマ、芸者の日本と分っているのなら、ましかも知れない。もっとカナダ人に日本を分って貰う必要があると思う。私のやるべきことはまだまだありそうである。(写真は須磨大使)

トロント雑感

大原裕子

ヨーク大学とトロント大学でカナダ史を勉強するという目的で、三カ月の予定で初めてやって来たトロントであったが、雪を見て帰ることになった。短かかったという気もするが一九七八年の秋に味わった貴重な経験を反すうすると長かったというのも実感である。トロントを去るにあたり、ここで感じたことを記させて頂いて責を果したい。

トロントの印象として第一に甦えるものは、ここが適正規模の都市である、ということである。適正規模の都市の良さは、多様な生活が営める、ということにあろう。具体的に云うならば、私の比較的よく知っている都市、東京およびヴィクトリアと比較すると明らかとなろう。東京は大きすぎ、ヴィクトリアは小さすぎ、双方ともにそこに住む人間の生活を限定するきらいがある。

東京では場所の移動に時間がかかりすぎて、毎日は仕事と家の往復がやっとである。仕事の帰りに音楽会へ行く、或は家へ帰ってから客をもてなす、といった類のことをするには相当の努力を必要とする。

小さすぎるヴィクトリアでは移動の時間こそ少なく帰宅してから近所の森へタ食を持参して自然との触れ合いを楽しむにはこと欠かなかったが、文化生活の楽しみは少なかった。研究生活には恵まれていたが、要するに大學と家を往復し、せいぜいピクニックを楽しむというのでは、余り多様な生活とはいえない。

この点トロントは理想的である。大學のすぐ傍に住みながら自然を味わい、藝術鑑賞に事欠かず、という生活の楽しさは、ここに住んでいらっしゃる方に説明の要はないであろう。ここを去るのがつくづく惜しまれる所以である。

カナダ史學界の一方の雄をなすメトロポリタン學派はカナダの歴史を、カナダとパリ、ロンドン、ニューヨークといった都市、そしてカナダ内の諸都市と周辺地域の機能的関係と相互作用を軸に説明しようとするものであるが、元来この考え方が主要商品産出と結びついているので、私はこれまで専ら経済的側面を強調して考えて来た。しかし、トロントに来てカナダの都市を観察する機會を与えられ、その見直しを迫られている。

つまりトロントに代表されるカナダの都市とは公共機関のサービス等を含めて全体的なカナダの生活水準文化程度を示す指標としてとらえるべきであり、メトロポリタン學派とは都市と周辺の相互作用を総合的にいわば思想の交流も含めて把握するものではないかということである。しかしこれは私にとって将来の宿題であり、解答をもつのは先のことになろう。

トロントの印象の第二は多様な民族の存在ということである。私は八年前に二年間ばかりヴィクトリアに住んだことがあり、ヴィクトリアでも日本では想像できない多くの民族の中で暮していたが、皆がほぼ英語を話すという点では一致していた。しかしここでは地下鉄の中で、大學で、街路を歩いていて、各種の言語が聞こえてくることに印象を深くした。これがカナダのマルティカルチュア主義というものか、と感激的に受け止めていたのであるがこれも最近になって考え直すことを迫られている。

アメリカ合衆国や日本と比較してカナダの「後進性」が問題とされることは少くない。とくにカナダ内部で先進地域と後進地域の差の大きいことが問題となっている。トロントはカナダの最先進地域の一つであるが、このトロントですら多くの民族がそれぞれの言語生活習慣を守って暮していることに思い及んだ時それを奨励する形のマルティカルチュア主義は、カナダ社会の保守化、固定化を促しているのではないかと考えている。

一方、私たち日本人はカナダ人とは対照的に同一の価値観になびき易く、それが日本を現在のような世界の最先進国の一つにした主要因ではあった。しかし、その先進性に伴なう諸問題に苦しんでいるのが日本の現状であり、その解決策の一つをカナダ人の多様な価値観を学ぶことに求めることができるのではないか、と考えている。日本へ帰ってしまうと、日本人の同質性について外国で感じた異和感をつい忘れてしまいがちなのであるが、今度はトロントを想い出すことによって、価値の多様性への願望をずっと抱いていきたいと思っている。(筆者は東大アメリカ研究資料センター研究員)

正月

ト市 川端龍

正月がくれば年賀状を書き、オセチ料理を祝い、トソ酒を飲み七草を食べる。それを見て子供はなぜそんなことをするのだときく。先生が生徒に「なぜ」「どうして」と疑うことはよいことだと教育するせいか、近頃の子供はやたら質問する。

正月が来たからそうするのである。その間に理くつはない。おとなの中でもそんなことは舊式だ虚礼だという人がいる。大きなお世話である。

例えば年賀状だ。友、遠方より来たる、また楽しからずやだ。たとえ謹賀新年の文字は印刷であろうとも少くとも宛名だけは手で書かれている。思い出してくれる人があり、一年に一回お互いに生きている証拠を見るのはうれしいことなのだ。新年おめでとう、とたった一行書かれている行間に無限の意味が読みとれるのだ。子供が裏、表ひっくり返して見て「たったこれだけ……」ときくが、老人にとってたったの一行であってもそこには沢山のことが書いてあるものだ。

昭和二十七年といえば日本が戦争に敗けて間もなくのことだが、ある代議士がイタリーのローマに旅行をした。彼はローマの名所の「廃墟」を見て日本の選挙区の一人一人に絵葉書を書き送った。「イタリーの復興いまだ成らず。ローマの町は崩れたままだ」と。彼はホテルでそれを徹夜でせっせと書いて送った。人は彼の無知を笑った。しかし手紙のくることの少ない村の人はたいへん喜んだ。

もう一つ逸話がある。この代議士は、秘書に書いて貰った演説の原稿を棒読みにして読んでいく中に、「この辺で水を飲んで……」と親切な秘書が書いてくれた分まで読んでしまって聴衆の爆笑を買った。私は少々ばかりテクニックはまずくともマジメな人間味溢れる人間を好む。少くとも一枚の年賀状を書くことを惜しむ人よりは……。

正月は一年一回がよいと思う。一年に二、三回も確実にやってこられてはたまったものじゃない。そのたった一年一回の正月に昔のような楽しい正月の行事や遊びを知らない今の子供たちを気の毒に思う。だから「ノッペラボー」の一年より知らない子供との対話がチグハグになったり、食い違うのは当り前のことだ。「テレビの一年」である彼等と話を合わせるには相当の努力をしなければならない。

だから、そういう年代から正月になぜあんなことをするのかときかれても困るのである。元来、習慣にはそれぞれの意味があっての

(三面につづく)

謹賀新年

内田一作
肇子
225 Rusholme Road,
Toronto, Ont. M6H 2Y9

中村源三郎
きみ
3863 West 18th Ave.,
Vancouver, B.C. V6S 1B4

神野花子
千代子
和子
神野常雄
千鶴
家族一同
193 Cowan Ave.,
Toronto, Ont. M6K 2N7

年賀欠禮案内

老齢につき年賀及びクリスマスの儀を欠きます

佐賀潤重
かつの
4724 Nordegg Cres. N.W.,
Calgary, Alta. T2K 2M5

小林知明
111 Hearst Circle,
Toronto, Ont. M6M 2V4

高木喜十郎
97 Franklin Ave.,
Willowdale, Ont. M2N 1C1

新里きたよ
20 Edgecliff Golfway,
Apt. 1610,
Don Mills, Ont. M3C 3A4

内山マス
家族一同
89 Lincoln Place,
London, Ont. M6C 2C3

老齢につき年末年始の儀を欠きます

藤野アキ
34 Christopher Drive,
Hamilton, Ont. L9B 1G7

病気療養中につき年賀のご挨拶を失禮いたします

ニッポニアホーム
泉吉四郎
妙子

喪中につき年末年始の儀を欠きます

春原順一
美井
家族一同
A.J. Sunohara
2388 Hazelynn Place,
North Vancouver, B.C.

沖野カン
勝行
家族一同
リッチモンド

大方ミサオ
大方一心
博子
家族一同
2242 Clifton Ave.,
Montreal, N.D.G. Que.

岩田ジョージ
バーバラ
538 St. Germain Ave.,
Toronto, Ont. M5M 1X2

父常盤政治の死亡のためクリスマス並びに新年のご挨拶を失禮いたします

常盤ボール
トシ子
家族一同
Paul Y. & Toshiko Tokiwa
105 Bellingham Drive,
Hamilton, Ont. L8V 3B5

喪中につき年末年始の儀を欠きます

森スミ
森ビル
森マス夫妻
林スー
畑中ハレー夫妻
小山フレッド夫妻

大橋たけ
民雄
5600 Sheppard Ave. East,
Apt. 216,
Scarborough, Ont.

大橋義一
文子
大橋満
美子
江畑猪三
静枝
中村正信
雪枝
江畑龍太
好枝
トマス・ベン・菊枝

親戚に不幸がありましたので年末年始の禮を失禮いたします

本間蓮枝
319 Empress Ave.,
Willowdale, Ont. M2N 3B5

實姉死亡につき年末年始の禮を欠きます

坂東一衛
坂東テルエ
31 Fairview Dr. S.E.,
Calgary, Alta.

あけましておめでとうございます
ことしもよろしくおねがいします

國語教室一同

MAILING ADDRESS
c/o KEN AKITA,
4 KINGS POINT DRIVE,
TORONTO, ONT. M3Y 1Z4

謹賀新年

キャルガリー佛教会
佛教会 牛田享成
婦人會 日曜學校
708 Alder Wood Place, S.E.,
Calgary, Alberta T2H 2B4,

謹賀新年

ケローナ日本語學校
1065 Borden Ave.,
Kelowna, B.C. Phone 762-6850
語學校維持会
教師一同

謹賀新年

願力不思議の初日の出　仰ぐ今日こそめでたけれ　一大事たった一度の一大事　しる人あればたづねたいものであります　合掌

大辻喜兵衛
りと
2-1785 Adanac Street,
Vancouver, B.C. V5L 2C8

Season's Greetings

OMI OF JAPAN

615 — 2nd Street S.W.
CALGARY, ALBERTA
PHONE 262-2866.
CASCADE INN, BANF ALBERTA
(CATERED BY OMI)
カルガリー本店
バンフ支店
カルガリー サウスセンター モール支店

謹賀新年

本年もどうぞよろしく

近江ステーキハウス

謹賀新年

SUKIYAKI HOUSE
JAPANESE RESTAURANT
517-10th AVE. S. W.
CALGARY, ALBERTA T2R OA8
PHONE 269-9153

毎度ありがとうございます
どうぞ本年も宜敷くお引立ての程をお願い申し上げます

日本料理店
スキヤキの店
大山迪隆
他従業員一同

廣陵の健兒

五十年の昔をしのんで…

バン市　數田生

一九一九年の秋、六名の人數で一つの会を創った。これが原動となり、會の發展伸張の方法として一時解散の手段を取り、數ヵ月の準備工作をして一九二〇年の春、十四名の會員を集め、メーンとパウエル街の角にあった田邊ルームス（田邊房之助氏）の地下室を借りて正式に發足した。會名を『カナダ廣陵青年會』とし、會長も役員もなく、ただ幹事（數田）一人で當分の間會費募集から会部やる事になった。

會の第一の目的は當時安藝・備後と仲間割れの形であったし、又安藝のなかでも參觀出身村人は別個に新年宴会もやるといった状態であったのを一つにまとめる廣島縣外協会時代のコジレなどもあって、感情的にも色々問題があるのを解消するのにあった。

先ず新年宴会を一つにするためメーン街の梅香料亭で新年親睦会と銘打ち開催した。出席者は五十四名、会費二弗。これは確かによい結果を見た。翌年も第二回新年親睦会と銘打って吉野料亭で開催。出席者八十五名、これで個々の宴会をなくする事に成功した。

夏にはピーシー大学下のビーチでピクニック。ここは急な坂下で道もなく青年会員は子供をだいて降りる。弁當を運ぶことなどで大變な骨折り。その努力を毎年繰返した。電車は四街をアルマ街迄しか行かない。そこから会場迄タクシーでの送り迎え。どこの人もおかまいなく自動車で運んだので五百人位の参加があり盛会だった。青年会の若人はよく働いた。大きな骨折りを楽しみをもってやってくれた。日本から來た若人が中心で、老人や子供が樂んで喜ぶのを喜び合い苦勞を忘れるのであった。

慰勞の夕食会では半分会が出し、半分は自弁。一日中踊をしあって大きな満足感にみちはしゃいだ。ピクニックの支度に徹夜する事もあったが、その働きぶりは縣人先輩や一般世間の認めるところとなり、大いに援助して貰った。

田邊さんは二ヵ年位無料で一ルームを事務所に提供して下さったし、その後ダンレビー・ルームス經營の上西寛之助氏から二ルーム續きのをごく安いレートで事務所兼集會に提供して頂くなど會は順調な歩みを續ける事が出来た。昭和四年御大典を記念して少年部を設け、十歳から十六歳迄の少年が三十二名毎日曜日に集って日本の歴史、風俗、習慣などを教わり、ボーイスカウトの規約を会則として精神修養に努めた。

夏には一泊キャンピングをやった。これは大きな成功で親達から大變喜ばれ、会に益々援助の手が伸びて充實の度を増し少しおくれて女子部もおいた。積立貯金部も設け一時は一千七百弗の積立をしたが、満洲事變で國債が下り、引出す者が多くなったのでメンバー協議の上会員に拂戻した。この積立に依って會としての利益をあげる所まで行けなかったが誰一人として損をした者もなく、責任者には金メダルの記念品を贈って解散した。

劍道部はステヴストン青年會と親善試合を催したが、一回だけで續かなかった。一方辯論部はス村青年会と連合で毎年一・二回の演説會を開いた。これは相互に確かに青年修養に役立った。

（廣陵青年会員のキャンピング）

陸上競技は初めス青と廣青とがステヴストンの廣場でやったが漸次その輪を廣げてバン市内にある青年諸團体が参加するようになった。無論朝日ベースボールクラブも参加した。場所はコンジョンス・ベースボール・グラウンドを借りて毎年夏技を争い、各團体間の親善と技術向上に貢献したのである。

初めは参加團体が費用の割出しでいたが、後には廣青で全部負担するまでに會は鞏固の基盤の上に立っていた。廣青会歌を作るべく各自が研究を進めていた。山田利夫君が歌の原稿を持って來たので皆んなで修正して立派な會歌を作り、會員は力強く歌って歌のもつ理想に向っていた。その頃ヤマタキャレーの山下新太郎氏が謄寫器を提供、これは会運營の上に大きな働きをした。

記録帳がないのでハッキリした年月は不明だが、廣青の上に縣人会を作る事になった。その目的は廣青の業務援助のためで會費募集ピクニックの会費集めの役であった。ここで兩者關係を圓滑に進めるため、中山義一氏の提案で『廣島縣人会の事務は廣陵青年会をして處理せしむ』という一ヵ條を会則に入れて兩者の立場を明かにした。

縣人会員より二十四名の委員を擧げ、二人が月當番となり、會員の病院見舞、葬式の会葬、領事館の催しごと、日本人會主催の連絡協議會等に出席せねばならないと義務づけられていた。年次總会の司会をせねばならないと云うきりきめは大きな成果をあげ、会員啓發に役立った。会員不幸の際に備えて資金が積立てられたが、この会則を適用をしないうちに第二次大戦となり、そのまま戦後に持ち越された。積立金と廣青の基本金とで七百弗前後あっただろうか。それを始末するためトロント在住の会員の方々が協議の上、廣島の難民救済資金として送金された。

一九四一年の秋、廣青創立滿二十周年祝賀演藝会を語學校ホールで開催したのが最後となった。總移動で解散の止むなきに至った事は殘念であった。創立以來四回位基金募集演藝会を催したが、その都度大成功したという事は縣人先輩諸氏や一般の諸兄姉方の絶大なる支援と青年会員がよく團結して骨身おしまず働いたという兩者の氣合が一致したことにあるのを想い浮べて過ぎ去った五十有余年間に接した人々の顔を浮きぼりにして見て感慨にふける私なのである。カナダ全土に散らばる會員よ健在であれ、尚頑張れと聲をかけたいのである。これが近頃の私の氣持である。

最後にお願が一つ。日系總移動令で事務整理した時、若手メンバーが青年会縣人会少年部の記録、縣人名簿を一人一冊づつ三、四人がわけて保管している筈であるから保管のブックをお手數ながら私の所に送って下さい。何とか県人の記録をまとめておきたいと思いますので、青年会縣人会の記録及び名簿は是非送って頂きたい。

Mr. K. Kazuta,
2436 Dundas Street,
Vancouver, B.C. V5K 1P6

正月

（一面より續き）

ことである。彼等にあんなしち面倒な舊式の結婚式をなぜするのかときくと答えられないのと同然である。

古い習慣を守ったり、人のやらないことをやったりするには少々の勇氣と少々の出費は伴う。枝ぶりのよい松が手に入らないので門松こそ立てないが自筆の紙を貼り、折詰でない手作りのオセチ料理を食べ、書き初めをし酒をのみ七草を食べ、元旦には四方の神々にかしわ手を打つ。

ことしも正月は確實にやって來た。私も欠かさず正月の舊習を確實に實行し、誰にも迷惑のかからない私なりの自由を樂しんでいる。これは生れたときからの習慣で理くつではないのだ。

R. NAKAGAMA CO., LTD.
322-2nd Ave. South
Lethbridge, Alta.
Phone 327-5337
MAILING ADDRESS
P.O. BOX 1181, LETHBRIDGE, ALTA

國寶ローズ米

國寶

特約
國寶ローズ米
國寶米
キッコーマン醤油

謹賀新年

舊年中の御愛顧を謝し
本年も倍舊のお引立をお願い致します

直輸入商
中釜商店

IWAKI JAPANESE FOOD STORE
Season's Greetings

謹賀新年

昨年中はお引き立て頂き
ありがとうございます

一九七九年元旦

イワキ商店

2637 Yonge Street Toronto, Ont.
Tel: 481-8928

一月一日から米中が國交樹立

台灣とは通商文化關係だけ

〔ワシントン時事〕米中両国が去る十五日發表した外交關係樹立に関する共同聲明の要旨次の通り。

（一）米国と中華人民共和国は一九七九年一月一日をもって相互に承認し、外交關係を樹立することに合意した。

（二）米国は中華人民共和國政府を中国の唯一の合法政府として承認する。このワク内で、米國民は台灣人民との文化上、通商上、その他の非公式關係を維持する。

（三）双方はアジア・太平洋地域または世界の他のいかなる地域における覇権も求めず、さらに双方は、そうした覇権を確立しようとする他のいかなる国または国のグループの努力にも反對する。

（四）米国政府は、一つの中国のみが存し、台灣は中国の一部であるとの中国の立場を承認する。

（五）双方は、米中關係の正常化が中國および米国国民の利益にかなうのみならず、アジアおよび世界における平和の大義に寄與すると確信する。

洋上に長期漂泊 石油を国家備蓄

〔東京時事〕東京から南へ八百キロ――小笠原、硫黄島西方海上に今、二十―二十五万屯級巨大タンカー二十隻が、原油を満載し海上に漂泊している。五百万キロリットルの石油を洋上のタンカーで備蓄しようという国家プロジェクトで世界でも初めての試み。二十隻のタンカーはいずれもエンジンと推進機を止め波間に漂うわけだが、三カ月毎に日本の港に入り、燃料、食品、水を積み再び漂泊海域に引き返す。政府のエネルギー政策による石油公団のこれ等のチャーター船は二年間五百万キロリットルになるまで続けられる。

大平首相は無事

右翼派男に公邸で襲われて

〔東京時事〕去る十八日夕、東京・永田町首相公邸で山ナイフを持った右翼の若い男が首相に襲いかかった。男は警護官に取り押えられ、首相は無事だった。警護官二人が各一週間のけがを負った。この男は東京都出身、住所不定、元国防青年隊員、無職、廣瀬純夫（二二）。

所持した激文には「三島由紀夫自殺と経団連襲撃の二つの事件で政府に反省を求めたが、政治という偽善に満ちた化物に抹殺された。このままでは国政の混乱を導くだけで、日本の将来はない」などと書かれていた。

對外經済大使に安川氏が有力

〔東京時事〕政府は先の組閣で對外經濟担當相のポストを廃止、それに代わる對外經済交渉を専門に担當する無任所大使の設置を検討していたが、同ポストに前駐米大使の安川壮氏を起用することが有力になった。

安川氏は大平外相當時の四十八年から五十一年にかけ駐米大使を務め、大平首相と關係が深いうえ、外務審議官（經濟担當）を經験し、國際經濟問題に詳しい。

日加で共同開發

オイルサンド會社設立きまる

〔東京時事〕カナダの企業グループと共同で同国アルバータ州のオイルサンドを開發する「カナダ・オイルサンド社」の設立総會がこのほど開かれ設立された。新會社の社長には同開發計畫をナショナル・プロジェクトとして進めるため、石油精製、電力、商社など關係業界に對し中心となって働きかけてきた森石油資源開發社長が就任、當初資本金は五億七百万圓だが、このあと石油公団や一般企業の出資を得て、十億三千八百万圓に増資される。

新會社は設立後直ちにカナダの国營ペトロカナダ、インピリアル・オイル、カナダ・シティーズ・サービスの三社と共同事業參加契約を結んでいるジャパン・オイルサンド・アルバータ社の經營權を石油資源開發から引き継ぐ。

開發の對象鑛區はアルバータ州アサバスカ地域にあるオイルサンド鑛區五十万ヘクタールで、日本側の取り分となっている埋蔵量は日本の原油消費量の七年分に當たる約一二三億バレル。ただし、商業生産プラントの稼働は十五年後。

加社、日本へ重水を賣却

〔トロント時事〕オンタリオ・ハイドロ社は先週、日本に對し重水（原子爐の減速材）約一一〇〇㌧（二五万弗）を賣却することになったと發表した。これはカナダ日商岩井を通じて商談が成立したもので、重水は今月中に日本原子力研究所に引き渡される予定。

對策に苦慮する郵便従業勞組

先ごろの郵便ストで、解雇十一名、停職五百一名、けん責處分八百名という大量の處分者を出したカナダ郵便勞組は、今後の組合として執るべき集團闘争の具体的方策を練っているといわれる。

同勞組地區苦情處理委員會のジョン・ポット委員は「停職とかく首は一九七五年協定の團体法協約違反で、政府の執った見解の根據は薄弱。且つ此の間の闘争での税金の無駄使いと共に政府の無能を露呈したもの」と言っているが、一方オタワ郵便當局は事件に關係する組合幹部約一千名に對し更に書類による勧告を行う予定。

茂木總領事

家族共に着任

茂木良三總領事は香織夫人と息一人、愛嬢二人を同伴、去る二十日トロント空港に安着した。新任總領事は西獨首都ボンで日本大使館公使をつとめていた人で、ボンを出發、東京經由トロントに着任したが、同總領事は「トロントの日系人は大いに活動されていると承っています。これから仲よくつき合わせて頂くつもりです」と語っている。なお、茂木總領事は約二十五年前オタワ大使館に勤務したことがあるのでカナダはなつかしい任地だとのことである。

大入り満員で紅白歌合戰盛況

ト市日系會館で去る十六日夜行われた第二回紅白歌合戰（日系人野球連盟主催）は大入満員できわめて盛況だった。今年は紅組（女性）が断然、白組（男性）をひきはなして優勝杯を獲得した。

同夜の歌コンテストはパナソニックの厚意で全プログラムがビデオテープ（録音録畫）に収められ、希望する各地の日系人社會または老人ホームに貸し出すことになっている。

謹賀新年

昭和五十四年元旦

在モントリオール
日本國總領事館

總領事 瀧口吉亮
館員一同

CONSULATE GENERAL OF JAPAN
1155 Dorchester Blvd. W., Suite 2701
MONTREAL, QUE. H3B 2K9

MERRY CHRISTMAS AND
A HAPPY NEW YEAR

TORONTO JAPANESE UNITED CHURCH

701 Dovercourt Road, Toronto, Ont.

MEMBERS OF ISSEI CONGREGATION
MEMBERS OF NISEI CINGREGATION

Rev. Hiraku Iwai (Issei Minister)
93 Ridgehill Dr., Toronto
Phone: 782-5267

Rev. Ken Matsugu (Nisei Minister)
71 Lionel Heights, Don Mills, Ont.
Phone: 444-5159

祝降誕 賀新年

トロント
日系人合同教会
ト市ドバーコート街七〇一

日語牧師 岩井啓
英語牧師 眞次ケン

一世婦人会、二世婦人会
男子会 夫婦クラブ
新会 高校青年会
教会學校 ジュニア高校會
役員・會員一同

日系初の治安判事任命さる
オ州ロンドンの小保方三世

〔オ州ロンドン〕オンタリオ州では最年少で、日系唯一の治安判事（俗にジェー・ピーと呼び、正式にはジャスティス・オブ・ピース）がこのほど任命された。オ州ロンドン在住のレオナルド小保方氏（三〇歳）で、前ロンドン・ラジオ放送局のニュースマンであり、オ州消費者及び商業関係省の公務員でもあった。

小保方氏はロンドン市の小保方ジョージ氏夫妻の息。ジョージ氏は昨年の日系百年祭記念でロンドン地方の代表者。同市々廳の庭に日本庭園を寄贈することに努力した。

小保方レオナルド氏の判事就任式には夫人ベティさんと娘クリスランさん（一七歳）はじめ、彼の両親とベティさんの両親が立ち会った。新任判事はロンドン地方でジェ・ピーとしての役目を果たすことになっている。

梅月氏に叙勲

ニューカナデアン新聞発行者、梅月高市氏（八一）は十二月二十三日付、オーダー・オブ・カナダのメンバーに任命されたとの通知があった。来春早々叙勲式が行われるはず。

ソ連は五年内捕鯨を中止

〔ロサンゼルス〕先週末、ロイター・ロサンゼルス・タイムズ紙がインタビュー記事として報じたところではカリフォルニア州ルホイユで開催される国際捕鯨委員会科学会議に出席のゼムスキー・ソ連代表は「ソ連は向こう五年以内に商業ベースの捕鯨を中止する計画ある」と語った。

トロント新企会
研修会は盛況

トロント新企会の第四回研修会がこのほどプリンスホテルで行われたが、会員その他で四十数名の出席者があった。総領事館分室長齋藤良夫、新移住者協会三枝会長、片山博氏を招いて研修会を行ったが、まず最初、池田公認会計士の話、ついでケミカルプラスチックスの工業材料輸入販売の秋田氏が登壇して『企業儲けと良心の呵責』について話があって、活発な論議が会員間で行われた。

齋藤室長は池田氏の話の内容を小冊子にまとめて新企会々員以外の新移住者に配布しては、という提案があり、内藤会長が「新企会が創立以来、短期間に充実してきた」ことをあげた。

續いてパーティーに移り、田上氏司会で、片山氏の音楽にのって楽しい一夜をすごした。次回会合には会員外の参加を大いに歓迎。

邦人社員帰国

〔サンサルバドル時事〕エルサルバドルの反政府ゲリラ組織に誘拐された鈴木孝和さん（三九）の救出活動に當っているインシンカ社対策本部は先週、インシンカ社の邦人従業員及びその家族三十人を日本へ帰国させた。一行は無事に日本に到着した。

バン市の懇和会催し
四百五十人が參集して盛況

〔バン市〕當市の日本人ビジネスメンズ協会である懇和会ではこのほどホテル・バンクーバーでクリスマス・パーティーを催したが、参加者約四百五十人で盛況であった。

会長、栗田住友支店長の歓迎の言葉、ついで浅尾総領事、日系市民協会代表数田喜代三氏らの祝辞があり、娯楽番組があって会衆に大満足を与えた。九時すぎからダンスとなり、二回にわたってドア・プライズの抽選があった。

その一つは日航提供の二人分メキシコ行き航空券で外人客（男）にあたり、一等賞であるシーピーエア提供の二人分日本行き券は楠本夫人がひきあて大喜びだった。

日本食お二人
チケット發賣

ト市アネックス介護では資金捻出法の一つとして、市内各日系レストランの協力支援を得て『日本食お二人前』七等迄のチケットを目下発賣中。抽選は二月中旬日系會館でのモンテ・カルロで行われる。チケットは一枚五十仙、五枚綴りで二弗。

特別号の注文

本紙の日英両語、合計四八頁の特別号一部の日本向けは送料とも一弗五十仙。米国及びカナダ国内向けは一部送料とも一弗で申し受けています。なお、一月中の新購讀者には特別号を無料進呈いたします。一月五日付再刊いたします。

ニューカナデアン社

新年おめでとう
ございます
今年もどうぞよろしく
お願い申し上げます
ニューカナデアン一同

一九七九年の新年特別號をお届けいたします。過ぎし一年、ご愛讀下され感謝申し上げます。みんな多忙の中で一生懸命やって参りました。これから始まる新しい年も新鮮な企画ものをお届けしたいと思います。ご期待下さい。

（多くの方々からご投稿を頂き、讀み應えがあるものと存じます。また各日系人、商店及び團体からの祝賀廣告のご援助、有がとうございました。ご厚禮申し上げます）

MERRY CHRISTMAS &
HAPPY NEW YEAR

ST. ANDREW'S JAPANESE
ANGLICAN CHURCH

100 Howland Ave., Toronto Ontario
Rectory: 654-5677 Office 536-5557
Rector: The Rev. Dr. Roland M. Kawano
Parish Worker: Miss Alison Sheppard
Church Wardens: Mr. Koji Kashima, Mr. Sam Honkawa
Advisory Board, Anglican Church Women, Tomonokai,
Youth Group, Church School, Choir, Siedsmen Ass.,
Scholarship Committee

祝聖主御降誕
謹賀新年
トロント聖アンドリュー日系聖公会
ハウランド街一〇〇番地
電話五三六－五五五七
司祭 河野守
牧師館 コンウェイ街三五番地
電話六五四－五六五七
ミッショナリー アリソン・セパード女史
教会内各團体
信徒一同

謹賀新年
昭和五十四年元旦
在カナダ日本國大使館
特命全權大使 須磨未千秋
館員一同
EMBASSY OF JAPAN
255 SUSSEX DRIVE,
OTTAWA, CANADA, K1N 9E6

謹賀新年
昭和五十四年元旦
在トロント
日本國總領事館
總領事 茂木良三
蓮見義博
熊澤正光
玉木時夫
松山豊司
THE CONSULATE GENERAL OF JAPAN
TORONTO DOMINION CENTRE
Suite 1803 — P. O. Box 10,
TORONTO M5K 1A1 CANADA

チキン類の日曜運搬
合法だとオ州の裁判が判決

日曜日にチキン類を運搬し、日曜法違反で告發を受けていた二会社が、さきごろ高等裁判所の判決で、當行為は合法であるとの判決を受けた。会社はカナダ雛詰会社とエー・シー・チエッカー・プロデュース社の両社で、両社の言い分では、日曜日の農場では學生を使う関係で集荷は時間的に制約され、夜間集荷して翌朝、月曜日朝工場に廻さねばならない鮮度の上からも三日以上は保てないから早急處理することが必要で、年間八億羽のチキンを食料にしているオンタリオ州では、この方法は一般慣行で新鮮なものを一日も早く家庭の台所に届けるべく、必要性から生れたものだ。消費者も極端な價格差でもない限り冷凍ものより生ものを好む傾向が強い――と強調している。

これに對しオ州高裁のジエサップ裁判長は『この問題は農場――消費者間の流通機構の中に於て多數公共の食料の根源の取得という点を優先して考えねばならない。大衆は適切な品質の食料を選擇する資格がある。従つて業者の日曜日夜間のピックアップ行爲は必要なもの』と認める』というもの。『だが、本決定はすべての家畜その他の物に適用されるとは限らない。ケースバイケース、そのメリットによつて決定されねばならない』と結んでいる。

これで昨年来注目されていた日曜法に對し、新しい解釈と判例ができたことになる。

海外短信

◇日系女性で初の米連邦捜査局（エフ・ビー・アイ）捜査官がハワイに誕生した。三世ジョーン坂本さん（二六）配属地桑港。

◇所もあろうにニューヨーク警察の押収物置き場の麻薬（四十万ドル相當）が盗まれた。未だ犯人不明。

◇東京新宿の科學評論家日下さんが、宇宙観光旅行の参加予約者（十年後・二百万圓）を募集したところ意外、朝の四時半に宮城縣の人が第一号、續いて來るわ來るわ四日間で二五〇人。いずれも息せき切ろ、という感じの申し込み振りだつた。

謹賀新年

ヴァノン日系婦人会

Vernon Japanese Women's Auxiliary,
P.O. Box 852, Vernon, B.C.

謹賀新年

オカナガン教區佛教会

開教使 不二川 往來

1065 Borden Ave., Kelowna, B.C.
Phone 762-6850

ケローナ佛教会
同 佛教婦人会
同 佛教壮年会
同 佛教青年会
同 佛教日曜學校

バーノン佛教会
カムループス佛教会
同 佛教婦人会
同 佛教青年会
同 佛教日曜學校

日本食料品

藥品
贈答品
陶器漆器
空手柔道衣
雑貨書籍
台所用品
日本人形各種
花器盆栽器

カナダから
日本への土産品

カナダヒスイ
数の子
数の子コンブ
筋子
イクラ
化粧品
皮製品
ゴルフセット
ライター

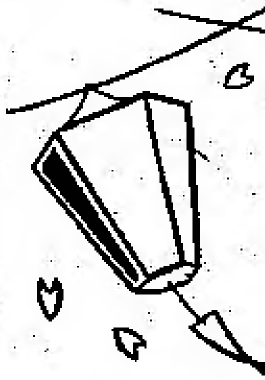
皆様

新春の御慶びを申上げます
本年も倍舊の御引立てを
御願いいたします

みかど商會

MIKADO ENTERPRISES LTD.,
701 EAST HASTINGS STREET,
VANCOUVER, V6A 1R3, B.C.

夏原 薫
小柳 三郎
ジャック・ラリー
他 一同



さくら米

味では負けないお米の横綱

お待たせいたしました。おいしい『さくらの新米』がたくさん入荷いたしました。皆さんのご満足を確信いたします。

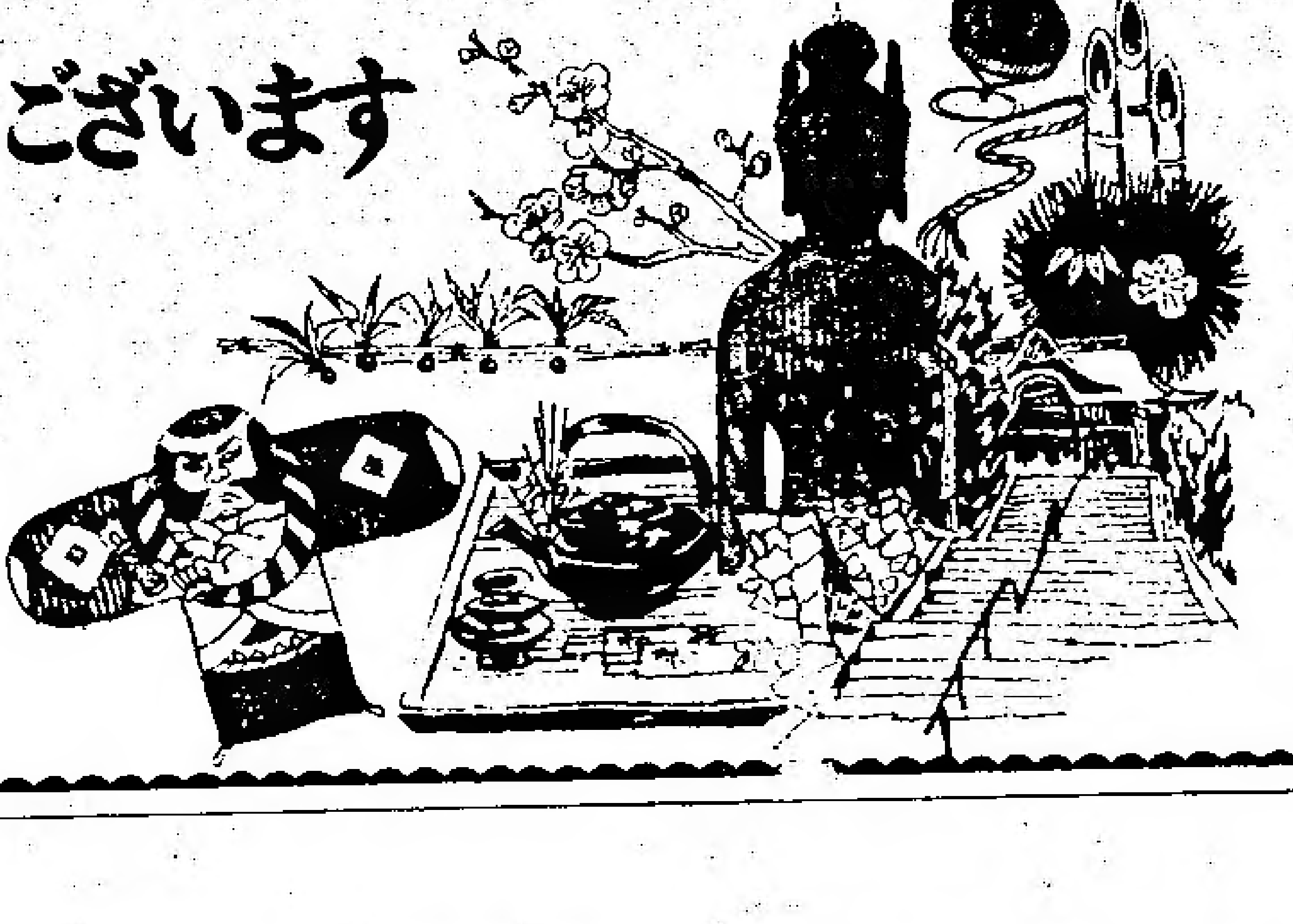
DUNDAS UNION STORE

171 Dundas St. West, Toronto

Phone: 364-7692, 366-3663

Distributed by Crown Import Co. Inc.,
San Francisco, California

あけまして おめでとうございます



社員一同
藤井・松本・たか子・はる美・スー

国際旅行社
TOKYO TOURS SERVICE
(416) 363-6363
137 Yonge St., Arcade Bldg. Ste. 253,
Toronto, Ont. M5C 1W6

おれは侍だ（八二）

柴田 錬三郎

さらに、その下の斜面に、一人の若い女が、茫然と、大きく眸子をみひらいて、たたずんでいた。濱邊から、夢中でのぼって來た娘である。

『佐久之進、お止しなさい！』

そう叫ぶのと、若者が、きり込むのと、同時であった。

娘は、しかし、悲鳴をあげもせず、顔もそむけなかった。

止めても肯かなければ、こうなったとしても、やむを得ぬ仕儀と心得る氣丈夫さをそなえていた。やはり、ただの娘ではなかったのである。

修理之介は、切長な眸子や、高く通った鼻すじなどに、勝気な氣性を示している貌を、默って、見まもっていたが、差料を鞘に納めると、路上へ降りて、手ばやく、若者の血を止めてやった。それから、意識のないからだを、馬に、乗せると、

『お送りいたす』

と、云った。

『いいえ——』

娘は、かぶりをふった。

『わたくしが、つれて參ります』

『貴女が、この若者のご主人か？』

娘は、こたえず、たずなをとると、歩き出そうとした。

その静かな横姿を眺めているうちに、修理之介の脳裡をふっと、直感がかすめた。

『卒爾ながら、おたずねいたす。貴女は、先般、大阪方に軍勢を寄せて、滅んだ兒島邑久守殿のご遺族ではないか？』

しかし、娘は、その質問に對しても、ふりかえろうとはしなかった。

——そうか。まちがいない。

修理之介は、確信した。

兒島邑久守數敎こそ、大阪城で修理之介を、影武者として召し抱えた備前の小大名であった。修理之介は遺髪を、その遺族に屆けるべく、わざわざ、この土地へやって來たのである。

兒島數敎の居城は、古備前鍛工が輩出した長船と福岡の間に在った。黒田孝高は、その別家であった。これに因って、黒田家は、筑前博多の西に築城した際、福岡と命名したのである。

大永の頃、洪水が起って鍛冶の家がことごとく流没して、わずかに祐定の家のみがのこったことがある。兒島家では、業の絶えるのを憂えて、特にろくを呉れて、その復興を援けた。後鳥羽院の御宇に、諸國のかじを召した時、兒島家では左様なはれがましい振舞をきらう長船がじを、むりにともなって京へ上った。結果は、そのきたえの見事さで、菊の御紋を賜り、番かじの稱を與えられた。菊一文字が、これである。

兒島家は應仁の乱ののち居城を、赤松左京大夫政則に奪われたが、織田信長から、歸城をゆるされ、豊臣秀吉からは、備前刀を再び盛んにするよう、特に、年金を下賜されてきた。その恩義にむくいるために、このたび、邑久守は、大阪方にはせ參じたのである。

修理之介が、その居城をおとずれてみると、すでに一兵ものこって居らず、遺族は、どこかの濱邊に移った、ということだけしか判らなかった。

修理之介は、その行方をもとめて、濱邊へ出て來ていたのである。

修理之介は、娘のあとをついて行くことにした。

坂道は、屋根づたいに、山ひだの中を消えたりあらわれたりしながらふもとへうねっていた。

山腹にまで、小さなむしろをならべたような陸田をひらいている孤村の聚落が眼下にひらけた時、娘は、ふりかえって、

『どこへお行きになりますか？ わたくしのあとをつけておいでなら、おひきとりねがいます』

と、云った。

『わたくしは、徳川方の隱密ではない』

修理之介は、こたえた。

改新最低賃金料率について

◎一九七九年一月一日より實施

一九七九年一月一日より新しく最低賃金料率が發効します。改新料率は下記のとおりとします

一般勞働	時間當り	三弗
見習作業	同	二弗九十仙
建設關係及び同現場監視	同	三弗二十五仙
○酒類取扱許可のある場所での酒類を供する從業員	同	二弗五十仙
○學生	同	二弗十五仙
救急車運轉手及び助手	週當り	百四十四弗
狩獵·魚釣案內業者		
①連續五時間以內		十五弗
②連續又は連續ならざるも五時間又は五時間を超えるもの		三十弗

○部屋並びに食事

部屋並びに食事については最低賃金の計算の場合にこの最低賃金料率を適用

①部屋	週當り	十一弗
②食事代	一食	一弗十五仙
	一週單位	二十四弗
③部屋と食事付	一週當り	三十五弗

○ 印は從前どおり變りありません

◘ 印は一月一日が含まれる全勞働週の意味です

なお改新最低賃金料率及び雇傭基準法についての詳細のお問い合わせは電話又は書類を以て下記へお願い致します。

Employment Standards Branch
Ontario Ministry of Labour
400 University Avenue
Toronto, Ontario
M7A 1T7
(416) 965-5251

Ontario Ministry of Labour　Employment Standards Branch

Hon. Robert G. Elgie, M.D., Minister

お年玉つき寶くじ

二万七千本·百五十万弗の大賞金！　すばらしい新年の贈物！

賞金十万弗の當る五本のウィンタリオ！

特別賞　五万弗　二万弍　一万弗

プラス　五千弗　百一本　二千弗　百一本
一万弗　百一本

その他賞金多數。五百万弗以上十二万三千本以上の賞金が當ります。新年早々のこのチャンスをお見逃しなく、そして新年のスタートを飾って下さい。五万弗·二万弗·一万弗の無税扱いお年玉のほかにその最終數字三つが合えば二十五弗當る二万七千本。

賞金請求期限一年間

グローバルチャンネル午後九時をご期待下さい。

we all win

wintario

January 4, 1979

Get your ticket now!

謹賀新年

生長の家カナダ西部センター

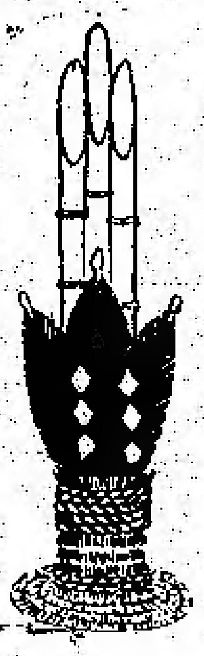
われ新しき天地に呼吸す

谷口雅春

われ新しき天と地を迎ふ。祝福すべきかなこの新天地。今よりのち一切の悩み、悲しみ、失望、落膽ことごとくなき新天地にわれ生れたるなり。暗黒は空の彼方に消え去り、新しき光、五彩の虹を放って今この新天地を照らすのである。われは一切の過去を放ち去ってこの新天地に立ち、この新天地に呼吸するのである。生命の満ちあふれたるわが生命よ。汝は神のいのちである。一切の汚れなき清き新しき生命である。過去の悪しき印象は、青空が飛ぶ鳥の跡を印しないと同じように、わが潜在意識から消え去ったのである。

わがいのちは新しき自由と繁栄の世界に羽搏くのである。一切の"悪"は過ぎ去ったのであった。"悪"は実在ではなく、單に妄想の幻影に過ぎないのであるから、一度過ぎ去った後に再び還ってくることはないのである。わが新しき天地は永遠に新しく汚れなく悩みなく神聖である。神わが家族すべてを祝福したまふのである。

生長の家カナダ東部センター



明けまして おめでとう ございます

生長の家 カナダ
特務講師 堀 清司

輝やく七九年の新年を迎えるにあたり謹んで新春の喜び申上げます。生長の家の教えが日本から發してアメリカ、カナダ、南米諸国、アフリカ、又ヨーロッパへと廣まって行きつつあります事は誠に有難い事と感謝にたえません。

カナダ各地に於いても堅實に努力し御奉仕していて下さっている生長の家の先輩及び誌友の皆様の御愛念が稔って万教歸一の教えが着々と定着しつつある事を深謝しております。人を神の子と仰ぎ人間の可能を開發し繁榮、健康、調和の手引きとなる神誌、書籍によって悦びを獲得して頂ければ幸福は此れにまさるものはないと存じます。足らない言葉ではありますが年頭の挨拶にかえさせて頂きます。

あなたを生かす 七大月刊誌

生長の家 人生の根本疑問に答える

白鳩 女性幸福設計への道しるべ

光の泉 新しい人生に再出發したい方

精神科學 ビジネス産業人の能力開發のテキスト

理想世界 未來ある若者に勇氣と希望を與える

理想世界 ジュニア版 少年少女に正しい考え方と夢を與える

英文版生長の家 English Truth of Life

その他圖書・カセットテープの詳細案内書を御希望の方は最寄のセンターへ御一報下さい

夢を描け

谷口雅春

若きと老いたるとを問はず
兄弟よ　夢を描け
しん氣樓よりも大いなる夢を
夢はあなたの肉体を超えて虚空にひろがり
ひろくひろく宇宙にひろがる雲となって
あなたをより高き世界へ
あま翔けらす大いなる翼となるであろう
この翼こそ世にも奇しき翼である
夢の奇しき翼に乗るとき
若きものは向上し
老いたるものは若返る

成功の秘訣

谷口雅春

今日は皆さんに成功の秘訣をお話し申しましょう。先づ『夢を描く』と云うことです。前掲の『夢を描け』という詩（ここには一部のみを掲載しました）を讀んでいる中に心に光が輝いてきます。その光の中に夢のように自分の華々しい計画が浮び上ってくるのです。心の中に夢のように素晴しい計画を思い浮べることを『夢を描く』と云うのです。『夢を描いた』その次にはそれが必ず成就する、成功すると云う信念がなければなりません。『この信念』と云うのが、成功の第二になくてはならないものなのです。自分を詰らない人間だと思っているようなことでは何事をやっても成功するものではありません。自分には能力がある、自分は好い頭腦を持っている。自分は神の子であるから、何をやっても神から導かれて必ず良いように行くのだ。一時は失敗したように見えることがあっても、それは冬に樹が葉を落すようなもので、あの葉の落ちている間に樹は春に花咲く準備が出來ているように、一時は失敗したように見えていたとてそれは却って春花咲く準備なのだと、どこどこまでも勇氣を失わない信ずる念がなくてはなりません。

生長の家 カナダ連絡先

東部地區センター

Toronto Truth Centre Tel: 690-8686
666 Victoria Park Ave. Toronto, Ont. M4C 5H4
Rev. J.K. Hori 222-3097
Toronto: Mr. I Yamamoto 694-5721
Montreal: Mrs. U. Tatebe 721-7368
Winnipeg: Mr. C. Teranishi 775-3860
Hamilton: Mrs. M. Kawamoto 526-0192

西部地區センター

Vancouver Truth Centre Tel 879-8416
305 East 16th Ave. Vancouver, B.C. V5T 2T7
Vancouver: Rev. H. Inouye. 253-0343
Dr. T.Y. Takeuchi 327-1364
Steveston, Richmond: Mr. F. Koyama 277-7455
Greenwood: Mrs. T. Fujimura 445-6597
Kamloops: Mrs. H. Uyeda 376-6943

月刊紙のお申込みは東・西各センター迄。申込書に代金を添えてお送り下さい。一ヵ年分邦文六弗五〇仙、英文七弗。

Name ______
Address ______
Phone ______ Postal Code ______
Book Name. ______
Payment. $ ______

THE NEW CANADIAN

VOL. 42 FRIDAY, DECEMBER 29, 1978 HOLIDAY ISSUE SECTION ONE

Presented by Bill & Addie Kobayashi

The Nt'l JCCA Brief to the Confab on Multiculturalism

By GEORGE IMAI

As an introduction, I would like to give a short history of the Japanese in Canada.

Scattered across Canada are approximately 40,000 Canadians of Japanese descent who are first, second, third and fourth generation Canadians; also a small number of new immigrants. We are, therefore, not new to this country.

During WORLD WAR II, In Canada, approximately 21,000 of our people, two thirds of whom were Canadian citizens, against their wills were tragically uprooted from their homes in a forced evacuation and internment from the coastline of British Columbia. During this period, their property and possessions were confiscated and sold; homes were broken as young-men and fathers were removed from their families and forced to work in internment camps.

It is ironic then, that while the men of Canada were at War overseas, their government at home was denying some of its own citizens the very same human rights for which they were fighting.

Not until 1949, four years after the war's end were the last of the restrictions lifted and were we allowed to return home.

In 1949, some 30 years after Canadian women won the right to vote, and some 50 years after the Blacks of the United States were given the vote, were we Canadians of Japanese descent finally granted our equal rights.

The culture of a nation, among other things, is a collective spirit of a group of people, which, in its finest measure:

1) Permits the enjoyable day to day living of individuals in harmony with their needs and highest aspirations

2) Promotes the esthetic and moral values of its members

3) Unifies the nation for self enrichment and strength, to combat adverse influences or forces within and without its boundaries.

Canada must have a cultural identity in harmony with its people to instill them with the spirit and strength essential for a strong nation.

WHY MULTICULTURALISM?

Our prime concern is for our country — CANADA — and its people. We are also concerned about its existence and growth as a strong, credible, enlightened and just voice in the babble of world conflicts and for the free existence and enrichment of people throughout the world.

Because Canada is comprised of many diverse ethnic cultures it has become the Nation it is today; each culture in its own unique way making an invaluable contribution towards the country as a whole. In this respect we include the skills of industry and of manual labour as no less a contribution than the finer arts. Multiculturalism, therefore, is an acknowledgement,

Cont. On Page 4

****

Imai Now Nat. Parole Bd. Member

TORONTO. — Mr. George Imai has been appointed by the National Parole Board as a Regional Community Board Member. His duties will last for a 2-year period.

In a letter confirming and welcoming his appointment, Chairman W.R. Outerbrige said. "The duties that you will be performing from time to time during the next 2 years are of great importance, not only in terms of the decisions that you will be making, but in the increasing credibility which will come to the Parole Board as a result of this form of community participation."

****

Thoughts about the ANNEX

By DAVID FUJINO

People are what the ANNEX is really about.

There are those who have met people at the door, have helped inform them in different ways, and have found time to talk and laugh and reminisce along with them. Some of these people at the ANNEX were given salaries for a time under a Canada Works grant. When the grant wasn't renewed, the ANNEX has still remained open and operating. This is because people volunteered their time and many talents toward the ANNEX which, I feel, is a state of mind just as much as a storefront location on the Danforth.

Annex Action

The need to have a conveniently located place in downtown Toronto where, as one person put it, "You could come and feel comfortable as a Japanese Canadian," this is very important to many of us who have worked at the ANNEX, or have come by occasionally out of curiosity. It's a place where the situation is reversed: here, you're not the only Japanese Canadian, and if you want to find out about our history, or would like to learn more about artistic things, or would simply like to talk, then the ANNEX is a good place to visit.

Cont. On Page 2

Ring Out The Old, Ring In The New!

On New Year's Eve, there will be the 2nd Annual Tolling of the Bell in Ontario Place. The Toronto Centennial Committee has made plans for this event when everyone will have opportunity to ring the New Year in, Joya no Kane (Bell), an ancient tradition of Japan. This is to be an on-going program planned by the Centennial Committee.

Last year over 100 persons braved the chilly winds for this unique occasion.

The gates will be opened at 11:15 P.M. on the Sunday evening, December 31st. There is no entry fee and parking is free. The gathering will meet around 11:30 p.m. and the tolling of the Bell is to begin at 11:45 p.m., following a very brief ceremony. It is hoped that an even larger number will turn out for this event.

The Centennial Committee sends "GREETINGS OF THE SEASON" to everyone.

Can.-Japan Society of Lethbridge and District plans incorporation

LETHBRIDGE. — A resolution that the Canada-Japan Society of Lethbridge and District be incorporated under the Alberta Societies Act was accepted recently by about 25 prospective members.

The organizational meeting was told the objectives of the society are to promote an understanding of Japan by Canadians and an understanding of Southern Alberta by Japanese.

Named to the steering committee were Charlie Crane, Ben Murata, Hiroshi Tanaka, Larry Higa, Hugh Michael, Erie Williams, David Murata, Ethel Dunn, Dennis O'Connell and Gay Jobs.

Ben Murata said the society, once incorporated, will sponsor a seminar series on Japan, look into televising Japanese artistic movies on cable television, promote a student exchange between Canada and Japan, assist new immigrants when asked to do so, help provide schools with up-to-date information on Japan and accumulate Japanese books, especially for senior citizens who cannot read or understand English.

It is also hoped a city in Japan can be twinned with Lethbridge, he said.

Larry Higa, who will submit the application for incorporation to the provincial government, said he expects it will be at least two or three weeks before the group receives its certificate under the societies act.

Annex. . . Cont. From Page 1

But, of course, an individual must take the first step himself. He or she must feel there's something at the ANNEX for them. Then, and only then, can the ANNEX be of use to that person. If there are things that are fun and that feel good, then more serious and perhaps more difficult things, such as finding out more about yourself, can happen. It's a matter of how strong your desire is to meet new and different people and therefore learn and experience new things.

The need to grow beyond your area of ability was a prime factor which made me want to get involved with the ANNEX. Sure, my writing and photography are essential parts of what I want to do with myself in this life; they are a large part of the meaning of my life; and yet, I came to realize in early 1977, that I was closing too many doors and my creative work would only feed off itself instead of returning to people, and the world, the beauty of creative thought and feeling I had found.

Creative thought is not easily understood, for the world is run on different principles. So the solution for my dilemma was to meet young and old Japanese and Japanese Canadians in such a place as the ANNEX. In offering of myself what I could, I would gain a better and more sympathetic understanding of my own people. But more than this, I would have the chance to learn more about people, about myself, and this life we live.

Things in the Japanese Canadian community could be helped along. And the ANNEX, as a pilot project, had a chance of doing things the larger organizations — among them, the sponsoring J.C. Cultural Centre, and other groups such as the J.C.C.A. — weren't always able to do. Larger groups may have wanted to make life easier for the Issei and prepare a future for Sansei community involvement, but they often lacked both time and manpower. In no way was the ANNEX, to my understanding, taking on the role of a community saviour. Quite simply, because it was a young and small-scale project, the ANNEX at least was a fresh start.

There were previous attempts to stir up a sense of community on the part of Toronto's Powell St. Review people (who rented a downtown house) and the Tora staff with its magazine and public discussions. For those years in the early 1970's, some have said, it was a valiant and premature effort. Still, this persistent search for an identity as a Japanese Canadian can be found today, in 1978, and this in itself made me feel the ANNEX, by trying to be a multi-use space (drop-in centre, information and resource centre, site of art exhibits and art instruction, lecture hall for young and old) could usefully serve Japanese and Japanese Canadians. In a sense, the ANNEX has always tried to be all things to most people by offering a wide range of leisure, educational, and social service events. As a latter-day product of the 1970s, the ANNEX is very much in step with the times: the key to business success seems to lie in diversity; in creative fields such as music you notice that previously separate styles of music are gracefully combined; and in terms of individual and group growth the key to healthy survival lies again in flexibility and the ability to understand more than one point of view.

Once established, something like the ANNEX has the task of staying alive. To compare the ANNEX to an individual human-being who tries to accept other's ways, no matter how different from one's own, is to me valid and worthwhile comparison. The different programmes (medical lectures in Japanese for the Issei, along with childrens' art classes and Coffee House nights and Legal Aid services); the volunteer lecturers (Dr. Art Shimizu of Hamilton, as well as artist Roy Kiyooka and Mrs. Hide Shimizu); the many beautiful people who've contributed to ANNEX bazaars with their gifts and generous spirits; the ANNEX Senior Citizens' with their uphill struggles to establish a drop-in and crafts centre in the ANNEX premises; and the people recently from Japan alongside the Japanese Canadians who've dropped in; the total personally is an ANNEX which is not one thing, or one interest. The ANNEX personality is one which desires diversity and flexibility and survival.

I remember one night thinking about the ANNEX, what its potential was all about, and I ended up putting these thoughts on paper:

"the ANNEX project
a chance to try and expand.
love carried
closer ties
opening wide"

The ANNEX, as I started out by saying, is about people. It's for people, depends upon openhearted and conscientious people, and always wants to meet new people with their various personalities, ideas, talents, and feelings. It may be selfish on my part, but I'm always looking forward to gaining something from the people who drop by the ANNEX; after all, it helps one to grow. . .

To all the people in the Japanese Canadian community, the best of the holiday season from me to you. And may all of us prosper. See you around in 1979.

Personal Greetings From Across Canada

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA

Mr. & Mrs. Tokutaro Yamanaka
66 Claver Ave.,
Toronto, Ont. M6B 2W2

Greetings Omitted Due To Bereavement

GREETINGS OMITTED DUE TO BEREAVEMENT

Mr. & Mrs. George Iwata
538 St. Germain Ave.,
Toronto, Ont. M5M 1X2

GREETINGS OMITTED DUE TO BEREAVEMENT

J.N. Tsuji
Mr. & Mrs. Ed Tsuji
Mr. & Mrs. Mike Uyeda
Mr. & Mrs. Don Tsuji

GREETINGS OMITTED DUE TO BEREAVEMENT

Mrs. Sumi Mori
Bill Mori
Mr. & Mrs. Mas Mori
Mrs. Sue Hayashi
Mr. & Mrs. Harley Hatanaka
Mr. & Mrs. Fred Koyama

GREETINGS OMITTED DUE TO BEREAVEMENT

Mrs. Take Ohashi
56 Sheppard Ave. E. Apt. 216,
Scarboro, Ont.
Mr. & Mrs. F. Giichi Ohashi
Mr. & Mrs. Rick M. Ohashi
Mr. & Mrs. Izo Ebata
Mr. & Mrs. Masanobu Nakamura
Mr. & Mrs. Joe R. Ebata
Mr. & Mrs. Ben Thomas

The New Canadian

Established in 1938
Second Class mail No. 00366
A member of Ethnic Press Association of Ontario and Canada Federation

Published on Tuesdays and Fridays

T. UMEZUKI PUBLISHER
K.C. TSUMURA
English Section Editor
KEN MORI
Japanese Section Editor

SUBSCRIPTION
$10.00 for Six Months
$17.00 for one year.

479 Queen Street West,
Toronto, Ont. M5V 2A9

PHONE 366-5005

CLASSIFIED

Help Wanted

EXPERIENCED operator for ladies shoes. Phone 363-5879 (Toronto).

Oops

NOTE: Oops. In the Nipponia Home greetings ad, the name of G. Miyagawa on the Board of Directors was omitted. Also Mr. Shinichi Sawada is now Superintendent (not acting superintendent). Gomen-nasai.

* * *

CHANGES

Changes in the executive line-up for the Gulf and Fraser Fishermen's Credit Union ad arrived, unfortunately, after printing. Second-vice-president is W. W. Paulik and Secretary Treasurer is J.R. Sutherland. Okey-dokey.

Season's Greetings

JUNN KASHINO & ASSOCIATES

Chartered Accountants

523 THE QUEENSWAY, TORONTO, ONT. M8Y 1J7

TELEPHONE 255-7341

JUNN KASHINO, C.A.
MARTIN LANDSBERG, B. Comm., F.C.A.
MICHAEL OTSUKA, C.A.
MICHAEL TEZUKA, C.A.
DILIP PATKI, B. Comm., C.A.
MINORU NISHIKAWA,
WESLEY GITTENS,
SABURO YOSHIOKA,
WAKAKO ISHIKAWA,
GARY NASU,

The N.C. Publisher T. Umezuki Named Member Order of Canada

NEWS (Special)

OTTAWA. — Mr. Takaichi Umezuki, The publisher of The New Canadian, has been named a member of The Order of Canada. The announcement was made in the Canada Gazette on December 23rd, 1978

The New Canadian
479 QUEEN ST. WEST, TORONTO, ONT. M5V 2A9

Please find enclosed $ for which

● Renew my subscription.

● Enter my new subscription for . . . . . year/months

$17.00 per year $10.00 for 6 Months

NAME (MR. MRS. MISS)

ADDRESS

CITY PROV.

POSTAL CODE

Leonard Obokata becomes Ontario's youngest and only J.C. Justice of the peaee

LONDON, Ont. — Ontario's youngest and only Japanese Canadian Justice of the Peace assumed his post recntly at the Middlesex County Courthouse. Leonard Obokata, 30, is a former London radio newsman, and a former employee of the Ontario Ministry of Consumer and Commercial Affairs at Queen's Park in Toronto. Present at the swearing-in ceremony in London was Mr. Obokata's wife Betty and their 17-month-old daughter Kristen. Also on hand to offer their congratulations were Mr. Obokata's parents and his wife's parents, Mr. and Mrs. Duncan Convay of Kincardine. Based in London, Obokata will perform justice of the Peace duties across the province.

Leonard Obokata

Life for a Sansei JP mean trying to be fair

By TALBOT BOGSS

Len Obokata drank the rest of his soda and lime and judiciously sat back in his chair.

He searched through the pockets of his three-piece suit, pulled out a silver lighter, lit his pipe and described his impressions of what it's like to be a justice of the peace.

"My job is like an arbitrator in a dispute — to make a fair and impartial decision. People don't really care who sits on the bench as long as they are fair."

Since his appointment as a JP on Nov. 20, Obokata has started to realize the responsibilties of his new job. Gone are the days when, as a newsman with CF-PL-Radio, he would go after work to a bar on Richmond Street to drink with friends. He now has a public image to maintain. He even admits that he drives more carefully and uses his seatbelt.

Obokata has no formal legal training, although he says he did cover the courts for three years while at CFPL.

He left CFLP in September, 1977, and went to work as an executive-assistant to MPP Bob Eaton (PC — Middlesex) on a six-month contract. During that time Eaton was moved from the ministry of consumer and commercial relations into the ministry of transportation. Obokata wanted to go with Eaton but the move would have meant creating a new position. Instead, Eaton told Obokata there was an opening here for a JP. He applied, went through the required formalities and got the job.

Obokata is aware of the political implications of the appointment but he says the job is judicial, not political.

Senior provincial Judge E.H.A. Carson says the system of appointing justices of the peace has changed somewhat since a royal commission suggested a complete reorganization, although any appointment made by the provincial cabinet is still political.

A justice of the peace is a lifetime appointment made by a provincial order-in-council and only an order-in-council can dismiss a JP.

Carson says he looks for intelligence and common sense in people wanting to become justices of the peace. It is, he says, a job of "learning by doing."

As a JP, Obokata can grant or deny an accused person bail. He can hear cases under the Highway Traffic Act, Industrial Safety and Construction Safety Acts, the Motor Vehicles Accident Claims Act, the Liquor Licence Act and some sections of the Public Health Act. And in certain circumstances, when fines imposed by the court are not paid, he can send people to jail.

Salaries vary. There are few JPs who are paid according to the number of documents they sign. A fulltime JP can earn from about $16,000 to $22,000 a year. However, a hardworking fee JP can earn more.

Obokata say he wouldn't go back to journalism now. He likes the regular hours as a justice of the peace.

Season's Greetings

To All Our Members And Friends

JAPANESE CANADIAN CITIZENS' ASSOCIATION

Toronto Chapter

Open house for sr. citizens

TORONTO. — An open house was held on December 3 at Spencer House in Toronto for the 10 Senior Citizens of Japanese ancestry resident there. Eighty well-wishers, friends and relatives attended in spite of the snow and slush. The ladies of many church organizations as well as the Nisei Women's Club and the Japanese Canadians Cultural Center provided a tremendous selection of refreshments.

The high light of the reception came when Mrs. M. Sora presented each resident with a knitted lap robe on behalf of the United Church Women. Mrs. Y. Kobayashi presented a 20-inch colour TV for the Japanese common room on behalf of a memorial fund administered by the J.C.C. Center.

Finally Dr. F. Sunahara announced that his Elderly Care Committee which was an offshoot of the Japanese Canadian Citizens Association has now received its charter and is now officially the MOMIJI Health Care Society. The MHCS invites volunteers to serve on its various committees and may be reached c/o the J.C.C. Center.

Season's Greetings

INTERPLAN LTD.

CONSULTING ENGINEERS

GEORGE KOBAYASHI

1985 LESLIE STREET,
DON MILLS, ONT. M3B 2M3
PHONE 447-9146

Season's Greetings

SHITORYU ITOSU-KAI KARATE
Kobudo Association Of Canada

Pdesident Jack Torlage, Chief Inst.: Kei Tsumura
Pres.: Sam Moledzki, Asst. Chief Inst.: Terry Nishikawa

Japanese Canadian Cultural Centre Shitoryu Karate Dojo, Toronto
Shitoryu Itosukai Karate Hombu, Toronto
Barrie Shitoryu Karate Club — Inst.: Hugo Heckhaus
Alliston Karate Club — Inst.: Larry O'Toole
Georgian College Shitoryu Karate Club — Inst.: Duncan Doherty
Seneca Shitoryu Karate Dojo — Inst.: Guy & Mark Timperely
Academy Shitoryu Karate Dojo — Inst.: Andy Teslak
Meaford Shitoryu Karate Dojo — Inst.: Frank Robinson
Owen Sound Shitoryu Karate Club — Sue Lindsay
Vancouver Karate Club — Inst.: A. Sato
Parry Sound Shitoryu Karate Club — Tony Angello
Point au Baril Shitoryu Karate Club — Ron Chase
Bala Shitoryu Karate Club — Inst.: Warren Agnello
Deep River Shitoryu Karate Dojo — Inst.: Ken Chaplin
Pembroke Shitoryu Karate Club — Inst.: Bill Pinkerton
Calgary Shitoryu Karate Club — Inst.: Sam Hayashi
Edmonton Shitoryu Karate Club — Inst.: Barry Menary
Renfrew Shitoryu Karate Club — Inst.: Doug Chittle
Collingwood Shitoryu Karate Club — Inst.: Earl Hansen
Castle Frank Shitoryu Karate Club — Inst.: Jyri Kari
Timmins Shitoryu Karate Dojo — Bob Robertson
Elliott Lake Shitoryu Karate Club — Mike Robertson
— and all associate Public School and High School clubs.
Japan Shitoryu Itsoukai Hombu — Sakagami Shihan
Holland — Frank Hertroys, Sweden — N. Neillson; Switzerland — A[illegible]s Bauder; Rutgers College (New Jersey) — Ravee R[illegible], Winterhaven, Florida — Herb. Stewart; Ireland Sh[illegible]yu Itosukai — Richard Hayes.

Citizen of the year for Senda

LETHBRIDGE, Alta. — Lethbridge Jaycees presented their Citizen of the Year award recently to a Canadian judo champion who coached the national team at the 1976 Montreal Olympics.

Yosh Senda, a 56-year-old painter and decorator, was national champ in 1937 and Alberta black belt champion in 1960 and 1961, a Jaycees news release states.

Jaycees president Ron Fabbi said Senda was selected by a three-man committee for his community work, particularly with youth. Senda coaches five to six days a week, is an instructor at the YMCA's judo club and had been a University of Lethbridge coach for 11 years.

Lethbridge has hosted two Canadian black belt finals mainly because of Senda.

Senda's past awards include Canadian and Alberta sports halls of fame induction and two governor-general awards, the release states.

Senda said decently his next job coaching nationally will be in March at the Hungarian Cup.

N.JCCA. . . Cont. From Page 1

recognition and affirmation of the diverse makeup of the Canadian people of today.

True, there are those amongst us, who, for economic and political power or simply by a sense of ethnic superiority, choose to exclude one particular culture or another. This would be devastating to the unity of our country and to the quality of life of the majority of our people.

By the circumstances of the birth of our Nation, we have been endowed with the two official languages of the country. We, of ethnic origin not of either of these two languages, accept and do not advocate a multilingual nation. On the contrary, we rejoice in this heritage.

While it is true that we have inherited from the Founding Fathers many fine attributes of socio-political and moral principles which, hopefully, will continue to be a part of Canadian tradition and culture, we believe that to reject multiculturalism is to create a void if we attempt to fill it by continuing only in the cultures of the Founding Fathers, as it would not be in harmony with the makeup of the majority of today's Canadians; and most certainly not for the Canadians of the future.

Should we neglect this void, it could easily be filled from the pressures of our neighbours to the south who themselves are already questioning the validity and success of their "MELTING POT" theory which eliminates all recognizable cultures in the hopes of producing an acceptable blend.

In Canada, we prefer multiculturalism — "A SALAD BOWL" concept of many attractive, different ingredients making up a beautiful whole and it is envisioned by some as a more realistic and desirable goal. Therefore, under the spirit of multiculturalism, we envision for Canadians the necessary ingredients for individual quality of life and the unity of purpose to achieve success as a nation.

SAFEGUARDS

To achieve this prized goal, we must recognize that Canada has not had an impeccable record in the aree of equal opportunities and rights for all ethnic groups. To recognize this fact, make amends and to diligently pursue the righting of injustices, would be the measurement of the quality of the spirit and potential of the greatness of our Country.

To mention some of the specific areas, they are:

By Government:

1) Reparations for the aggrieved victims of the forced evacuation and incarceration of Canadians of Japanese origin from the British Columbia coast, who have suffered loss of material goods; poverty, education; economic opportunities, and the mental torment of the denial of basic human rights.

2) Abolition of legislation which enabled the government to take such irrational, hysteria-provoked action against its own people, based on ethnic ancestry as described in point 1, above.

3) Abolition of legislation by government which seek to prohibit ethnic expression. We oppose as diligently, legislation which prohibits free use of educational freedom of either of our two official languages.

4) Adoption of a meaningful Canadian Bill of Rights, firmly entrenched in the constitution to guarantee among other things, rights for all individuals, regardless of ethnic origin or official language preference. Aside from the fundamental right to this guarantee, this would be the minimal requirements in view of Canada's stand in regard to Human Rights in other places; by other goverments.

AND WE THE PEOPLE?

We must look within ourselves and recognize the fundamental rights of all people for equal rights and dignity, regardless of colour, race, religion. We ask our own Canadians of Japanese descent, because of their own experiences, to learn from it and to be at the forefront of efforts to eliminate discriminating practices in thought and deed and to speak out against these practices whenever the opportunity arises.

New immigrants must also recognize that some of their ways are unknown and sometimes a discomfort to other Canadians. They too must temper their ways and use their cultural freedom so as to enrich, rather than to arouse hostility. Ethnic minorities must beware of becoming hypersensitive on the subject of discrimination where none exists.

WHAT DO WE SEE FOR THE FUTURE?

For the immediate future of less than a decade, we look forward to positive action in the following areas:

1) Atonement of past injustices to Canadians of Japanese descent. This would be a pre-requisite before Canada can stand as past of a world tribunal and point its finger at other injustices in other places

2) Continue policies and practices to promote the true spirit of multiculturalism as a fundamental Canadian tenet

3) Legislation equal to, or superior to any other nation in its recognition and promotion of the individual rights of its people

If we are successful in implementing this Canadian mosaic, then we believe that our land would be the envy of all nations.

We are truly aware of the needs of other underprivileged and maligned peoples of the world. However, to speak with credibility on HUMAN RIGHTS and our system of government, we must first insure that our own actions are just and beyond reproach, and that we have taken care of our own.

The task that lies ahead to make this ideal a reality will be challenging and difficult. A multi-cultural society, living together harmoniously under one system can come about only through our intense dedication and commitment.

Season's Greetings

HONPA BUDDHIST CHURCH of ALBERTA

Rev. June King and Family
Rev. and Mrs. L. Kawamura
Rev. and Mrs. Y. Kawamura
P. O. Box 286, Raymond, Alberta, T0K 2S0

BOARD OF DIRECTORS

Sunday School Department, Youth Group League,
The Alberta Honpa, Editors.
Lethbridge Branch: 3611 Forestry Ave., Lethbridge
Raymond Branch: P.O. Box 286, "Raymond"
Rosemary Branch: Rosemary, Alberta

アルバータ本派佛教会

Season's Greetings
from

RAYMOND MOTORS CO., LTD.
and
HI-WAY TEXACO SALES & SERVICE

KAMITOMO BROTHERS
John, Ken, Doug, and Roy,
and Employees

Phones: Raymond 752-3324 :: Raymond, Alta. T0K 2S0
Direct Line to Lethbridge, 328-5909 ::

Season's Greetings

JUBILEE MOTORS
(RAYMOND) LIMITED
RAYMOND — ALBERTA T0K 2S0

Office Phone: 752-3402 — Parts & Service 752-3571

Jack Nishiyama Mac Nishiyama
Muneo Takeda

General Motors Dealers
Chevrolet - Oldsmobile - Pontiac - Buick
Chevrolet & G.M.C. Trucks
Gulf Gas & Oil Producets
AND STAFF

National JCCA Report.....

The Japanese Canadians: Present Day and Future Communities (Thoughts and observation from the J.C. commutity)

By NOREEN KUROYAMA

The following is the National JCCA report "Present Day and Future Communities", on the thoughts and observations of the Japanese Canadian community by Noreen Kuroyama. Originally, it was issued on many ethnic groups in October of last year. The following is the section of the Japanese Canadians.

THE JAPANESE CANADIANS

I spoke with 12 Sansei and 11 Nisei. I talked to friends, acquaintances, and strangers. All were very receptive and helpful. There is a wide range of comments and again I've used a point form format. I have not tried to correlate majority opinion or formulate a common policy or impression here. Each individual was exactly that — an individual.

NISEI — THE PRESENT

— Japanese Canadian (J.C.) community is dead

— 75% of friends are J.C., and all are not involved

— Japanese are not discriminated against any more and can join different clubs, not necessary to join J.C. clubs

— the Center is out of the way, inconvenient, and doesn't offer anything I need and I don't know what would entice me

— the Center has more white than J.C. in some of their classes

— more J.C. now have white friends and neighbours

— live in own community and environment, raising kids and helping them with their activities

— late 30's, 40s, not too many involved, there's a gap, too busy with other things

— no centralized community, localized around church, with interchange and overlap

— diversified and geographically spread out

— everyone sticks to own group

— work with the church, spend my time there, don't have the time to be involved with too much, want to do this well

— difficult to support all the different groups financially

— Nisei are passe, although they are instigating a lot of things, should lay ground work for the Sansei

— Nisei need to change with Sansei

— need teenagers involved for future development and to retain Japanese

—Lake Scugog camp and Jamboree was good this year

— Centennial helped revive youth

— Sansei not as outgoing as I thought they would be

— those that don't think themselves as Japanese but Canadians, that the name and looks are incidental, might be in for a rude awakening one day

— strong J.C. community, although everyone is not involved and keep to themselves

— encourage children to associate with other J.C. and be proud of being J.C.

— use the church to meet others

NISEI — THE FUTURE

— don't think we will have a J.C. community by the Yonsei's time

— language not passed down

— didn't learn Japanese

— if kids want to learn Japanese they will

— French more important at the present

— if kids want to, they will look up their background

— watered down passing of values to Yonsei

— children are good to grandparents, respect elders, don't take everything for granted, and honour favours back

— let kids do as they want, learn from watching, e.g. cooking foods, especially at New Years

— even with intermarriage won't be totally lost, Japanes might predominate, hope Japanese is stronger

— never really lose Japanese consciousness, do the best you can, the background is still there, as shown in the low crime rate

— whites who marry Japanese are usually more Japanese', on the quiet side, especially the men, the girls seem to be on the noisier side

— don't lose everything, the blood is still there

— look J.C., no way you can lose it, so accept it, it never leaves you, no matter how hard you assimilate

— maybe good leaders will come from the new immigrant group

— like to see mutual exchange between Sansei and Issei, as in Vancouver's drop in center

— need to do things with some purpose, one good project every 5 years, rather than a lot of little ones, e.g. grants to help kids get through school, and for other communities, not just J.C.

— people go to other agencies, than the JCCA for help now, perhaps if it had a consultant service, e.g. lawyers to go to

— future so unknown all around, life styles are changing, may be racial blending

— optimistic for Sansei, especially after this Centennial, like to see them take over

— not many J.C. do volunteer work and not mix much, should mix more

— would have liked to have become more politically active, but hesitate, due to lack of education

— feel communicating is the biggest problem, can't express myself as well as Sansei, hope more (Sansei) go into politics and help other ethnic groups

— like to see more community grow in the broader sense

— stand out more as a community, not over emphasize J.C., but be an example, back political people involved in helping ethnic groups

— JCCA should have stood up against the use of the War Measures Act in 1970

— more participation of young people in political life, and public life, to educate the rest of the country of your presence and what you can contribute

— extend own individuality and background and quality into public life, don't go in a safe corner of Japanese — go out among others

— should become more visible, Sansei have good control of the English language, some are outspoken, although found Sansei have the quiet J.C. trait.

●

SANSEI — THE PRESENT

— J.C. not united, complacent and conservative

J.C. are very clannish, and its hard to break up groups

— lack of close association and being spread out, there are subtle things that J.C. might do, that we lose

— we assimilate easily; J.C. assimilate more easily, academically inclined

— J.C. contributing to a better Oriental image

— most cousins are intermarried; most likely I will marry outside the race

— intermarriage enhances own community

— assimilation is good in terms of less discrimination, but not in losing an identity, knowing you are J.C.

— Sansei don't want to be identified as J.C.

— feel white and then go to a party and a guy doesn't ask me to dance, while all my friends are up — it bothers me. Now 50% of my friends are J.C., and 2 years ago it would have been

— live far away from the Center, involved with family and kids

— only go to J.C. events because friends go

— don't see the younger peoples' discidence and concerns (about being J.C.), maybe because I grew up with mainly oriental friends

— like opportunities to meet new J.C., on outings, ski trips, go carting, the social aspect, not interested in the cultural aspect and perhaps that is the reason not bothered by things. Although I regret not learning the language so I could talk to grandparents

— wish I had gone to Japanese Language School, would make kids go if I married a Japanese

— rather marry Japanese, although many aren't, feel whole with all Japanese background, instead of 1/2 or 1/4

— we're outnumbered, see good looking J.C. with whites

— spoke Japanese to kids when they were young, go to the Buddhist Church to take the kids, so they can meet other J.C. There are not many older Sansei, so there are few Yonsei at age 13 or so, would like kids to marry J.C., although they probably won't

— see some cultural values in myself, yet don't see the same in my younger brothers

— as I get older, I get more interested, my brother's wife (white) became interested in J.C., and now he is too

— liking Japanese food more now

— old fashion idea of parent and children being close is good, children pick up parents' ideas, e.g. less tendency to pick up criminal element

— not aware of new Japanese immigrant organizations, didn't know they had any

●

SANSEI — THE FUTURE

— don't know if there is a

Cont. on Page 6)

Japanese Canadians. . . Cont. From Page 5

future, don't know what will be past on

— inner value system will come through, e.g. hard-working

— food remain, J.C. community will not change completely, basic Japanese family unit enhanced and not disappear, too strong, as long as people can accept what they are, as orientals

— would pass on to children what I could, e.g. food, Japanese baby talk

— wouldn't force kids to speak Japanese

— if want to learn more about the culture than will

— don't care, people came here to make a new life

— I care, Center will keep on, perhaps by new Japanese immigrants, small group of Sansei, or maybe diverse people and more white

— need closer contact with new immigrant group

— like to see the language retained, and the the Buddhist Church, as it has more Japanese tradition

— value in retaining certain amount of culture, even for interest sake

— in future, see myself involved, not a leader, see it as being different

— Sansei are lazier than parents, can't see us cooking at bazaars and Caravan

— Nisei running the Center with every day support, don't trust our own generation as much, not the same dedication

— like to see more activities, e.g. volleyball, rolling skating

— drop in centr would be bood, for casual, informal atmosphere, with people of own kind

— should have an area for kids at the Center, so it won't seem like a bore to go there

— next 75 years will bring on change, didn't take long for the peresnt state

— helping other groups depends on individual and personal satisfaction they get from it

— not interested in politics, but hope eventually there will be Japanese candidates

— not interested in politics, not a good speaker, don't like large groups

— rather help my own and stay with own, not thought about helping other ethnic groups, although would on a personal level

— not interested in politics, involved if something drastic happened, or personally effected family

— not interested in going out in politics, if go all out, might be more resentful towards J.C.

— J.C. community not significant in terms of numbers, should be more vocal and active for all minority groups

— maybe next generation will speak out more, as they learnt earlier to do so

●

CONCLUSIONS AND RECOMMENDATIONS

Several things stood out this summer. The people I met were all very warm and helpful. It was a rare opportunity to be able to discuss these topics with them.

This being Centennial year and the first year I've really been involved with the community, I had a lot of questions of my own and things to resolve. Talking to these people have settled some, and my conclusions and recommendations are a partial result. Again, being subjective, they may not reflect everyone's opinion. Conclusions on reading the report may differ, but having spent so much time thinking about it and listening to many views, the following is what I would like to see done, or at least considered.

Firstly, I found the other ethnic groups very interesting and very intersted in us. All round, I'd say we have created a good image and we are seen as a unified, well adapted and adjusted group. There is a desire to maintain some sort of contact, and I think we should.

I believe there is power in a united ethnic minorities group. If the ethnic people number over 50% of Toronto's population, then we are greatly under represented in both politics and the media.

Politics is a very individual and personal commitment, but we should support each other over things that concern us as a whole. We might try to encourage more political participation, even if its licking envelops for our favourite candidate or joining the Party of our choice as an onlooker, if we can't be an active vote getter.

The media too, is another area where more ethnic people should be seen, and not just for JAL ads and CARE. Every group needs to see a positive image of themselves. Even though with our assimilation, seeing a Japanese in a positive light might help generations feel more at ease with it and find some reinforcement in being a J.C. Therfore, I would like to see more communication with other groups with some of these ends in mind. There is pressure in numbers.

From the responses it seems that the Nisei are more politically minded, and have hopes for the Sansei, with their better education and opportunities. Most Sansei seem not to be interested in politics and speaking out. Many of the Sansei have retained the quietness and reserve of their parents. This passiveness is indicative of something which I discuss further on.

Secondly, I also feel there should be more contact with the new Japanese immigrant groups. Some of the Nisei and Sansei looked to them for future impact as leaders and organizers in the community, yet most knew very little of their organizations and functions.

Lastly, is the future of the Japanese community. Few people had ideas as to new things they'd like to see being done. Many supported recent activities, such as the Teen Jamboree, the JCC Youth Conference and the Annex. Social activities, were emphasized more than the cultural ones. The more overt evidence of a J.C. culture is missing among the Sansei. The language is basically lost, although most showed an interest or a regret in not having learned it. Ikebana, shodo, sumie are not practiced by many younger J.C. The liking for the food is still there and seems likely to continue. Yet I feel there is a future for the J.C. and I think it will be retained through a value system that will be passed on, at least for the next two generations. After that, the world may be so different, it might not matter.

Several things have led me to believe this. One, is the quietness and reserve of the number of Sansei I've met the past months. They may be accomplished in their fields, adjusted to Canadian life, with many Canadian friends but most are easy to get along with and have a quiet, pensive side. They sit back in a group and regard the other person.

Another is what I've learned from the examples of the Chinese. Not only with the return of the older group but with the individual who found his own, thought out philosophies mirrored. He discovered his philosophies as being basic Chinese ones, reflected in the language, when he began to learn Chinese in a later stage of his "yonsei" life.

Similarly with the Black experience, where the 4th and 5th generations are found to look more deeply for their background.

Fourthly, with Canada looking at multiculturalism and trying to expound its virtues, it gives some incentive to look for a cultural background to relate to.

I think this rather intangible J.C.ness will be retained. A number of people felt that as long as there are the Japanese features and one can accept what you are, then there will be something there.

How to ensure this requires a total effort, although not necessarily a conscious one. Nisei, by continuing to be the kind of people they are, expressing that close feeling that developed because of their past experiences will pass it on. By making available the overt Japanese culture ie. dance, writng, art forms, we give exposure to our past heritage for both the J.C. and the Canadian. We should record our history, especially the more personal experiences of the Issei, before it can no longer be a possibility. Social activities, which might be criticised as not being relevant enough, may in fact be more so, because through meeting other J.C., a positive image is reinforced of an accomplished, diversified group. Also there is a reinstatement of modes of behaviour and values that are expressed, albeit subtlely, but none the less working its influence.

It takes the efforts of individuals to do this, to run activities and provide the exposure. So far different people have come in at differnt phases of their life, willing to do so. A natural rotation occurs and I think it likely to continue for some genrations to come.

SUMMARY

1. There should be communication with other ethnic groups for maintaining a unified front in politcs and the media.

2. Encourage people in political and media.

3. Record our Issei history.

4 Increase communications with the new Japanese group.

5. Maintain our community through exposure and setting a positive image by continued cultural event and social activities.

SEASON'S GREETINGS
TO OUR FRIENDS
OF JAPANESE HERITAGE.

TOYOTA
Canadian Motor Industries - Toyota
1291 Bellamy Rd. N., Scarborough

Hayakawa on floor of U.S. Senate points to Quebec situation in "bilingual education" talk

Dr. S. I. Hayakawa

Following remarks were delivered Aug. 23 on the floor of the U.S. Senate by Sen. S.I. Hayakawa on a subject matter that over the years has attracted the interest of various Asian North American groups and individuals

By SEN. S.I. HAYAKAWA

AS A SEMANTICIST, I have a life-long habit of not accepting words simply on the basis of their colloquial usage. I rather like to make certain that the meaning of any particular language can be clearly identified.

In this connection, the term "bilingual education" has been giving me some problems. Chances are that when one asks five educators very different answers will be given. According to one interpretation, it simply means the teaching of English to new immigrants. On the opposite side of the scale — and there is really a full scale of interpretations — bilingual education is a more or less permanent two-track educational system — involving the maintenance of a second culture and an emphasis on ethnic heritage. I ask myself, "how did we get into this confused state of affairs?"

The United States has always had minority groups with different languages and cultures, so there has always been the need for special educational assistance.

Prior to the 1900s, in Pennsylvania the Germans had public instruction in German for a brief period in the 1830s. In Cincinnati, Ohio, Indianapolis, Indiana, Baltimore and New Ulm, Minesota there were German-English schools between 1880-1917. Cities such as New York, Chicago and Detroit set up special English classes for language minority immigrants as part of night school programs. Many immigrant organizations provided assistance to members of their groups.

The Educational Alliance of New York City had a program in the 1890s to help Jewish Immigrants by teaching them English, and later the Society for Italian immigrants and the Polish National Alliance set up similar classes. Although immigrant groups continued to establish native language schools for their children, the great majority of language minority children who were in school received no special consideration.

Nevertheles, all these children made their way. They succeeded in their respective fields of endeavor and many of them were later found among America's most prominent citizens.

I BELIEVE BY about 1960, some important changes began to take place. A great number of Cuban refugees arrived, and this influx was subsequently enlarged by increasing numbers of Mexicans. As a result, prior to 1969, some 56 locally initiated bilingual programs were started primarily in the Southwest.

Congress got into the act in 1968 when it passed the first major Federal Legislation concerning bilingual education, the Bilingual Education Act. There have been numerous amendments since that date. The latest one will be found in Title VII of the bill which is presently before the Senate.

Looking over the record, we find that we started out in 1968 with an authorization of $15 million, that it was doubled in 1969, and that we are now considering authorizations in a magnitude of $400 million annually.

For a generation which has gotten used to the generosity of the welfare state, this is, of course, a normal and desirable development. An oldtimer like mysef, on the other hand, cannot help wondering why it was necessary for the Federal Government to become involved in a problem area which — left alone — had contributed so effectively to the American success story.

As a member of the Budget Committee, I have learned to deal with billions of dollars. So the amounts under discussion for this program will not cause me any sleepless nights. What I am concerned about, however, are the ambivalent aims of billingual education. According to the Office of Education:

"Bilingual education means the use of two languages, one of which is English, as media of instruction. Both languages must be used as media of instructions for the same student population in a well organized program which encompasses part or all of the curriculum. Included in the concept of bilingual education is the study of the history and culture associated with the mother tongues. A complete program develops and maintains the children's self-esteem and a legitimate pride of both cultures."

"Bilingual education does more than simply teach a child English so that he can be assimilated into the Anglo school. Rather, it attempts to present and preserve certain aspects of the student's native culture as well as to introduce him to the English language and its culture."

Mr. President, I cited the official position of the Office of Eudaction, and I cannot help wondering how many of my colleagues concur with this approach. The fundamental issue was discussed in the Education Subcommittee, which eventually agreed to a change of language that seems to me symptomatic.

The text in the present law stipulates that bilingual instructions are needed for children who "have difficulty speaking and understanding instruction in the English language". The new text eliminates this language, indicating that the instructions are needed for children who "have sufficient difficulty speaking, reading, writing or understanding the English language to deny such individuals the opportunity to attain levels of proficiency camparable to others at their appropriate age and grade level."

Mr. President, if there ever was an open-ended definition, in my judgment, here is one. Since the attainment of proficiency comparable to that of native Americans entails debatable value judgments, we are opening the door to a federally-sponsored maintenance of a second culture.

I BELIEVE WE all grew up with the concept of the American melting pot, that is, the merging of a multitude of foreign cultures into one. In this world of national strife, it is a unique concept. I believe everybody in this Chamber will agree that it had a fundamental impact on this nation's greatness. In the light of these new educational developments, I ask myself what are we trying to do? Where do we want to go? Demographic research tells us that 10 or 20 years from now in some of our states, there will be a majority of individuals with Spanish background.

It seems to me that we are preparing the ground for permanently and officially bilingual states. From here to separatist movements a la Quebec would be the final step. Is this the development which we want to promote?

'Yankee Samurai' author Joe Harrington speaks to Can. Nisei Vets Assoc.

TORONTO. — Author Joe Harrington spoke to the S-20 and Nisei Veterans Association at its annual meeting held in November at the Officers' Mess of the Royal Canadian Engineers in the Fort York Armories.

The writer gave an interesting talk on his forthming book "Yankee Samurai" which deals with the role that the Nisei Military Intelligence personel played in the Pacific war. Mr. Harrington states that the war was shortened considerably and thousands of lives saved because of the contributions made by Nisei linguists.

The book is to be released in June, 1979 to coincide with the American veterans reunion in Hawaii.

George Okamoto introduced the speaker who was thanked by George Kadota. Jack Oki presented "The Enemy That Never Was" as a gift from the Association.

Plans are going ahead for the Association to attend the American reunion in Hawaii. Members travelling to Hawaii will have an opportunity to visit Japan for a fifteen day tour. The Association made a similar tour in 1970. The committee is headed by Jack Oki assisted by Bill Nozaki, Ray Takeuchi, George Suzuki and Masao Hyodo.

Two former officers who recruited the Nisei were unable to attend. Don Mollison of Victoria had a car accident but was able to meet several veterans at his hotel.

Cece Thomas of Mexico City send a telegram urging the Association to remember that other minorities still face similar problems encounterd by the Nisei and should speak for the Association and against discrimination at all times.

The business portion of the evening was opened with a minute silence in memory of the members who had passed away durig the past year — Jin Ide, Bill Sasaki, Shig Oue and Jack Nishizaki.

The present executive will continue for another year. They are George Suzuki, president, Fred Kogawa, Tsutomu Shimizu, Albert Takimoto, Roy Ito and Masao Hyodo.

The early Nisei featured in upcoming J.C. pictorial history

By TOYO TAKATA

TORONTO. — The J. C. Cultural Centre had a very rare visitor recently, Mrs. Haru Sugawara of New York. She was visiting friends and relatives here and attended functions at the Centre.

What makes her unique is that she is of Canadian birth, and belongs to that very special group of Canadian Nisei born before the 20th century. The first Nisei, Katsuji Oya, was born in 1889. He was followed by his brother, Jiro, and George Nagano, the next year. The first Nisei girl, Hatsuyo Uchida was born in 1891.

The Uyehara family immigrated to Canada, from California around 1892. They settled on Salt Spring Island where Mrs. Sugiwara (nee Uyehara) was born in 1896. Her father, Kingo Uyehara farmed and worked in logging. The Uyeharas as a pioneering family are featured in the upcoming pictorial publication.

Mrs. Sugawara recalls that they moved to Sidney, east of Victoria, on Vancouver Island, where she attended public school, before moving on to Victoria where she remained for much of her growing years.

In those early days, the kind of education the Nisei received depended upon where he or she lived. Those who resided in the Japanese sections of Vancouver and Steveston went only to their Japanese schools where they received one hour of English instruction every day. Such a school is pictured above. This kind of education did not handicap Chitose Uchida who is in the picture because she went on to become the first Nisei UBC graduate in 1916.

On the other hand Nisei like Mrs. Sugawara never attended Japanese school.

It was common practice in their time to send the young ones to Japan to get a "proper" education. So before 1900, perhaps as many as one-quarter of all Nisei received their formal schooling in Japan. The parents considered it particularly important for their sons to go.

Season's Greetings 謹 賀 新 年

Toka Budokan Association

Instructors: LARRY NAKAMURA, MAS TAGAWA, SHIGEO KIMURA, YOSHITERU KAGAWA

Dojo: 131 Queen Street East.
Phone 364-8670

Office 24 Beckwith Road,
Etobicoke, Ont. M9C 3X9 Phone 622-4389

Season's Greetings

FROM

NIKKA OVERSEAS AGENCY LTD.

Commercial Fishing Gear

378 Powell St. Vancouver 4, B.C.
684-4155
New Branch: 3551 Moncton Street, Steveston, B.C.

謹賀新年
日加貿易會社
地方代理人一同

Season's Greetings

Japan's Specialty Shop

463 Eglinton Ave. W.
phone 489-8611
Toronto M5N 1A7

URABE INSURANCE

Gertrude and son Timothy

Wish You
The Very Best In The Coming Year

272 Lawrence Ave, West
Toronto, Ont. M5M 4M1
Phone 783-8422

"Reparations and official apologies for J.C Evacuation is a dead issue. . . .forget and forgive. . . .let bygones be bygones"

By GEORGE TAMAKI, Q.C.

Introduction of speech to the J.C. Business & Professional Assoc.

I deeply appreciate the opportunity of speaking to this Inaugural Dinner Meeting of The Japanese Canadian Business and Professional Association. On looking about here, I see a number of friends of long standing. Before this dinner, I also had the pleasure of making new acquaintances with many persons I have known only by reputation. I realize now how great an honour it was to have been asked to be present tonight.

Your chairman gave me complete freedom on the choice of my subject. That is a most dangerous thing to do with anyone — much more so with a lawyer. I recall the story of the experience of a young lawyer who was invited to explain some new tax laws to a group of farmers out in Western Canada. When he got got to the meeting, all the farmers had rifles on their tables and they were pointed toward the speaker's table. When the young lawyer finished his talk, he asked the Chairman why all the guns were pointed toward him. The Chairman replied, "Don't worry. If you were lousy, they were going to shoot me, not you!"

It is good to be here!

I should like very much to talk about the coming of age of Japanese Canadians in Canada Before doing so, however, I must tell you that your Chairman has expressly asked me to say something about the Canadian Tax Foundation of which I have the privilege of being the Chairman of the Board of Governors this year. You can get your guns ready, but please don't point them at me!

The Canadian Tax Foundation is a tax study and research organization sponsored jointly by The Canadian Bar Association and the Canadian Institute of Chartered Accountants. The primary objective of the Canadian Tax Foundation is to study and disseminate knowledge about the tax laws of Canada and to help to improve them. The second aspect of our work deals with matters of fiscal policy. At present we are engaged in a series of special studies on the fiscal side of Canadian federalism, including the manner in which the different levels of government in Canada have in fact cooperated in the past in the raising of revenue and the way in which the taxes collected were spent by them.

We hope to make a meaningful contribution to the current debates on Canadian federalism and I am really enthusiastic about our work.

There are over 7,000 individual members of the Foundation and over 400 corporate members. We are not only a self help group, but we also try to work in a non-partisan way to improve our tax system and to explore the facts about tax collection and spending in a federal democracy. We publish regular journals and special studies and hold conferences and seminars across Canada.

Membership in the Foundation is open to anyone interested in its objectives. I invite all of you to join. Individual membership is $50 per year and the corporate annual dues are a minimum of $200 per year. I am glad to say that there are many Nisei and Sansei who are members.

As I travel about in the course of my duties with the Foundation and in my law practice, I have come across many individual Nisei and Sansei as lawyers, accountants and businessmen. In addition, I am amazed at the number of times that I have met people who either work with — or have worked with Nisei and Sansei, or who have them as close personal or family friends. Practically every one you meet these days will have one or more friends or acquaintances who are of Japanese origin. It does show how completely we have become part of the Canadian community.

We have just celebrated the 100th anniversary of the coming to Canada of the first Japanese settler. All indications are that the second century will be good for Japanese Canadians. Unlike some years ago, I can detect no sign of any feeling of insecurity or inferiority among the Nisei, Sansei or Yonsei of today. Rather, I see everywhere a new maturity and self-reliance. This is living proof that we have indeed come of age.

If the centennial celebrations of last year have served to highlight the accomplishments of the present, they have also inevitably reminded us of the hardships and sorrows of the past and the tremendous sacrifices of our fathers and mothers and grandparents who came to this promised land. The celebrations have reopened for many our unhappy experiences in Canada during the last War.

This leads me to a question which has troubled me greatly during the last few months. This is the apparent call from some quarters for so-called reparations and official apologies for the wrongs and sufferings caused to us as a group during and after the Second World War. I happen to feel very strongly that this is a dead issue — that it is time to forget and forgive — to let bygones be bygones.

I believe that instead of looking backwards, we should get on with our work as individuals each in our own way to contribute to the larger community of which we are an integral part.

I am not one to condone the actions taken by the Canadian Government against us as a group during and immediately after the war. I am sometimes asked about this even today. My reply is this: "You will never get me to say that the actions taken were necessary or even inevitable, or that they ultimately resulted in good. They were wrong and never should be permitted to happen again for any group of people."

Let us deal now for a moment, however, with the notion of an official apology. Under the Canadian constitutional system it is conceivable that the Parliament of Canada after due debate could pass a resolution singling out the Japanese persons who were evacuated from the West Coast and apologizing to them for the treatment accorded them. However, in my view, no government in Canada will, as a realistic matter, initiate such an unprecedented step. Moreover, I do not believe it is wise for the old debates to be reopened in an attempt to obtain an official confession of wrongdoing on the part of Canadian body politic.

In a real sense, the Canadian people have already apologized. It was not long after the War that all political and legal restrictions on Japanese Canadians were swept away and we were free to pursue our goals in the professions, business and governement. The conscience of the Canadian people has not failed us.

Today the Canadian public accepts as a matter of course a Nisei as the highest ranking and reputed to be the most powerful public servant in Canada. If you bought last year's Canada Savings Bonds you saw on them Tommy Shoyama's rather scraggly signature on behalf of the Government and I am sure you will see it again on this year's issue. The federal government as we all know, had to institute some unpopular economic and fiscal measures. But never once

(CONT. ON PAGE 3)

THE NEW CANADIAN

Friday, December 29, 1978

Section II

Season's Greetings

ISHII BROS. LTD.

Architectural Woodwork

Harold Ishii – James Ishii – Tosh Sakauye

10331 Garon St., Montreal North, Que.

Season's Greetings

N & S

General Contractors Ltd.

32 MUIRCREST DR., DON MILLS M3A 1K5

J.I. NAKAMURA

Season's Greetings

日本航空 JAPAN AIR LINES

Michio Kubodera Vancouver Branch Manager

George Nishidera, Toronto Branch Manager

Season's Greetings

WILLIAM WALES LTD.

Insurance Agents

William Wales Ian Wales

2 CARLTON ST. TORONTO, ONTARIO

PHONE 368-4681

Season's Greetings

FURUYA TRADING CO.

古 屋 貿 易 会 社

FURUYA TRAVEL SERVICE

古 屋 交 通 社

460 Dundas St. West

Toronto, Ont. M5T 1G9

Season's Greetings

TINY TOGS

TOM HORI & FAMILY

DON MILLS SHOPPING CENTRE
939 LAWRENCE AVE EAST
Don Mills, Ont. M3C 1P9

Season's Greetings

謹 賀 新 年

HISAKI FARMS

Dr. & Mrs. E. Hisaki & Family

R. R. 2, ACTON, ONTARIO

久 木 農 園　　久 木 家 族 一 同

DR. EDWARD HISAKI
Orthodontist

131 BLOOR STREET WEST, SUITE 515
TORONTO, ONTARIO M5S 1R1
TELEPHONE 921-2338

R. R. 2, P.O. BOX 127
GEORGETOWN, ONTARIO L7G 4S5
TELEPHONE 877-5389

55 ONTARIO STREET SOUTH, SUITE 23
MILTON MALL, MILTON, ONTARIO L9T 2M3
TELEPHONE 878-2874

Tamaki

Cont. from Page 1

have I heard anyone criticize Tommy Shoyama on a personal or racial basis. There are other examples: the best known publicist of science on television is Dr. David Suzuki, a Sansei: Dr. Irene Uchida is perhaps one of the most respected geneticist in North America; and so on. The list is impressive. Japanese Canadians are everywhere making a name for themselves in the fields of science, medicine, the arts, education, business, government and the professions generally.

Do we require an official apology from a society which has to my mind impliedly recognized it was wrong? Demanding an official apology is, in my opinion, like trying to force your husband or wife, as the case may be, to admit he or she was wrong when he or she has already demonstrated by action — short of official apology — that he or she was wrong. It is just not a good idea!

Now let us look at the question of reparations. I realize that this is only in the discussion stage. Here also, any action for reparations — or redress as I believe some would like to call it — would require the passage of the necessary law by Parliament. Again, I do not think that it is realistic to imagine that any government or any political party would at this time — over 30 years after the war — espouse this kind of cause for a particular group such as ours. I can appreciate the feelings and arguments of those who feel aggrieved. I happen to believe that this is also a dead issue and we might as well forget it. Raising it now will only rekindle old animosities without any real expectation of success.

What concerns me most of all about the reparations proposal is that it tends to segregate us as an aggrieved people — different from and out of step with the mainstream of North American life. It will help to perpetuate the old historical differences — real or imagined — to no avail.

I firmly believe that we as a group have now come of age. We are able to meet our responsibilities and reach our goals without the aid of crutches dragged out of the past. Coming of age implies a certain self-reliance and maturity of thought and action. I respect the views of those who believe that an official apology and reparations should be pursued. They are entitle to their views. I happen to believe that these are non-issues and should be laid to rest.

In my opinion, to think in terms of apologies or reparations is a backward and retrogressive step. Our problems as Japanese Canadians — and I do not say that they have disappeared forever — will only be solved as a result of our individual efforts and achievements as members of the larger North American community by sharing in its hopes and aspirations as well as its concerns. Some day we may well have a prime minister of Japanese origin — but this will not be because of his or her racial origin. It will be due to his or her individual qualities of leadership.

Before closing, let me first recall that today is Armistice or Remembrance Day. I should like in particular to pay tribute to an outstanding Nisei — and a friend — who passed away last year at the Shaughnessy Military Hospital in Vancouver. He was popularly known as "Buck" Suzuki and he was an example of a mature Nisei. Perhaps he became of age before many of the rest of us.

I hope you will excuse me if my remarks sounded like a mixture of Remembrance Day services, commencement day exercises and a St. Jean Baptiste Day parade. My message is simple. Let us remember the past and it sorrows and hardships, but let us not forever dwell on it. Let us indeed look forward to the future with confidence. Let us all continue to strive as individuals each in our own way and find our places in the wider society of which we are part, united in mind and spirit as a distinctive group and proud of our heritage, but also at the same time with equal respect and concern for the well being of others.

Season's Greetings

GROVE CYCLE
SPORTING GOODS

Matt & Frank Matsui

335 College St. — 923-9633 — Toronto, Ont.

Season's Greetings

TORONTO JAPANESE GARDEN CLUB

1 Burleigh Heights Drive,
Willowdale, Ontario

Season's Greetings

ARTHUR R. KITAMURA
Barrister & Solicitor
11 King St. West, Toronto, Ont.
Tel. 868-0464

Season's Greetings

OSAKA HOUSE
JAPANESE RESTAURANT

12 Temperance St. Toronto
Telephone 368-2470

Open 7 days a week

Season's Greetings
謹賀新年

トロント日本語學校
維持会
Toronto Japanese Language School

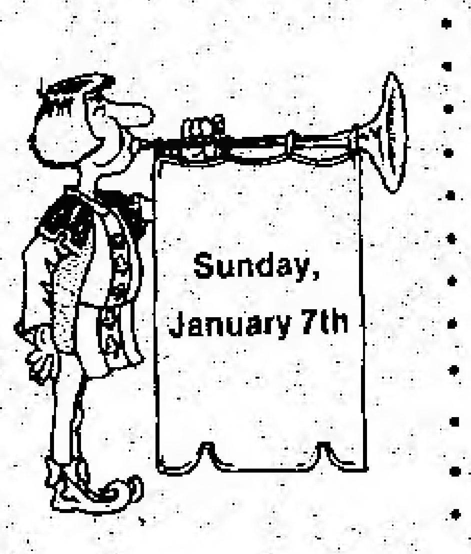
Iji Kai ㊎スクールボード 父母教師会 P.T.A.
第一學校 Orde Public School (Central)
第二學校 Wexford Collegiate (Scarborough)
第三學校 Wilkinson Public School

Season's Greetings

MITSUI & CO.
(CANADA), LTD.

Royal Bank Plaza, P.O. Box 53
Toronto, Ont.
M5J 2J2

5th Annual
CHILDREN'S FESTIVAL



- Cartoon Theatre
- Tea Ceremony
- Martial Arts
- Origami (Paper Folding)
- Japanese Dance
- Phillipine Dance
- Scottish Dancing
- Calypso
- Hagoita (Badminton)
- Magician
- Door Prizes
- Clowns

Admission: $2.00 Adults
$1.00 Children 3-14 years.
Time: 11:00 a.m. — 4:00 p.m.
Banquet Floor

For reservations call (416) 444-2511 EXT 113

The Prince Hotel Toronto
900 York Mills Road, Toronto, Ont. M3B 3H2

Personal Greetings from Across Canada

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mrs. U. Machida
& Family
30 Dundalk Dr.,
Unit 26,
Scarborough, Ont.

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Takeo & Haruko Ooto
& Family
1336 Somerville Ave.,
Winnipeg, Manitoba,
R3T 1B9

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mas & Sachi Hyodo
& Family
82 West 3rd St.,
Hamilton, Ont. L9C 3K3

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Tish & Yori Tsujimura
& Family
138 Carsbrooke Rd.,
Etobicoke, Ont.
M9C 3C8

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mr. & Mrs. Tats Sakauye
& Family
11344 Drapeau Ave.,
Montreal N. Que.
H1K 3K4

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Miss May Owston
Apt. 302,
1520 Belcher Ave.,
Victoria, B.C. V8R 4N1

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mr. & Mrs. James H. Horiuchi
1409-6651 Minoru Blvd.,
Richmond, B.C. V6Y 1Z2

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mr. & Mrs. Mas Sugamori
5 Haregate Court
Weston, Ont.
M9R 3H5

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mr. & Mrs. T. Shing Suzuki
8850 River Road.,
Delta, B.C. V4K 3N3

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Mrs. T. Miyake
105 MacPherson Ave.,
Toronto, Ont. M5R 1W7,
Tel: 961-7073

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Md. & Mrs. Shotaro Shimizu
907-10160-116st
Edmonton, Alta.

PERSONAL GREETINGS FROM ACROSS CANADA
Roy & Randy Okihiro
485 Etobicoke
Toronto, Ont. M8W 2V2

Season's Greetings

THE JAPANESE CANADIAN TORONTO CREDIT UNION

109 DIXON AVE.,
Toronto, Ont. M4L 1N8
PHONE 699-1474

謹賀新年

トロント日系人クレジット・ユニオン

Greetings Omitted Due To Bereavement

Mr. & Mrs. Paul Y. Tokiwa & Family

105 BELLINGHAM DRIVE
HAMILTON, ONT. L8V 3R5

Season's Greetings

THOMAS T. ONIZUKA, Q.C.

425 University Ave.,
Suite 615
TORONTO, ONT.

Season's Greetings

AGINCOURT ROOFING LTD.

40 Melfond Drive, Unit 1
Scarborough, Ont. M1B 2GZ
Tel. 298-3333

KEN MURATA, PETE "Tootsie" YAMAMURA and ART IKEDA

Season's Greetings

Dr. Paul K. Asada & Family

728 A St. Clair Ave., W.
TORONTO, ONT.

Season's Greetings

MARUBENI CANADA LTD.

401 BAY ST., SUITE 2700
TORONTO, ONT
M5H 2Y4

Season's Greetings

Misho-ryu Ikebana Society Of Toronto

592 WINDERMERE AVE.,
PHONE 769-5327

Mrs. MICHIYO TAMURA & STUDENTS

Toronto, Ontario

Season's Greetings

TORBRAM SERVICE CENTRE

7171 TORBRAM RD., Units 20 & 21.
Mississauga, Ont.
L4T 3W4 Tel. 678-1934

ENGINE SPECIALISTS
ELECTRONIC TUNE-UP
GENERAL REPAIR TO ALL MAKES

BILL KURISU KEN KUMAGAI
TAK YAMAZAKI PAUL BURNETT

Season's Greetings

RON'S T.V. Service

RON S. HAYASHI

237 King Street East
Toronto, Ont.

Phone 364-8459

Season's Greetings

ALBERT'S SHOE STORE

1328 Queen St. West
Toronto, Ontario

Phone 531-1931

The best of both worlds

"Hey! A 'Jap' in the Irish"

By GERALD BABA

"Hey! A Jap in the Irish!"

This racist taunt was directed at me in the summer of 1962. I had just completed grade ten at Malvern Collegiate in Toronto and was undergoing a five week student militia training programme at Old Fort York. Of the dozen or so regiments which recruited students for training, I had selected the Irish Regiment of Canada since it was the most popular one with Malvern students. As I marched in full dress along Queen Street towards the stop where I would board the street car taking me to the Fort York Armoury, I was approached from behind by two cadets enlisted in the Queen's Rangers. These two cadets thought it very unusual and even amusing that someone of Japanese descent should enlist in the Irish regiment. For this reason and possibly motivated by the racial prejudice that he felt, one of the two Rangers directed at me the insult which begins this essay. How did I react to this ridicule? I ignored it and let it pass. Why did I react in this manner? Why didn't I confront this bigot with his disgusting conduct? I won't, at this time, offer an explanation for my behaviour. However, later in this essay, I will attempt to suggest a possible reason for acting the way I did.

After reading the opening paragraph of this essay, one might assume that my motive for writing it was to demonstrate that prejudice is rampant in our society and to illustrate the innumerable occasions in which I have been personally subjected to this horrible disease. Any reader who makes this assumption couldn't be more wrong! I do not deny that racial prejudice exists. I know very well that prejudice does exist. In fact, I maintain that prejudice will endure. I also know that those waging a constant war against prejudice will look at me with contempt and will ask: "How can prejudice be stamped out when people maintain such an outrageously defeatist attitude?" I am not being defeatist. I think that being realistic is a more appropriate description of my belief. Furthermore, I feel that anyone who honestly believes that racial prejudice can be eliminated is tremendously naive.

My motive for writing this essay is neither to discuss the wide extent of prejudices in our society nor to relate countless personal experiences involving racial attacks. The simple truth is that there are very few times indeed that I have been the target of racial attacks!

My purpose for writing this essay is simply to describe some of the thoughts and feelings that I experienced as a Canadian of Japanese descent growing up in a predominantly white society. I also hope that those who read this essay can understand and appreciate what I have to say.

My life as a youngster was, in most respects, very similar to the lives of the other kids with whom I played and went to school. I enjoyed the same things as other kids — television, theatres, sports, etc. However, there was one essential difference. I was Japanese! Sure, I was a Canadian like the other kids. But I looked different. I was conspicuous because I was Japanese. The differences in our backgrounds were of no importance to my best friends (who incidentally are still my closest comrades today). They accepted me as a friend and not as a friend who was Japanese. To some, this may seem to be of no great consequence. Let me assure you that it is of utmost importance.

If one individual is different in one respect or another (be it race, religious belief, physical appearance, etc.), he learns this lesson very quickly in life. He learns that he is different not only through his contacts with or exposure to various media such as printed matter, movies, television, songs, etc. Revealing differences between individuals is not always an evil practice that should be avoided. Sometimes, comparisons and contrasts can be made between individuals in a very positive manner with all parties benefiting. Too often, however, this practice serves only to embarrass, ridicule, and humiliate one party to the delight of others. Prejudice can be found in the least expected places. To illustrate this point, let me cite a couple of examples with which you may be familiar. Remember when you were a kid playing kids' games with your friends and how you determined who would be "It". Often "it" was determined by one player or leader who recited a short rhyme and pointed at each of the players in turn. He pointed to a different player with each word in the rhyme and continued until the rhyme was completed. The player at whom the leader pointed when the rhyme ended was "it" for the game. One very popular rhyme went like this:

Eenie meenie minie mo,
Catch a nigger by the toe,
If he hollers, let him go,
Eenie meenie minie mo!

(Incidentally, some of today's kids have replaced nigger in this rhyme with Paki.)

Another rhyme which was, perhaps, not as popular, but was also used to determine who would be 'it' went like this:

Chinky, Chinky Chinaman,
Sitting on a fence,
Trying to make a dollar,
Out of fifteen cents.

Remember those? They may have been taught to you by some of other kids with whom you played or even an adult whom you knew! Prehaps the kids who recited such rhymes as these did so without intending to be racist. However, for any black or Chinese kid, the rhymes were (and still are) sources of embarassment and shame.

As I mentioned earlier, television is another medium through which individuals are reminded that they are different and consequently made to feel inferior because of their differences. I recall watching some cartoons when I was a young boy. In one particular cartoon, there was some scenes which I will never forget! This was a war cartoon showing the "good old" Americans pitted against the "sinister" Japanese. The American pilots were represented by wholesome, friendly, lovable cartoon characters while their Japanese counterparts were portrayed by buck-toothed, slant-eyed, thick-goggled monkeys! One could accurately predict the outcome of a battle between the two forces. Not only did the Japanese lose the battle, but their pilots were made to look like incompetent morons as they were shot down easily by the Americans and often misguided their planes into one another.

Anyone who makes an honest effort could probably recall or locate numerous examples of racial prejudice such as the ones described in the preceedings pages. For the unfortunate individual (often someone of a different background, usually an ethnic minority) at whom a bias is aimed, there are several consequences. The most serious of these is the likely undermining of the individual's self-confidence and self-esteem. This is especially true in the case of a young child who has not yet had the opportunity of developing a strong, positive self-image essential for confronting with confidence each new experience in his daily life. His self-concept is often so fragile that any obstacles encountered by him pose serious threats to the development of a strong self-image. His lack of confidence is demonstrated by the manner in which he conducts himself. The child's insecurity does not go unnoticed. Unfortunately, his peers realize that they can "get to him" and subject the child to additional teasing and embarrassment. This results in a further shaking of the child's security and confidence.

Such was the case, to some extent, in my own personal experience. I learned very early as a young boy that I was different. I was reminded by others, sometimes in most unflattering ways, of my Japanese ancestry. Because I was lacking in self-confidence, I felt embarrasment and humiliation not only when a racial insult was aimed at me, but also when directed at anyone of Japanese descent. When I should have been proud of my ancestry, I was ashamed of my background!

Anyone who would finds himself in an unpleasant situation usually tries to remove himself from that situation or eliminate the source of his discomfort. Since my Japanese ancestry was the source of my troubles, I had to eliminate it. The only possible way of doing so was to deny my ancestry. That was what I proceeded to do, at least on the outside. Whenever the Japanese were the target of an ethnic joke or insult, I would laugh openly hoping to announce through my laughter that I was not one of "them". I even went so far as to consider the removal of my Japanese middle name from my birth certificate. Can you imagine such folly? Fortunately for me, I have an older and much wiser brother. When I approached Sam to discuss the possibilities of removing my middle name from the certificate, he greeted me with a verbal reprimand. He tried to show me the foolishness of my actions and also to instill in me a greater sense of pride in my ancestry. I did not pursue the birth certificate issue any further. This is not to suggest that I immediately overcame my feelings of inferiority and was now proud to be Japanese. I don't think that this is possible. I think that personal growth is gradual and develops with experience. My self-image still required reinforcement. This came to me primarily from one source — my family. As the youngest of eleven children, I was always surrounded by individuals who set positive examples for me. My parents and older brothers and sisters especially displayed a tremendous

(CONT. ON. PAGE 6)

Season's Greetings
Mr. & Mrs.
Roy Ito
& Family
31 WELLWOOD ST.
HAMILTON, ONT.
L8T 3X2

Season's Greetings
ITO
FARMS
R.R. 10
BRAMPTON, ONT.
TEL. 451-1868

Baba...

Cont. From P. 5

pride in and respect for their Japanese heritage. They made a concentrated effort to retain certain aspects of the Japanese culture in our home. As I matured, I learned to appreciated and value more fully my Japanese heritage. For this alone. I will be forever indebted to my family.

Earlier, I indicated that I would suggest a reason for my reaction to the Ranger's comment. At that time, a feeling of insecurity was the primary cause for reacting the way I did. Had I possessed greater confidence in myself and pride in my ancestry, it's likely that I would have confronted them (though not necessarily a physical confrontation) and tried to elicit from them an explanation of and motive for their behaviour. Should I ever find myself in a similar situation again, this is the approach that I would adopt.

Reflecting on the way that I viewed my Japanese ancestry, I feel a considerable amount of shame. I regret the fact that I lacked courage, confidence, and pride to announce that I was of Japanese descent. However, I am not implying that I reject the Canadian culture by devoting all my energies to maintaining my Japanese heritage. This would be as grievous an error as denying my Japanese ancestry. I am a Canadian and proud to be a Canadian. Canada is a great nation and offers a great life for those who want it and are willing to work for it. But, my Japanese heritage is an integral part of me and never again will I deny it! I am as proud to be Japanese as I am proud to be a Canadian. Should I ever have children, I will try to instill the same pride in them.

At the beginning of this essay, I hoped that sme readers would be able to identify with me. For anyone from a different ethnic background who finds himself in the minority and is now experiencing the same feelings and thoughts that I had as a youth, I urge you to persevere. Don't throw in the towel! Announce your heritage and be proud of it! You've got "The Best of Both Worlds!"

Season's Greetings

NEW WORLD HOTEL

MR. & MRS. Y. FUJIWARA
AND STAFF

396 POWELL ST. VANCOUVER, B.C

Season's Greetings

DR. B. S. WADA

c/o Mr. Kono
901—6th Ave., Seattle
Washington 98104, U.S.A.

Season's Greetings

Dr. & Mrs. C. George Hori
& Family

231 Grove Street,
Cambridge, Ma. 02138

Season's Greetings

Dr. & Mrs. M. MIYAZAKI
P. O. Box 688
Lillooet, B. C.
VOK IVO
Phone (603) 256-4463

Best wishes for a
Very Merry Christmas
and a
Prosperous New Year

Providing the following financial services:

Plan 24 Savings Accounts
Short and Long Term Deposits
Chequing Accounts
Share Savings

Registered Retirement Savings Plans
Registered Home Ownership Savings Plans
Income Averaging Annuity Contracts

First and Second Mortgages
Fishing Vessel Loans
Consumer Loans

Safe Deposit Boxes
Travellers' Cheques
Money Orders
Night Depository
Personal Financial Counselling

MEMBERS OF THE BOARD OF DIRECTORS

R. F. Long, president
M. J. Canic, 1st vice-president
W. W. Paulik, 2nd vice-president
H. C. Lee
P. Wishinski
W. E. McHugh
J. E. Person
G. Williamson
A. N. T. Boroevich
D. C. Rea
T. Pileberg
C. G. Cave

Manager: J. R. Sutherland

GULF and FRASER FISHERMEN'S
CREDIT UNION
803 East Hastings Street, Vancouver, B.C.
V6A 1R8
Telephone 254-6266

A Very Special Merry Christmas
& Happy New Year To All Of You.

Come on in, drop us a line, we are always glad to assist you if we can.

ANNEX

Hours: Mon. — Fri. 10 am — 9 pm.

1468 Danforth Ave.
Toronto, Ont. M4N 1N4 Tel. 463-7441

Season's Greetings

MURAKAMI LOGGING LTD.

8520 Sierpina Dr., Richmond, B.C.
V7A 4M9

Mickey Murakami 271-1296

"AH so!"

"Jap". . . .that epithet again

By BILL HOSOKAWA

"HEY HOSOKAWA, what's that big stack of clippings on your desk?" These? Oh, these are clippings from the Japan Times, Asahi Evening News and other English language papers that Kay Tateishi sent me from Tokyo. Most of them are letters to the editor.

"What are they about? What makes them so important that good old Kay would invest in airmail stamps to send them to you?"

They have to do with the use of the word, Jap.

"You mean the Japanese are uptight about being called Japs? I thought that was a strictly Nisei and Sansei phenomena."

Yes, they are uptight. What touched it off was that the Press Council of Britain, the unofficial watchdog body for press conduct, ruled that "Jap" was a shortened form for "Japanese" and should not be considered insulting or offensive.

"Well, that's a hellova howdy do. Seems to me what the British Press Council is saying is that a bad word isn't a bad word, no matter how it sounds to our ears, just because they say it isn't."

Yup, that's about the way it appears.

"What do all the letter-writers say?"

Some are embarrassed, some think Jap is okay, others don't, some see no difference between Jap as a shortened form of Japanese, and Swede, Turk, Jew as shortened forms to describe persons from Sweden, Turkey and of the Jewish faith. One letter-writer contends the word is not necessarily derogatory, that it can be informal, insulting, neutral or endearing, depending upon who is using it.

"Did anybody explain the Nisei viewpoint?"

Yes, there was a letter from B. Saiki — must be Barry Saiki — which says that while Jap is a logical abbreviation for Japanese, "in the wide range of the American experience, its use has been predominantly derogatory. . . The Japanese Americans became extremely sensitive about this appellation after more than 50 years of offensive and inflammatory use." Saiki makes a lot of sense when he suggests that "if two extra syllables can engender calm and dignity rather than ill feelings, they should well be worth the extra effort."

"Wait a minute, Hosokawa. You've written on this subject several times and you seem to say something every time that makes somebody sore as a boil."

Well, I like to think I'm fairly reasonable. What I've tried to say on other occasions is that "Jap" has a long history as a hate word, and because of that it shouldn't be used. But there are some people who don't know the history, and in their ignorance they may use it without meaning to be offensive. In such cases we ought to try to educate without blowing our tops about it. And eventually, if we are tolerant enough and patient enough, the offensive connotation will disappear as it did with Yank, which at one time was a fighting word.

"Hosokawa, you really think that will happen?"

Who knows? People are terribly sensitive about these things. One of the letters Tateishi sent me said Britons don't like to be called Britishers. Another letter-writer said he had observed aloud that the fall weather was getting nippy, and was promptly informed that the word had a history of being used as an ethnic label, he looked up "Nip" in the dictionary and learned it is considered "offensive and disparaging." Still another correspondent pointed out that our old friend Kenzo, the famous fashion designer, chooses to market his creations under the "Jap" label, "a name that carries respect and prestige."

"So where does that leave us?"

At the bottom of the page, thank goodness.

Author Bill Hosokawa

Author Bill Hosokawa (above) whose columns have appeared in The New Canadian and the Pacific Citizen for years has followed his successful book "Nisei: The Quiet American" with another. It's called "Thirty-Five Years in the Frying Pan." It contains a selection of some of the more than 1,750 columns he has written for the Pacific Citizen from June 18, 1942.

Hosakawa is the undisputable dean of Nisei journalism. During the Evacuation, he started his column "From the Frying Pan" while in camp at Heart Moutain, Wyoming. Now a grandfather of five, Hosokawa works as the Editor of The Denver Post.

Season's Greetings

Yanagawa Japanese Foods & Imports

639 UPPER JAMES STREET,
HAMILTON, ONT.
PHONE 383-1518

Season's Greetings

ACTIVE TV & APPLIANCES

RCA Victor Sales & Service

521 UPPER SHERMAN AVE.
HAMILTON, ONT.

BOB TAKAOKA, TEL. 388-3311

Season's Greetings

TORO'S GOLF CENTRE

Located ½ Mile East of Sturgeon Rd. on Inkster Blvd.

227 GILMORE AVE. WINNIPEG, MAN. R2G 0Z3

PHONE 338-2578

Season's Greetings

Hamilton Buddhist Church

BISHOP SEIMOKU KOSAKA

671 TATE STREET
HAMILTON, ONTARIO

Season's Greetings

Southwestern Auto Service Limited

202-210 Dundurn St. South
Hamilton, Ontario, L8P UK3

Specialist — Complete Collision And Painting

SAM & TOMI SUENAGA

Phone 528-6758

A HAPPY NEW YEAR

あけましておめでとうございます。

1979

JAPANESE FOODS & GIFTS SHOP AT

SANKO TRADING CO. LTD.

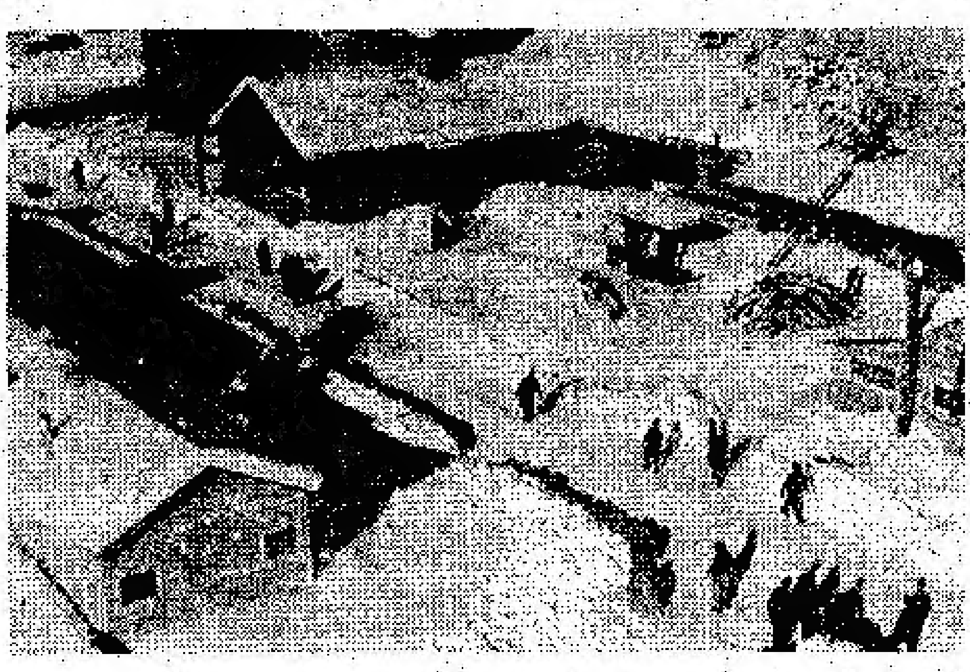
221 SPADINA AVE. TORONTO M5W 2E2 TEL.: 862-1082

JACKIELINE INTERNATIONAL CO. LTD.

Tashme: "Welcome to Sunshine Valley!"

By Helen Koyama

Ms. Helen Koyama



Tashme, The Way It Was

We were looking for Tashme 1978. My family, my grandmother. More than thirty-five years have passed and the distance has made this trip little more than a curiosity for the younger ones, a bit of strange nostalgia for my mother and her mother. The drive out is relaxing. It's a calm, dry day and we sing along with the radio when a large black and purple butterfly plasters itself SPLAT to the car aerial. We drive past the site of the 1965 Hope Landslide, some one hundred miles east of Vancouver where the landscape buckled and sent reeling a whole side of mountain into the valley below. Two miles of highway were buried under tons of debris, diverting the road and changing the appearance of the area drastically. So it wasn't until we were right on top of it that we recognized Tashme, a small group of buildings huddled together in the middle of this green valley. Except now the site is called "Sunshine Valley" a white and flourescent orange summer resort run by a bunch of cowboys.

Huge orange and white signs greet us at the ENTRANCE to SUNSHINE VALLEY where you will PLEASE COME RIGHT IN because there is FUN FOR SALE. Oh yes? So I go and ask the nice man,

"This land used to be known as Tashme, didn't it?"

"Yes," he says in spite of himself. "Why? What do you want to know for?" Eyes narrow with suspicion. Complexion like. . . like creamy cole slaw. . .

"Well, I. . . "

"This is private property."

"Yes I know, but -"

"What do you want to know for? YOU CAN'T DRIVE AROUND HERE."

Sigh. I'm a lady so I don't throttle people. I'm alone in this recreational paradise and I just thank the man and leave, my head clouded with anger and revenge. As usual, I do nothing about it. I'm such a victim. Still. But I kick the shit out of a pile of gravel that scatters into a hundred frightened pieces across the driveway. My mother mentions that the mountains are a lot lower than she thought they were.

We take a different route back to Vancouver but still pass the Hope Landslide where we stop for awhile to view Tashme from a safe distance. Yes, it looks small and ridiculous. And what did we expect? Here we are amidst the sad debris where four people lie buried beneath 100 million tons of clay and rock and all that's left now is a parking lot and a plaque marking the site and honouring this mountain's dead. The expense of rubble is multi-coloured with the years of graffiti.

The plaque tells us that the valley's small lake was completely displaced, its water and soft clay bed projected violently up the opposite side of the valley uprooting trees and leaving a deep, clean scar marking the path of the slide. We won't be back. The valley pulls away into the distance like a small grin.

* * *

Back in Vancouver, we visit Tonari Gumi, on Hastings Street and then walk over to Alexander Street and the Japanese Hall. These days the Japanese Hall is being rented out for Punk Rock concerts. Aren't you glad you asked?

* * *

When we realize that what we are looking for isn't an upright stone, we start watching where we're stepping. My mother comments that Mountainview Cemetery groups all its Japanese and Chinese together. But mom, death is the time of all times to be sure. When I die I want to be sure that I am among family and friends.

Koyama, Ritsu 1885-1927. Shikazo 1876-1969. The wooden marker was finally replaced by a real stone with block letters, handsome numbers and a border of roses but since none of us live in Vancouver the grass grows over it freely, making it hard to locate. Grandchildren are on their knees, pulling away dead grass, brushing dirt from the crevices between the numbers and letters.

"Maybe if we wet it, it'll shine."

Out come the crumpled kleenexes and my sister traces the letters KOYAMA as she wipes the stone clean and shining. My mother takes her mother by the arm to place a pink carnation by the stone of their friend, Kawashiri.

The ground is wet and muddy in places.

Photograph. "Maybe if we all lie down beside it, it'll look like an upright stone."

The flowers we leave are pink and white and purple.

* * *

Toronto's Mount Pleasant Cemetery is huge and small roads crease its greenery and quiet like a maze. Trees hang over into the roads, throwing long shadows across the grounds, across large stones, small stones, water faucets, plastic flowers, real flowers, ceremonies and their people. Fathers talk about games of golf. Under one tree lies my grandfather, displaced and uprooted from his Vancouver, to the Toronto that most of his 46 grandchildren call home.

* * *

My friend Maya is interviewing my grandmother about her life in Canada. Because Maya speaks Japanese, my grandmother's life and history come alive and the two can have a few laughs and share some secrets together. Because my mother is the daughter, they have their own thing together but it's not important enough to them to tell us their stories. When you're too busy living your life, you have no time to write or tell about it and it's much too early to see what the consequences will be. Their children have been spending their time listening to stories in other peoples' houses and it's usually pretty late by the time they come home and see that one such story has been unfolding in their own homes, over small talk, while preparing dinner, in the way their parents move and talk and what makes them move.

THE NEW CANADIAN

Friday, December 29, 1978

Section III

Season's Greetings

TORONTO BUDDHIST CHURCH

Dr. Shinei Shigefuji
Rev. Fukashi Nakatsumi
And Congregations

With Our Appreciation
For Your Constant Support
And Co-operation

NATIONAL J. C. C. A.

TORONTO, ONT.

Season's Greetings

IZUMI MISHO-RYU
IKEBANA KENKYU-KAI

Toronto, Ontario

Season's Greetings

KYODA PLASTICS LTD.

1407 Shawson Drive
Mississauga, Ont. L4W 1C4
Tel. (416) 677-7222

Kent Oda Dave Misumi Ken Oda

Season's Greetings

PORTS
INTERNATIONAL
LIMITED

22 FRONT STREET WEST,
TORONTO 1, ONT.
MR & MRS. LUKE TANABE
AND FAMILY

Season's Greetings

JIM MORITA TEXACO SERVICE

1286 College Street At Lansdowne
TORONTO, ONTARIO
PHONE 534-0100

Season's Greetings

K. IWATA TRAVEL SERVICE

HEAD OFFICE: 1115 EAST HASTINGS ST., VANCOUVER, B.C. TEL: 254-5101
PRESIDENT: ROBERT K. IWATA

TOUR DIVISION: 1040 WEST GEORGIA STREET, VANCOUVER, B.C. V6E 3C8 (684-5101) TELEX 04-54369 MR. HIDE NISHI
TORONTO OFFICE: 162 SPADINA AVENUE, TORONTO, ONTARIO M5T 2C2 (869-1291) TELEX 062-3636 MR. KEN KUTSUKAKE

Season's Greetings

RITZ KINOSHITA, C.L.U.

Manufacturers Life Insurance Co.
representative

6 Thorncliffe Square
Overlea Blvd. Toronto 17

TEL: 421-9450 RES: 759-2632

May We Wish To All Our Friends
A Very Merry Christmas
And A
Happy & Prosperous New Year

MITSUBISHI CANADA LTD.

Season's Greetings

International Customs Brokers Ltd.

60 SHORNCLIFFE ROAD, TORONTO, ONTARIO
M8Z 5K1
PHONE 231-4192

Forwarding Agents, Customs Consultants,
Air Cargo Agents

Service across Canada and around the world

Season's Greetings

NEW ORIENT EXPRESS
OF TORONTO LTD.

TEL. (416) 363-3409

JAMES E. NOSE, GENERAL MANAGER

45 RICHMOND ST. WEST, TORONTO M5H 1Z2

A Spiritualist ?

Who determined the destiny of the Japanese in Canada?

By MIKE HOSHIKO

The destiny of the Japanese in Canada may have been determined on Dec. 17, 1874, three years before the first Japanese arrived in Canada, when William Lyon MacKenzie King was born. He was to become the head of Canada's Liberal Party and its Prime Minister for a longer period than any other statesman in the history of the British Commonwealth, and was the chief architect of Canada's policy in regard to the Japanese.

His influence began with his appointment as deputy minister of labour by Sir Wilfrid Laurier in 1900, continued when he was elected to Parliament in 1908, and grew when he became Minister of Labour in 1909 and Prime Minister in 1921. But what I would like to comment on is the significance of his policy-making role starting at the turn of the century when Japanese immigration really got rolling.

Since the Japanese were latecomers as immigrants, they faced considerable hostility from the whites who had arrived earlier. In 1907, the Asiatic Expulsion League was formed in Vancouver to get rid of the "yellow peril." The crowd attending a League protest meeting on the morning of Saturday, September 7, 1907, became wild and unruly, left the meeting and headed for nearby Japanese Town. When the immigrants who lived there woke up that morning, they were quiet, restrained people, but by nightfall they had stopped turning the other cheek, and were hurling bottles, bricks, stones and anything else they could get their hands on at the white mob that stormed down Powell Street, breaking windows of homes and shops. A pitched battle developed and there were bloodied heads and other casualties. The invaders, were caught off guard by the ferocity of the defenders, and were forced to retreat and regroup. Meanwhile, the police rushed in to take control. When the fighting was over, fifty-nine buildings were wrecked and the Japanese language school had been set on fire. The next day, Japanese community leaders went to the Chief of Police and asked that the police stay out and let the Japanese patrol the area themselves.

In the aftermath of this event, MacKenzie King was appointed by the Canadian Privy Council as a one-man commission to conduct an inquiry into the losses suffered by the Japanese residents. About forty years later, similar hearings were held to determine property losses incurred by the Japanese during the World War II evacuation. MacKenzie King arrived on October 22, 1907, from Ottawa, and studiod the evidence for eleven days. He then recommended awards totaling $9,036.00, of which $1,523.60 was for actual damages, and $7,512.40 for resultant losses. An additional $139.00 was paid to the claimants for legal expenses. It was recommended that the Japanese Consul receive $1,600.00 for his help in preparing the claims, but the offer was graciously refused.

During the investigation, MacKenzie convinced the federal authorities that a study should be made as to why so many Japanese had entered Canada in 1907. As a result, on November 5th, 1908, he was appointed to a second commission to report on Japanese immigration. According to the commission's "official statistics," during the first ten months of 1907, 8,125 Japanese entered the country. But this was a spurious figure, since many were entering from Hawaii en route to the United States, or were previous immigrants returning to Canada after a visit to Japan. Of the 8,125, seventy-seven were rejected and returned, 3,619 had passports to the United States, and 900 were "contract labour" who were being brought in by the Canadian Nippon Supply Co. (The officers of this company were two prominent Vancouver businessmen and the attorney-general of British Columbia.) An estimated 300 were already domiciled in Canada. Of the remaining 441, 151 intended to go to the United States, but were rejected at the border and therefore decided to go to the United States, but were rejected at the border and therefore decided to settle in Canada, and about 100 were merchants, students, travelers and officials who would normally remain in the country for only a limited time. That left about 190 who, strictly speaking, had entered as immigrants.

McKenzie King's study elevated the issue to a diplomatic level and resulted in the so-called "Gentlemen's Agreement" with Japan, and the Canadian Order-In-Council of January 8, 1908, which required all prospective immigrants to come by continuous voyage from the land of their birth or citizenship, on a through-passage paid for in the country of origin. The final adoption of the Gentlemen's Agreement reduced the total number of immigrants to 400 per year. This figure was decreased in 1923 and 1928, and finally lowered to zero in 1941. King had ushered in a policy that completely controlled the movement of all Japanese into Canada, and resulted in many restrictions such as those against voting and entering professions, and eventually led to the evacuation.

During the years that followed, immigration was so restricted that when the RCMP registered all Japanese in March of 1941, they registered 6,255 Japanese who were born in Canada, 6,892 naturalized Canadians, 9,676 Japanese citizens and 14 U.S. citizens, making a total of 22,837 Japanese. MacKenzie King did a terrific job of limiting the Japanese population in Canada.

In 1944, MacKenzie King made another attempt - his last - to restrict the Japanese in Canada. On August 5, 1944, he told the House of Commons, "... the government is of the view that, having regard to strong feeling that has been aroused against the Japanese during the war and to the extreme difficulty of assimilating Japanese persons in Canada, no immigration of Japanese into this country should be allowed after the war. . ."

Let us examine this man, William Lyon MacKenzie King.

CONT. ON P. 4.

Season's Greetings

TOM'S TELEVISION

1055 MIDLAND AVENUE (Oriole Plaza) SCARBOROUGH, ONTARIO

759-1583

RCA SALES & SERVICE ZENITH

TOM S. IWAMOTO

SEASON'S GREETINGS FROM THE JAPANESE CANADIAN CULTURAL CENTRE

123 Wynford Drive/Don Mills/Ontario

King.

Cont. from Page 3

After a rather ordinary high school record, he graduated from the University of Toronto, and went to do graduate work at the University of Chicago. Later, with a travelling fellowship from Harvard in political economy, he spent some time studying in Europe. By 1917, his mother (the only woman in his life), his blind father, his brother MacDougal, and his sister Isabel were all dead. He was now a lonely bachelor with no family nor intimate friends. Although by this time he could afford a wife, it was said that he was "too self-centered for marriage and did not miss its satisfactions." His ideal of a wife was a woman of means, who could support and enhance her husband's career, be beautiful and educated, politically wise, cultured and a lover of the outdoors, but not one of "those doggy women in tweed and low heels."

It was in this psychological state of loneliness that he turned to spiritualism for comfort through communication with his dead family, especially his mother. His first attempt at contacting beyond the grave was probably through Mrs. Etta Wriedt of Detroit. King actually believed that it was possible to communicate with the dead, and he claimed to have "talked" with his mother many times, as well as with his father, brother, sister and friends such as Franklin D. Roosevelt, Sir Wilfred Laurier, etc. King's favorite medium was Helen Hughes of London, through whom, on one occasion he reportedly communicated with his sister as well as with his pet dog Pat, an Irish terrier which had died recently. Miss Mercey Phillimore, secretary of the friends Spiritualist Alliance who arranged many of King's sittings, said that King never asked his mother for advice on affairs of the state. She felt that King knew more about that subject than his mother, but news that King regularly consulted with his dead mother was kept a secret since such a fact would have been political suicide. On the other hand Hitler, another leader from Berlin, Germany who also believed in psychic phenomena reportedly relied heavily on spirit communication for major decisions. Psychics who were consulted by King have generally agreed that King consulted them mainly on intimate family affairs and other "private" matters which they have refused to disclose. In any event, if King had received any advice from his mother for that Aug. 5th, 1944 speech, the psychics were right in stating that she was a poor judge in regard to the "affairs of state".

Season's Greetings

SONY®

SONY OF CANADA LIMITED

88 Horner Ave.,
Toronto, Ontario
M8Z 4X8

Season's Greetings

Moir Engraving Company Ltd.

52 McCaul Street
Toronto, Ont.
Phone 598-3455

"Save on Quality Printing Plates"

Proprietors Tosh Nagano & Ron Graham

Season's Greetings

DAVE'S T.V. SERVICE

33 AMEER AVE., TORONTO M6A 2L2, Ont.
PHONE 781-2810

MR. & MRS. DAVE AZUMA
& FAMILY

Season's Greetings

Yamashita-Shinnihon Line
Steamship Co., Ltd.

159 Bay St., Toronto, Ont. M5J 1J7
Tel. 364-6881

S. OKANIWA

Season's Greetings

PARAMOUNT GIFT SHOP

733 Danforth Ave., Toronto
M4J 1L2

Ross, Judy and Jamie Ogaki
Mr. & Mrs. Tsutomu Nakano

Season's Greetings

HYLAND FLOWERS

540 Eglinton Ave., West, Toronto
Phone 489-4654

DAVID, RICHARD, MIDORI AND DOUGLAS
JON & MARTHA ONODERA

Season's Greetings

SHARON'S FLORIST

942 PAPE AVENUE, TORONTO, ONTARIO
Phone 425-2122

Peter (Lefty) Sasaki

Season's Greetings

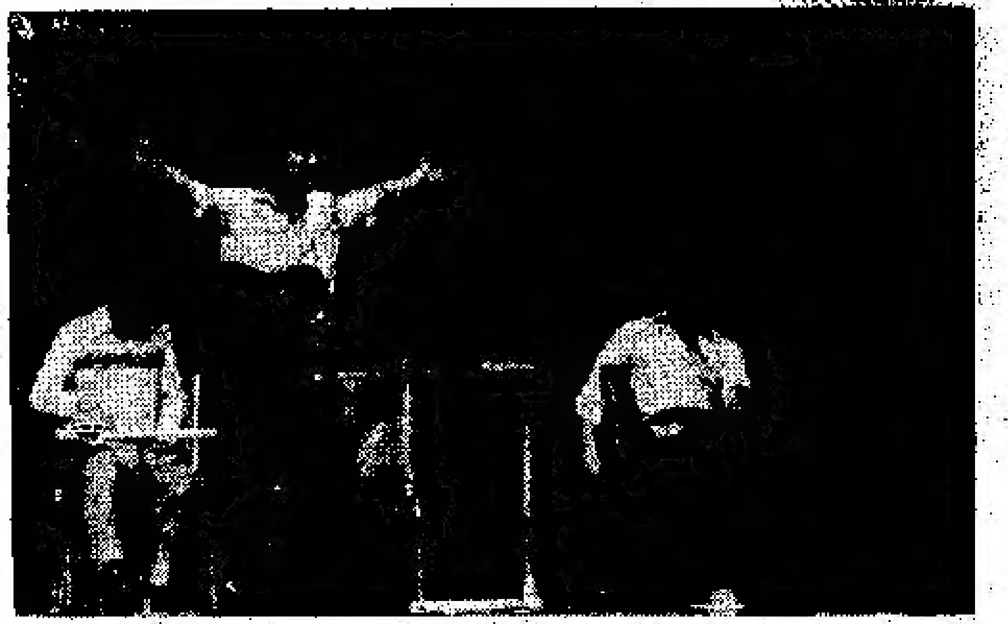
7-5-3 GARDEN ENTERPRISE

Willowdale and Richmond Hill, Ont.
Design and construction by Japanese Landscape Architects and Horticulturists, Residential, Commercial and Industrial

PHONE 225-7836

a member of Landscape Ontario, a member of Toronto Home Builders Assn. AWARD WINNING GARDENS

President – Mamoru & Hanae Nishi
Yonezo Fujita, Kazuo Kusanagi,
Hiroshi Takeguchi, Kazuyuki Maya



T.T. Watada: Runaway Horses

TORONTO. — T.T. Waiada (arms akimbo) singer and writer from Toronto, Ontario is the first Sansei in Canada to record an album, Runaway Horses. He will soon be releasing his second album Birds on the Wing on Windchime Records.

Birds on the wing

By T.T. WATADA

blue skies stretching,
the moon pale yellow bright.
 Pacific stretching hope
high winds gusting strong
 Yellow mouths talking dreams
birds on the wing,
burning in the evening sun.
 Hatred by the hated
clear songs rise like flighted fire

celebrate the music
celebrate the music
and maybe you'll find
the inner light -
 Stripes and star eyes void of sight
 Burn John burn
 Flare up bright in the night

music drifting,
unfurling the strapped-down wings.
 Kenji laughing death
brutal streets left behind
 Emi waiting loveless
birds on the wing,
burning in the evening sun.
 Searching for the heart
long fall down the cold black dive
celebrate the music
celebrate the music
and maybe you'll find
the inner light -
 Stripes and star eyes void of sight
 Burn John burn
 Flare up bright in the night
singing love
to the heavens
gleaming eyes
made of night

burn john burn
flare up bright
in the night
burn john burn

We Extend Our Sincere Best Wishes For 1979. May This Year Be Both Enjoyable And Rewarding For All Readers Of: "The New Canadian"

FROM THE MANAGEMENT AND ALL EMPLOYEES

SUZUKI CANADA LIMITED
155 ST. REGIS CRESCENT
DOWNSVIEW, ONTARIO
M3J 1Y6

SUZUKI

Season's Greetings

NISSHO-IWAI CANADA LTD.

1 First Canadian Place, Suite 4040
Toronto, Ontario M5X 1A9

Season's Greetings

JAPAN NATIONAL TOURIST ORGANIZATION
TORONTO OFFICE
DIRECTOR: TAMOTSU YAMANOUCHI
AND STAFF

JNTO

165 University Ave., Toronto, Ont. M5H 3B8 Tel: 366-7140

Season's Greetings

謹賀新年

JAPAN FOOD CORPORATION (CANADA) LTD.

3081 Universal Drive,
Mississauga, Ont. L4X 2E2

Birds On The Wing. . .

Nightclouds

By T. T. Watada

a flock of
wild boys
swarming up a hill
towards home heralds
the approach of
dusk
the darkness creeps
across
building faces
one by one curtain
eyes close
and unseen beasts wail
from
distant corners every corner
eerie
to the rhythm of
drumming trash cans
and dancing news paper

and in the
deeper black
that is bed sheets
ocean flesh
swells and
collapses with the need for breath

with white-
capped skin
glistening
by the light of the moon
i know
upper winds begin to
rip apart
the nightclouds

Season's Greetings

We Appreciate Your Most Generous Support

皆様方の理解ある御芳情に支えられまして
ホーム在住者一同心豊かなる日々を重ね得られます事を
謹しんで感謝申し上げます

ACTING SUPERINTENDANT Shinichi Sawada
RESIDENTS AND STAFF
BOARD OF DIRECTORS
W. Harms, T. Hiramatsu, J. Kawaguchi, Mrs. B. Naruse, H. Yoshida, J. Oki, M. Sumiya, K. Suyama, R. Takimoto, Y. Tsuchiya, J. Taguchi, T. Yoshida

HOME FOR AGED JAPANESE CANADIANS
NIPPONIA HOME
R.R. NO. 3
Beamsville, Ont.

Season's Greetings

MELL REAL ESTATE LIMITED
2006 Lawrence Ave. East
Scarborough, Ont.
Phone 757-5184
Tosh Iwai — President

Season's Greetings from the Kadonaga Family

japanese restaurant/tavern Nikko

460 Dundas Street West Toronto, Ontario, Canada M5T 1G9 TEL. 366-2164

Two Poems By Joy Kogawa. . .

The Year 1942

By JOY KOGAWA

1942
we descend the shaft
the journey is underground
the darkness is so dense
it is almost solid
circumscribed by the memory
of the light

the weight of the darkness
is the consciousness
of the absense of light

i am no longer certain
whether this is a cluttered attic
a waiting room, a tunnel, a train
no clock marks
the passing of the hours
there is no beginning no
end to the forest
or the dust storm no
edge from which to know
where the clearing begins

here in this familiar density
beneath this cloak within
ths carapace is the
longing within the darkness

much longing makes
the corridor walls break
the journey is multidirectional

1942

we are leaving the B.C. coast
rain
cloud
mist
an air overladen
with weeping

behind us lies
a salty sea
within which swim
our drowning specks of memory
small waterlogged eulogies

we are trundling down to
middle earth with
pick axe eyes
tunnelling by train

to the Interior
carried along by the
momentum of the expulsion
between paradise and the apocalypse
into the waiting wilderness
we are hammers and chisels
in the hands of would-be sculptors
battering the spirit
of the sleeping mountain

we are the chips and sand
the fragments of fragments
that fly like arrows
from the heart of the rock
we are the silences
that speak from stone
we are the spaces
between subject and object
in a dualistic imagination
we are the despised rendered voiceless
stripped of car, radio, camera
and every means of communication
a trainload of eyes
covered with mud and spittle
sent to Siloam
the pool called 'sent'
sent to the sending
that we might bring sight
we are the silent watchers
hurled from the land of the blind
sacrificed on the altar
of the blind god of the blind
we are the superior and sub-human
the scholarly and the illiterate
the envied and the ugly
the fierce and the docile
we are those pioneers
who cleared the bush
and the forest with our hands
we are the Findhorn community of Canada
with our special strawberry and vegatable gnomes
tending and attending the
soil with our tenderness
we are desperate and unrequited lovers
giving gifts to the thieves
who steal our land
offering our widow's mite
to the Fraser Valley Flood Relief fund
we are the fishermen
who are flung from the sea
to flounder in the dust
of the prairies

we are the Issei
and the Nisei and the Sansei
the Japanese Canadians
plundered and ravaged
who disappeared into the future
undemanding as dew
we have gone and we are going
with dignity and grace
fragrant as the gardens we once tended
sturdy as the boats we once built
generous and gentle as our thoughtful hands
and enduring as the honour
that attends our departing

the quality of our spirit, Minasan
is the measure of our greatness
Omedeto, my people
we have not failed

The Day After

By JOY KOGAWA

The day after Sato sensei
received the Order of Canada he
told some former pupils in Ottawa
the honour he received
was their honour, their glory
their achievement

and one former pupil remembered
the time Sensei met the Emperor
and was given a rice cake
how he brought it back to Vancouver
took it to a baker and
had it crushed into powder
so that each pupil might
receive a tiny bit

and someone suggested
he take the Order of Canada medal
and grind it to bits
to share with them

SEASON'S GREETINGS

ST. JOHN'S CLEANERS
AND SHIRT LAUNDERERS

George & Pat Kitamura
2215 DUNDAS ST. W., TORONTO
532-6714

Season's Greetings

TRUWAY ALIGNMENTS
Steering Corrections and Mechanical

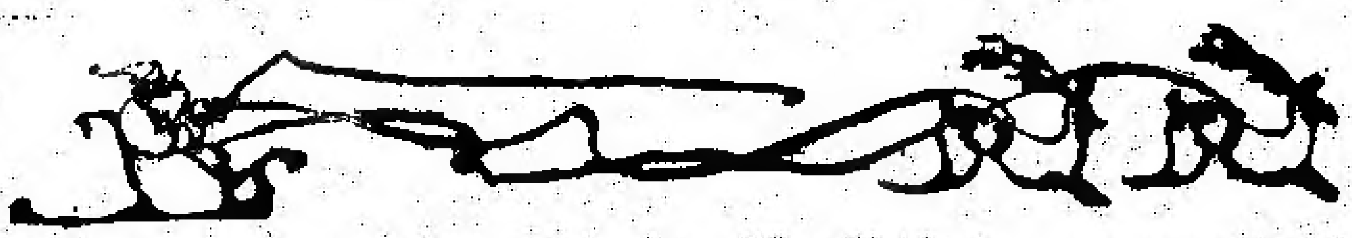
Ki Konishi
R. Currie – David Konishi
1251 Queen St. East, Toronto
Phone 465-9790

Season's Greetings

VERNON TOYOTA CENTRE LTD.

4376 – 27th St. VERNON, B.C.

SAKAKIBARA BROS.
Tosh, Ak, Yosh, Ken & Len



PRINCE HOTELS INTERNATIONAL

900 York Mills Road at Don Mills Road
Don Mills - Ontario - M3B 3H2